

觀音寺遺跡(V)

道路改築事業(徳島環状線国府工区)関連埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 0 8

徳島県教育委員会
財団法人 徳島県埋蔵文化財センター

觀音寺遺跡(V)

道路改築事業(徳島環状線国府工区)関連埋蔵文化財発掘調査報告書

2008

徳島県教育委員会
財団法人 徳島県埋蔵文化財センター



218号木簡（物忌札）出土状況



221号木簡出土状況

卷頭圖版 2

二一八号木簡 (1 / 3)



二一九号木簡 (2 / 3)



二二一號木簡 (2 / 3)



二二〇号木簡 (2 / 3)



二二二號木簡 (2 / 3)



木簡 (保存處理前)

序 文

本書は道路改築事業（徳島環状線国府工区）の実施に伴い、県からの委託により、平成19年度に調査を実施した徳島市国府町に所在する觀音寺遺跡の発掘調査の成果をまとめたものであります。

当遺跡の調査では、これまでに刊行されています『觀音寺遺跡Ⅰ（觀音寺遺跡木簡篇）』や『觀音寺遺跡Ⅱ（觀音寺遺跡木器篇）』（以上国土交通省南環状道路）、『觀音寺遺跡（IV）』におきまして、飛鳥時代から平安時代までの木簡をはじめとした多くの遺物の出土により、阿波における国府の実態を解明する上で大きな成果をあげました。本書では平安時代の「物忌札」をはじめとした木簡や木製祭祀具など、さらに新しい資料が加わっておりまます。

これらの成果をまとめた本書が阿波の古代史を考える資料として活用され、埋蔵文化財に対する関心と理解を深める一助となれば幸いです。

なお、発掘調査の実施および報告書の作成にあたり、徳島県土整備部道路建設課および東部県土整備局をはじめ、関係各機関ならびに地元の皆様に多人なご協力・ご指導をいただきました。ここに深く感謝の意を表すとともに、今後も変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2009年3月20日

財團法人 徳島県埋蔵文化財センター
理事長 福家清司

例　　言

- 1 本書は、道路改築事業（徳島環状線国府工区）に伴って、平成19年度に実施された、徳島市国府町観音寺に所在する観音寺遺跡の発掘調査の成果をまとめたものである。
- 2 発掘調査および整理業務は、徳島県土整備部都市道路整備局（現東部県土整備局）より委託を受けた徳島県教育委員会文化財課が、（財）徳島県埋蔵文化財センターに再委託を行って実施した。
- 3 方位の表示は、国土座標第IV座標系の北、高さは東京湾標準潮位（T.P.）を表す。
- 4 第2図の地形図は、国上地理院発行の1:25,000の地形図「石井」を縮小転載、加筆したものである。第3図の地形図は、徳島市発行の1:2,500都市計画図を縮小転載、加筆したものである。
- 5 各遺構を示す記号は、（財）徳島県埋蔵文化財センターが定めたものを使用した。
SR：自然流路・旧河川
- 6 本書で用いた土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄「標準土色帳 2001年度版」（日本色研事業株式会社）に拠った。
- 7 木製品の分類は、『木器集成図録 近畿原始篇』（奈良国立文化財研究所 1993）と『木器集成図録 近畿古代篇』（奈良国立文化財研究所 1994）を基準にし、大橋育順が行った。また鉄鎌の分類は、杉山秀宏 1988「古墳時代の鉄鎌について」『櫛原考古学研究所論集』第八、吉川弘文館を参考に分類を行った。
- 8 本書の執筆は、第1分冊のI章－1・木村哲也、氏家敏之、II章・氏家敏之、それ以外を大橋育順が担当し、大橋が編集した。文責は末尾に記してある。但し、VI章－2については、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所への「徳島市観音寺遺跡（阿波國府推定地）出土木簡の総合的研究業務委託」の成果報告（都城発掘調査部史料研究室 渡辺晃宏氏作成）をもとに大橋が作成し、京都教育大学名誉教授 和田 萃氏に加筆・監修していただいた。VI章－6は和田 萃氏に玉稿を賜った。
- 9 写真図版は、遺構および遺物の出土状況については発掘調査の担当者が、出土遺物の写真については大橋育順が撮影を行い編集した。木簡の写真は独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所の中村一郎氏が撮影した。
- 10 遺物觀察表は、大橋育順が作成した。
- 11 本書に掲載した実測図・遺物写真は保存処理前のものである。

- 12 木簡の保存処理は、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所への「徳島市觀音寺遺跡（阿波國府推定地）出土木簡の総合的研究業務委託」の一環として実施した。委託には形状確認、叢文の作成、写真撮影が含まれる。
- 13 調査・整理にあたっては、次の機関および個人のご協力・ご指導を得た。
文化庁・独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・国立歴史民俗博物館・徳島県東部県上整備局
浅野啓介・市 大樹・馬場 基・山本 崇・渡辺晃宏（敬称略・五十音順）
- 14 本書に収録した出土遺物および図面や写真などの記録の一切は、徳島県板野郡板野町大伏字平山86番2に所在する、徳島県立埋蔵文化財総合センターにおいて保管している。
- 15 平成19年度は、徳島環状線国府工区部分と国道192号線部分に分かれて調査した。本書は徳島環状線国府工区部分の調査報告書である。整理作業にあたっては07TSKJ-1の遺跡記号をふった。

凡　例

- 1 掲載した出土遺物の実測図は、原則として $S=1/4$ であるが、一部例外として $S=1/2$ 、 $1/8$ のものがある。各図版には、スケールを貼付してあるので参照されたい。
- 2 各木製品の実測図で、木目は平面図・側面図には記入せず、断面図に記してある。ただし、断面が2ヶ所以上になる場合は、1ヶ所にのみ木目を記入し、それ以外は外郭線のみを記した。
- 3 木製品の表面に残存している樹皮、焼き印、漆膜、炭化部分は、網掛けにより表している。

■：樹皮 ■：焼き印 ■：漆膜 ■：炭化部分

また、遺物出土位置図には次の記号を使用している。

▲：木製品 ●：土器 ★：木簡 ■：その他（石製品・鉄製品）

- 4 斎中の両側にある矢印は、刃物による切り込みの方向とその範囲を示している。なお、付してある数字は、矢印の範囲における切り込みの回数を示している。ただし、1回のみの場合は数字を付していない。
- 5 調査区は「觀音寺遺跡（IV）」（（財）徳島県埋蔵文化財センター 2008）において報告した自然流路（SR3001）に含まれるが、調査時の区名を生かし、各層位ごとに遺物出土位置図を掲載した。これらは第IV系国土座標を表記することで、絶対位置と方位に代えている。

本文目次

I	発掘調査及び整理業務に関する経緯と経過	
1.	発掘調査の経緯と経過	
(1)	調査にいたる経緯	3
(2)	調査の経過	3
(3)	調査の方法	3
2.	整理業務の方法と経過	4
3.	発掘調査・整理業務の体制	4
4.	調査日誌抄	5
II	遺跡の立地と歴史的環境	
1.	遺跡の立地	9
2.	歴史的環境	11
III	遺跡の地形と基本層序	
1.	遺跡の地形	17
2.	基本層序	17
IV	調査成果	
1.	遺構配置	23
2.	木製品の分類について	23
3.	出土層位と遺物	24
V	まとめ	
1.	自然流路の堆積年代について	85
2.	観音寺遺跡における自然流路の変遷について	86
VI	木簡	
1.	木簡の出土状況	4
2.	出土木簡の観察と釈文	4
3.	木簡状木製品	7
4.	出土木簡の製作と廃棄の特徴について	12
5.	まとめ	16
6.	観音寺遺跡（西環状線地点）出土木簡について（和田 荘）	17

挿図目次

- 第1図 観音寺遺跡位置図
第2図 観音寺遺跡周辺の遺跡

- 第3図 徳島環状線国府工区・路線と觀音寺遺跡調査区
第4図 調査区・グリッド配置図
第5図 3区西（西壁）土層断面図
第6図 3区西（南壁）土層断面図
第7図 3区西（東壁）土層断面図
第8図 3区西5層遺物出土位置図
第9図 3区西5層出土遺物
第10図 3区西6層遺物出土位置図
第11図 3区西7層遺物出土位置図
第12図 3区西6層出土遺物
第13図 3区西7層出土遺物
第14図 3区西8層遺物出土位置図
第15図 3区西8層出土遺物
第16図 3区西9層・10層遺物出土位置図
第17図 3区西11層遺物出土位置図
第18図 3区西9層出土遺物
第19図 3区西10層出土遺物
第20図 3区西11層出土遺物
第21図 3区北6層出土遺物
第22図 3区北7層出土遺物
第23図 3区北8層出土遺物
第24図 3区北9層出土遺物
第25図 3区北11層出土遺物
第26図 3区東（西壁）土層断面図
第27図 3区東（東壁）土層断面図
第28図 3区北・東（北壁）土層断面図
第29図 3区北・東3～6層遺物出土位置図
第30図 3区東3層出土遺物
第31図 3区東5層出土遺物
第32図 3区東6層出土遺物
第33図 3区北・東7層遺物出土位置図
第34図 3区東7層出土遺物(1)
第35図 3区東7層出土遺物(2)
第36図 3区東7層出土遺物(3)
第37図 3区北・東8層遺物出土位置図
第38図 3区東8層出土遺物(1)
第39図 3区東8層出土遺物(2)
第40図 3区東8層出土遺物(3)

- 第41図 3区北・東9層遺物出土位置図
- 第42図 3区東9層斎串出土状況図
- 第43図 3区東10層上面（9層掘削後）の地形図
- 第44図 3区東9層出土遺物（1）
- 第45図 3区東9層出土遺物（2）
- 第46図 3区東9層出土遺物（3）
- 第47図 3区北・東10・11層遺物出土位置図
- 第48図 3区東10層出土遺物（1）
- 第49図 3区東10層出土遺物（2）
- 第50図 3区東11層出土遺物
- 第51図 3区東12層遺物出土位置図
- 第52図 3区東12層出土遺物（1）
- 第53図 3区東12層出土遺物（2）
- 第54図 3区東12層出土遺物（3）
- 第55図 3区東13層遺物出土位置図
- 第56図 3区東13層出土遺物
- 第57図 3区東14層遺物出土位置図
- 第58図 3区東14層出土遺物（1）
- 第59図 3区東14層出土遺物（2）
- 第60図 3区東15層遺物出土位置図
- 第61図 3区東15層出土遺物
- 第62図 3区東出土遺物
- 第63図 E区（北壁）土層断面図
- 第64図 E区A層遺物出土位置図
- 第65図 E区B層遺物出土位置図
- 第66図 E区C層遺物出土位置図
- 第67図 E区D層遺物出土位置図
- 第68図 E区A層出土遺物
- 第69図 E区B層出土遺物
- 第70図 E区C層出土遺物
- 第71図 E区D層出土遺物
- 第72図 E区F層出土遺物
- 第73図 E区G層出土遺物
- 第74図 E区H層遺物出土位置図
- 第75図 E区I層遺物出土位置図
- 第76図 E区H層出土遺物
- 第77図 E区I層出土遺物
- 第78図 E区出土遺物

- 第79図 8世紀前半までの自然流路
 第80図 8世紀半ば以降の自然流路
 第81図 自然流路の復元図（推定）
 第82図 出土木簡・木筒状木製品出土位置図
 第83図 出土木簡実測図①・木筒状木製品実測図
 第84図 出土木簡実測図②

表 目 次

- 表1 出土木製品観察表
 表2 出土土器・土製品・その他観察表
 表3 観音寺遺跡主要木簡一覧表
 表4 出土木筒観察表
 表5 出土木筒状木製品観察表
 表6 観音寺遺跡（西環状線地点）出土木簡番号・整理番号対応表（87号～222号木筒）

写 真 目 次

- 巻頭カラー図版
 巷頭図版1 218号木筒（物忌札）出土状況
 221号木筒出土状況
 巷頭図版2 木筒（保存処理前）

- 写真図版
 図版1 竹串出土状況（3区東9層）
 竹串出土状況（3区東9層）
 人形出土状況（3区東8層）
 図版2 竹串出土状況（3区東9層）
 題籠輪出土状況（3区東12層）
 刀子出土状況（3区東12層）
 図版3 墓普土器出土状況（3区東8層）
 土器出土状況（3区東9層）
 土器出土状況（3区西11層）

- 図版4 3区東 北壁土層堆積状況
3区東 東壁土層堆積状況
3区東 完掘状況(東から撮影)
図版5 3区西5層・6層出土遺物
図版6 3区西7層・8層出土遺物
図版7 3区西9層・10層出土遺物・11層出土遺物(1)
図版8 3区西11層出土遺物(2)
図版9 3区北6～9層・11層出土遺物
図版10 3区東3層・5層・6層出土遺物
図版11 3区東7層出土遺物(1)
図版12 3区東7層出土遺物(2)
図版13 3区東7層出土遺物(3)・8層出土遺物(1)
図版14 3区東8層出土遺物(2)
図版15 3区東8層出土遺物(3)
図版16 3区東9層出土遺物(1)
図版17 3区東9層出土遺物(2)
図版18 3区東9層出土遺物(3)
図版19 3区東10層出土遺物(1)
図版20 3区東10層出土遺物(2)・11層出土遺物
図版21 3区東12層出土遺物(1)
図版22 3区東12層出土遺物(2)
図版23 3区東12層出土遺物(3)
図版24 3区東12層出土遺物(4)・13層出土遺物
図版25 3区東14層出土遺物(1)
図版26 3区東14層出土遺物(2)・15層出土遺物・3区東出土遺物
図版27 E区A～C層出土遺物
図版28 E区D層・F層・G層出土遺物
図版29 E区H層・I層出土遺物・E区出土遺物
図版30 木筒(216号～217号)・木筒状木製品
図版31 木筒(218号～222号)

I 発掘調査及び 整理業務に関する経緯と経過



1 発掘調査の経緯と経過

(1) 調査にいたる経緯

徳島市の幹線道路は、国道11号、55号、192号が市街地中心部で交差していることから、交通渋滞が慢性化しており、こうした事態を解消するため、徳島市街地を環状に巡る延長約35kmの徳島外環状道路の整備が計画された。そのうち、徳島環状線国府工区は徳島県県土整備部を事業主体とし、平成7年度より地城高規格指定、平成13年度に都市計画決定を受けている。路線延長は徳島市国府町観音寺の国道192号から主要地方道徳島鴨島線に至る約1.5kmである。

当該地域は、阿波國府跡を中心とする条里地割りが残存し、古代・中世と県内で最も濃密に遺跡が分布する地域である。本路線の南に接続する国道192号徳島南環状道路では、平成4年度より建設工事に先立つ発掘調査が実施されているとともに、平成9年度の当該工区の試掘調査においても、全域に古代から中世に至る遺跡の存在が判明した。

発掘調査は年次ごとの事業の進捗に伴い、徳島県県土整備部都市道路整備局(現東部県土整備局)が、徳島県教育委員会文化財課へ依頼し、県の委託を受けた財団法人徳島県埋蔵文化財センターが、平成10年度から19年度の10ヶ年間にわたり順次実施した。平成10年度から15年度は、大規模面積の調査となつたことから、効率化を図るために工事請負方式を採用し、併せて測量及び、実測作業の効率化を図るために空中写真撮影図化を導入して調査にあたった。平成16年以降は徳島県埋蔵文化財センターが直當方式で調査にあたり、平成19年度の調査については、本線内の未調査部分と国道192号との交差点左折レンジの拡幅部分の調査を実施した。

尚、遺跡名については、一連の「観音寺遺跡」の呼称を継承することとした。(木村)

(2) 調査の経過

発掘調査は平成10年度より着手され、以後国府工区内は平成19年に至るまで、用地の取得状況に合わせて継続して行われている。

調査の進展に伴い、JR四国・徳島線付近を境として、南側に古墳時代から古代にかけての流路や水田が拡がっており、北側には古墳時代の集落が主に存在することが判明してきたため、JRの線路を境界にして北側を敷地遺跡、南側を観音寺遺跡に便宜的に分けていくこととした。敷地遺跡のほぼ中央部を、東西に横切る県道平島国府線に沿うようにして、西大堀川が敷地遺跡を分断していることが確認できたため、南側を敷地遺跡Ⅰ群、北側を敷地遺跡Ⅱ群として捉えることとした(第3図)。(氏家)

(3) 調査の方法

発掘調査にあたっては隣接する国道192号徳島南環状道路の調査に伴い、第IV系国土座標網を基準とした、大規模なグリッド設定が行われていたことから、今回の調査についても、これを利用することとした。そのため基準となる座標の位置は、X=116,000、Y=89,500の交点を基点として用いている。

まず、一辺を500mとするグリッドで区切り、基点から北にアルファベット大文字(A、B、C……)、同じく基点から東にアラビア数字(1、2、3……)をそれぞれ付けることで、大グリッドの絶対位置を表した。さらにこのグリッド内を100mごとに区切って、南から北へ、ギリシャ文字(α、β、γ、δ、ε)、西から東へは、ローマ数字(I、II、III、IV、V)として、中グリッドを設定している。中グリッ

ドをさらに細分して5mごとに区切って、南から北へは、アルファベット(A、B、C……T)、西から東へは、アラビア数字(1、2、3……20)として、小グリッドを設定して、調査を行うとした。なお、大グリッドと小グリッドが、混同する様ないように、大グリッドには頭の部分に「Location」の略号として、「Loc.」を付けることとし、Loc.G-1(大グリッド)β-II(中グリッド)A-3(小グリッド)というような表現で、絶対位置を表すようにした(第3・4図)。

また調査区の名称と層位については、調査時の名称をそのまま使用している。今回の報告対象となるのは3区・E区である。3区の中でも掘削時期の違いにより3区北、3区西、3区東と区別して表記した。(大橋)

2 整理業務の方法と経過

『觀音寺遺跡(V)』の整理作業は、平成20年度より0.5班体制で取りかかり、木製品の洗浄・実測・トレース作業・写真撮影、土器・金属器等の注記・接合・実測・トレース作業・写真撮影、報告書の執筆・編集作業を実施した。

木簡の釈読については京都教育大学名誉教授 和田 萬氏に依頼し、発掘調査を期間も含めて、釈読作業を行っていただいた。また木簡の保存処理は、平成20年度に独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所において「徳島市觀音寺遺跡(阿波國府推定地)出土木簡の総合的研究業務委託」の一環として行った。木簡の釈文に関しては、奈良文化財研究所都城発掘調査部史料研究室の渡辺晃宏室長を中心に検討会を開き、和田氏の立ち会いのもと処理前・処理後の確認を行った。

出土した木簡は以下の日程において報道発表と一般公開を行った。

報道発表 平成20年4月18日

成果説明会と展示解説 平成20年4月19、20日

(大橋)

3 発掘調査・整理業務の体制

○2007年度

・事務局

所長 伊川政文 事務局長 多田升二

(総務課)

次長兼総務課長 一宮一郎 主査兼庶務係長 新居謙輔

事務主任 潟川明美 野田登記子

(事業第一課)

課長 湯浅利彦 第一係長 藤川智之

第二係長 氏家敏之

・発掘調査担当

事業第一課 主任研究員 栗林誠治 大橋育順

研究員 森 直樹 入江正幸

○2008年度

・事務局

所長 阿部修三 事務局長 多田升
(総務課)

総務課長兼庶務係長 新居謙輔

事務主任 野田登記子 主事 三ヶ田浩
(事業第二課)

次長兼課長 烏巡賢二 整理係長 氏家敏之

・整理業務担当

事業第二課 主任研究員 大橋育順

4 調査日誌抄

(平成19年度調査)

2007年7月20日	3区機械掘削
7月21日	3区(西) 人力掘削 傷溝掘削 水路水止め作業
7月31日	3区(西) 人力掘削 傷溝掘削
8月7日	3区(西) 人力掘削
8月10日	3区(西) 人力掘削
8月14日	3区(西) 水抜き 断面図作成
8月16日	3区(西) 人力掘削 遺物取り上げ
8月20日	3区(西) 人力掘削
8月22日	3区(西) 人力掘削 3区(西) 南ベルト掘削
8月23日	3区(西) 人力掘削 3区(東) 人力掘削
8月27日	3区(西) 人力掘削 測量 写真撮影 3区(東) 人力掘削 遺物取り上げ
8月30日	3区(西) 埋め戻し 遺物整理 図面整理
9月6日	3区(東) 人力掘削 3区(西) 北側人力掘削 遺物取り上げ
9月7日	3区(西) 北側人力掘削 3区(東) 人力掘削 3区(東) 東側人力掘削 遺物取り上げ
9月10日	3区(東) 人力掘削 遺物取り上げ 断面図(東ベルト)
9月11日	3区(東) 人力掘削 3区(西) 北側人力掘削
9月12日	3区(東) 南壁人力掘削 遺物取り上げ 断面図作成
9月13日	3区(東) 人力掘削 遺物取り上げ 平面図作成 12層 完掘写真撮影
9月19日	3区(東) 15層まで人力掘削 南ベルト掘削 壁面精査

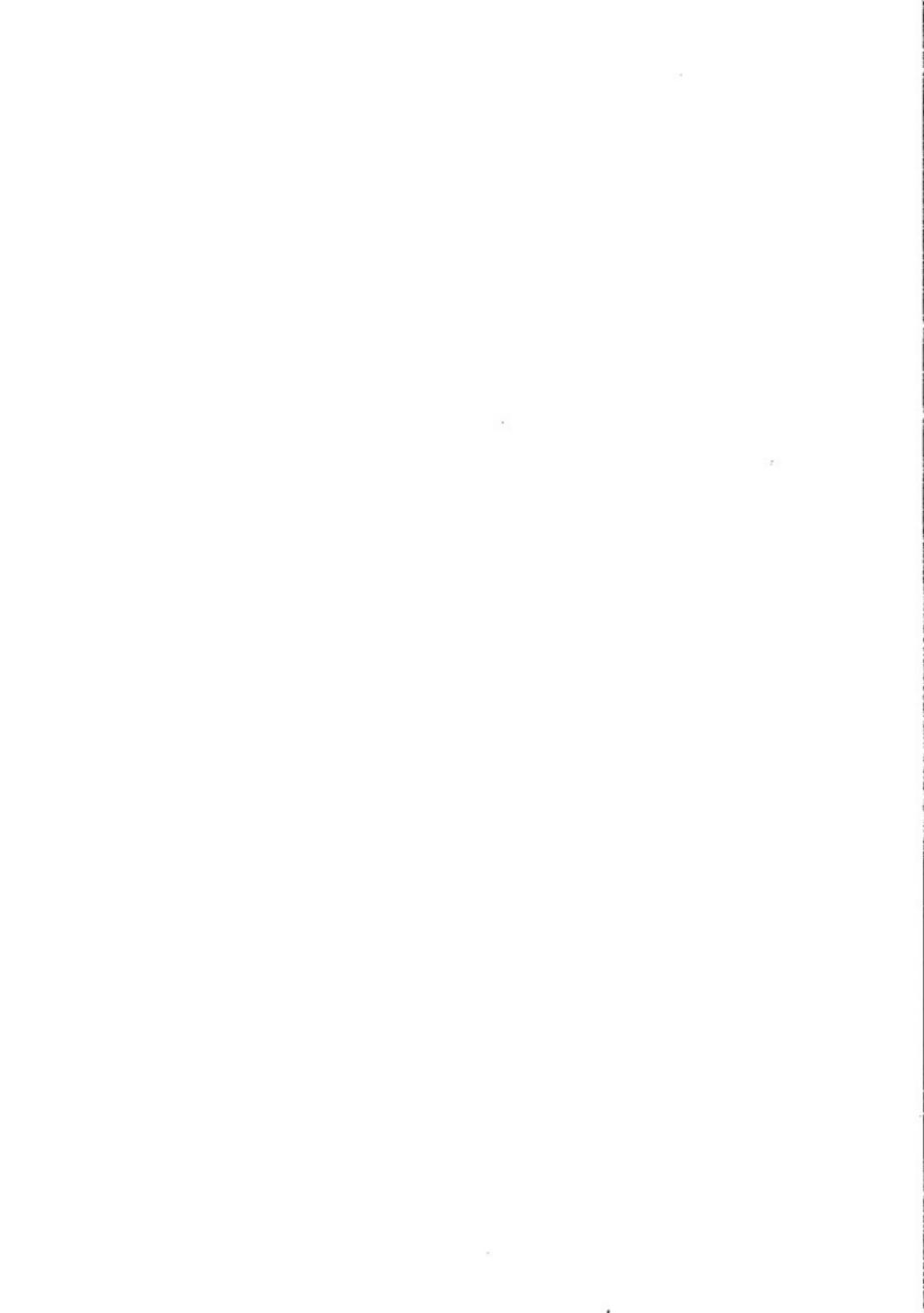
遺物取り上げ

- 9月25日 断面図作成 遺物整理
- 9月27日 遺物整理 3区（西）・3区（東）埋め戻し
- 9月28日 現場撤収
- 12月6日 E区人力掘削 遺物取り上げ 断面図作成
- 12月18日 E区図面作成
- 12月19日 現場撤収



作業状況

II 遺跡の立地と歴史的環境



1 遺跡の立地

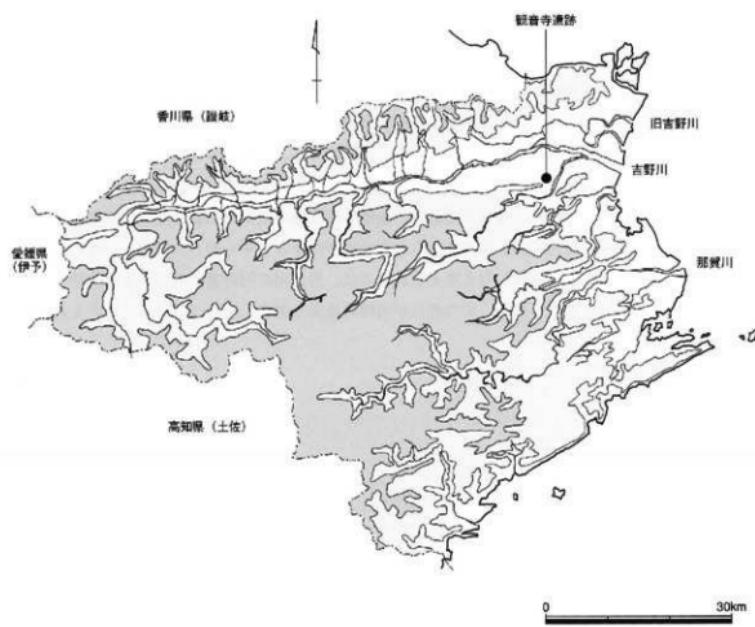
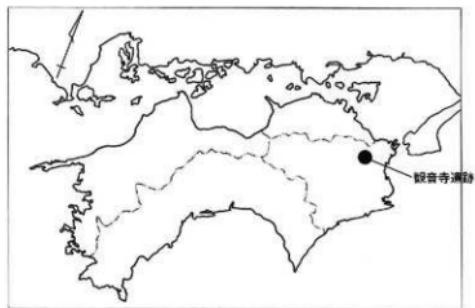
徳島県は四国島の東部に位置する。面積は4,144平方kmであるが、全面積の約8割近くを山地が占める。平野部は、吉野川、勝浦川、那賀川、海部川などの流域に、主として三角州として発達する。山地は、北側の讃岐山脈と吉野川以南の四国山地に大別される。

四国を東西に横断する中央構造線によって、地質の構造は北側の内帯と南側の外帯とに分けられる。中央構造線は、徳島県内では東から鳴門市里浦、美馬市脇町、三好市池田町から愛媛県四国中央市に連なり、讃岐山脈沿いに延びている。県内の地質は、中央構造線を主とする東西方向の構造線によって、内帯の和泉層群、外帯には北から三波川帯、御荷鉢帯、秩父帯、四十万帯からなる。

「四国三郎」吉野川は延長約194km、流域面積約3,750平方kmの規模をもつ四国有数の河川である。石鎚山に源を発し、中央構造線に沿って東流して紀伊水道に注いでいる。吉野川には、外帯側の右岸では鮎喰川などの扇状地が形成され、一方の内帯側の左岸では伊沢谷川、大久保谷川、日開谷川、九頭字谷川、宮川内谷川などの扇状地が形成されている。内帯側の扇状地はより急勾配に形成され、多くの上砂を押し流していることにより、吉野川の流れも構造谷のより南を通っている（第1図）。

吉野川の河道は時代とともに大きく変動しているが、最大の画期は1701年頃に行われたとされる付け替え（新川掘り抜き）である。これは、新たな河道の開削と堰の構築（第十堰）により、下流域での灌漑用水の確保と城下町の治水の安定化を目指したものであり、北東に流れていた当時の本流（現在の旧吉野川）を現在の河道へと導いた。

観音寺遺跡が所在する徳島市国府町は、主に鮎喰川の堆積作用によって形成された、三角州性扇状地に立地している。この扇状地は延命付近を扇頂とし、半径約6kmの規模をもち、標高は延命で約15m、扇端部の井戸付近では約5mを測る。観音寺遺跡は国府町のほぼ西端に位置しており、標高は高いところで約6.8m、低いところで約5.7mほどである。地形は扇状地の広がりに合わせ、南から北に向かって緩やかに低下しており、付近には旧河道とみられる地形のゆがみが多く残されている。そのうち、観音寺遺跡の地形の形成に大きく影響したと考えられるのは、舌洗川の旧河道である。堆積物中からは古墳時代以降の遺物が多く含まれており、川の流れが当時の生活と密接に結びついていたことを表している。（氏家）



第1図 観音寺遺跡位置図

2 歴史的環境

観音寺遺跡の所在する徳島市国府町の鮎喰川の扇状地およびその周辺地は、徳島県下でも有数の遺跡の密集地帯である。ここでは年代に沿って、各遺跡の特徴を整理するが、年代によっては位置国外の遺跡についても触ることとする（第2図）。

旧石器時代

徳島市域においては、ほとんど遺跡の存在は確認されていない。名東遺跡において、弥生時代住居埋土内から、サヌカイト製のナイフ形石器が出土しているのみである（（財）徳島県埋蔵文化財センター 1995）。

縄文時代

後期以前の遺跡については、確実な例は知られていない。石井町石井城ノ内遺跡からは、流路内より块状耳飾が出土しており、周辺に前期以前の遺跡の存在が予想される。また、中期末から後期初頭にかけての遺物も出土している（（財）徳島県埋蔵文化財センター 2003a）。

後期に入ると、矢野遺跡に大規模な集落が現れる。弥生時代遺構面の約1m以上も下の河道の浸食を免れた微高地を中心として、中津式から福田KII式、縁帶文成立期に至る時期の遺構面と包含層が確認されている（（財）徳島県埋蔵文化財センター 2003b）。

晩期になると、名東遺跡、三谷遺跡、庄遺跡、観音寺遺跡などから遺物が出土している（（財）徳島県埋蔵文化財センター 1999a、b、徳島市埋蔵文化財発掘調査委員会 1997など）。

弥生時代

鮎喰川扇状地上は、県下でも有数の規模の集落が形成されているが、前期にさかのぼる資料は、ごくわずかである。

中期以降になると集落形成が本格化し、中期後葉になると矢野遺跡などで竪穴住居の数が増加する。後期に入ると、矢野遺跡では集落域がさらに拡大する傾向がみられる。矢野遺跡の最盛期は、この時期である。集落の形成は、観音寺遺跡を一部含む北半部分に始まり、布留式併行期にかけて徐々に主体が南寄りと山沿いに移動する。銅鐸が埋納されたのは後期後半と考えられているが、その位置は併行して存在する竪穴住居密集部の中心である（（財）徳島県埋蔵文化財センター 2002a）。

古墳時代

鮎喰川扇状地の西側の山塊は氣延山と呼ばれ、古墳時代前期から後期にかけての県下でも最大規模の古墳群が築かれている。

前期の古墳としては、宮谷古墳、奥谷古墳群が代表例である。宮谷古墳は、墳丘長約36mの前方後円墳である。主体部として後凹部に竪穴式石室が築かれ、三角縁神獣鏡が3面出土している。奥谷古墳群は、埴輪列の確認された1号墳（前方後方墳）と2号墳（円墳）からなる（三宅 2002）。

中期の古墳は実態が明らかなものが少ない。「阿波式石棺」と呼ばれた、板石を用いた組合式の石棺が築かれている。墳丘、副葬品が少ないので、5世紀代に盛行すると考えられ、内谷古墳や尼寺1号墳な

どが知られている。

後期には17基からなる、ひびき岩古墳群があり、横穴式石室を主体とする円墳の内の数基が調査されている（石井町教育委員会 1986）。また、矢野古墳は結晶片岩の巨石を用いた横穴式石室をもつ（天羽 1973）。

集落遺跡については、鮎喰川対岸の南庄遺跡や、庄・蔵木遺跡などで堅穴住居跡が数軒確認されているが、敷地遺跡において100軒を超える、中期から後期にかけての堅穴住居が検出された（（財）徳島県埋蔵文化財センター 2008a）。

古代（奈良・平安時代）

『和名類聚抄』の記述により、阿波国府は、かつての名方郡に属したことが記録されている。これまでの発掘調査において、国衙跡と断定できる遺構群は検出されていないが、觀音寺遺跡（南環状道路地点）から検出された河川内より出土した木簡の内容から、その所在地が河川に近接した場所であることは、ほぼ確定したといえる（（財）徳島県埋蔵文化財センター 2002b, 2006）。

国府推定地から約1.5km南東に国分寺、西数100mに国分尼寺がそれぞれ所在している。国分寺は、現在の四国靈場15番札所国分寺境内に、塔心礎と伝えられる結晶片岩の巨石が残されている。1978年からの3次にわたる範囲確認調査によって、二町四方の寺域が想定され、築地状遺構、基壇状遺構、瓦窯跡などが確認されている（天羽・一山 1987）。また隣接する矢野遺跡の調査では、国分寺へ延びる東西方向の道路遺構が確認された（（財）徳島県埋蔵文化財センター 2002a）。

国分尼寺は1970年から2次にわたる範囲確認調査が行われ（田辺・松永 1987）、1999年以降も史跡整備に伴う調査が進行している。これまでに金堂基壇、北門、中門、講堂などが検出されている。

国府推定地の南に位置する矢野遺跡からは、掘立柱建物が50軒以上と堅穴住居が20軒以上確認されている（（財）徳島県埋蔵文化財センター 2006）。

鮎喰川扇状地上には条里地割が広く残されており、福井好行・服部昌之らが、復元を試みている（福井 1959、服部 1966）。

最近では、条里余剰帯に注目した木原克司、岡山啓子の分析がある。国分尼寺から東に向かっての旧伊予街道上、国分尼寺東側の南北道上などに存在する余剰帯が直線的で規格性も高いことから、官道（延喜式段階よりも古いルートをとる南海道）の可能性が指摘されている（木原・岡山 1998）。

また、奈良・平安時代にかけては水田城が増大する傾向が指摘できる。延命遺跡、矢野遺跡、觀音寺遺跡、池尻・桜間遺跡などでは8世紀以降、水田開発が盛んであり、国府造営や条里地割の形成に関連して周辺の開発が進められていたと考えられる。

中世（鎌倉・室町時代）

觀音寺遺跡（南環状道路地点）など限られた場所で、掘立柱建物や土塙墓などの存在が確認されている（（財）徳島県埋蔵文化財センター 1998）。また、敷地遺跡第II群の調査地点においても、鎌倉時代の屋敷地とみられる掘立柱建物や土塙墓が検出されている（（財）徳島県埋蔵文化財センター 1999b, 2002c, 2008b）。

鮎喰川扇状地の南側の山塊には一宮城が築かれている。一宮城は鎌倉期の守護、小笠原氏が築城したとされ、その後、一宮氏、細川氏、三好氏、長宗我部氏と主が入れ替わった。羽柴秀吉による四国侵攻後、

蜂須賀家政が天正13年(1585)に阿波に移された際に入城し、徳島城に移るまで居城としていた。(氏家)

参考文献

- 天羽利夫 1973 「徳島原における横穴石室の一様相」『徳島県立博物館紀要』4
- 天羽利夫・一山 典 1987 「阿波国分寺」「新修国分寺の研究」第5巻上 吉川弘文館
- 石井町教育委員会 1986 『ひびき岩十六号墳発掘調査報告書』
- 木原克司・岡田啓子 1998 「古代吉野川下流域の条里と交通路」『鳴門教育大学研究紀要』第13巻
- (財) 徳島県埋蔵文化財センター 1995 「名東遺跡」
- (財) 徳島県埋蔵文化財センター 1998 「徳島県埋蔵文化財センター年報 vol.9」
- (財) 徳島県埋蔵文化財センター 1999a 「庄遺跡Ⅲ」
- (財) 徳島県埋蔵文化財センター 1999b 「徳島県埋蔵文化財センター年報 vol.10」
- (財) 徳島県埋蔵文化財センター 2002a 「矢野遺跡(Ⅰ)」
- (財) 徳島県埋蔵文化財センター 2002b 「観音寺遺跡I(観音寺遺跡木簡篇)」
- (財) 徳島県埋蔵文化財センター 2002c 「徳島県埋蔵文化財センター年報 vol.13」
- (財) 徳島県埋蔵文化財センター 2003a 「石井城ノ内遺跡」
- (財) 徳島県埋蔵文化財センター 2003b 「矢野遺跡(Ⅱ)」
- (財) 徳島県埋蔵文化財センター 2006 「矢野遺跡(Ⅲ)」
- (財) 徳島県埋蔵文化財センター 2006 「観音寺遺跡II(観音寺遺跡木器篇)」
- (財) 徳島県埋蔵文化財センター 2008a 「敷地遺跡(Ⅰ)」
- (財) 徳島県埋蔵文化財センター 2008b 「敷地遺跡(Ⅱ)」
- 田辺征夫・松永住美 1987 「阿波国分尼寺」「新修国分寺の研究」第5巻上 吉川弘文館
- 徳島市埋蔵文化財発掘調査委員会 1997 「三谷遺跡」
- 服部昌之 1966 「阿波条里的復元的研究」「人文地理」18-5 人文地理学会
- 福井好行 1959 「阿波の国府とその附近の条里」『徳島大学学芸学部紀要』8 徳島大学
- 三宅良明 2002 「宮谷古墳・奥谷1号墳の墳丘構造について」『論集徳島の考古学』同刊行会



①～③ 南環状道路の道路

④～⑥ 西環状線の道路

① 延命道路

② 矢野道路

③ 観音寺道路

④ 観音寺遺跡

⑤ 敷地遺跡

⑥ 池尻・桜岡遺跡

1 大御和神社（式内社）

2 観音寺（現十六番札所）

3 舌洗池

4 阿波國分尼寺跡

5 阿波國有跡

せんだんの木地区

6 高畠遺跡

7 国分寺（現十五番札所）

8 天石門別八倉比充神社

（式内社）

9 内御田瓦窯跡

10 大津遺跡

第2図 観音寺遺跡周辺の遺跡

III 遺跡の地形と基本層序



1 遺跡の地形

観音寺遺跡は、吉野川の支流である鮎喰川の左岸に形成された扇状地上に立地する。この扇状地は徳島市国府町延命付近を扇の要とし、石井町利包から桜間、不動、佐古を結ぶ地域を扇端とする半径約6kmの規模である。扇状地性の沖積地の発達によって、河道が固定化される弥生時代中期以降には、集落を形成しうる安定した地形環境になったと考えられる。また、鮎喰川は御荷鉢構造線などの破碎帯を通過することによって、礫の供給が豊富であり、下流に至るまで礫床河川となっている。平野部下層においても、同様の傾向が指摘されている。

本遺跡は、この扇状地のほぼ中央に位置する。調査地点の標高は6～8mを測る。遺跡周辺の微地形は扇状地形に従って、南から北に向かって緩やかに傾斜している。前章でも述べているが、周辺には多くの埋没河川や旧河道がある。これらが、洪水時の流路となることで、地形の起伏を残す結果となつたと考えられる。また、この地域には鮎喰川の伏流水による湧水地点が多い。現在も調査地の南西約300mには舌洗池がある。その湧水が現在の舌洗川の流れとなり、遺跡の中央部を南東から北西方向へと流れている。古代にはこのような自然流路が形成した低湿地が、観音寺遺跡周辺に広がっていたと考えられる。国府町観音寺坂東家が所蔵する「観音寺村細密図」によれば、舌洗川は現在とほぼ同じ位置に記されている。調査地点周辺では、「深田」を意味する「ふけ」もしくは「ぶけ」の字名が見えることからも、湿地帯であったことがうかがえる。(大橋)

参考文献

- 古田 昇 2002 「地理学からみた観音寺遺跡周辺の地形環境の変化」『観音寺遺跡Ⅰ』(財)徳島県埋蔵文化財センター
- 藤川智之 2002 「考古学からみた阿波國府研究の現状」『観音寺遺跡Ⅰ』(財)徳島県埋蔵文化財センター

2 基本層序

観音寺遺跡は徳島環状線國府工区の建設に伴って発掘調査が行われたため、調査範囲は路線幅である東西約60mを、南北に延長約240mの範囲に及んだ。調査は1998年度から2007年度にわたって、現地割り単位で部分的に行われてきた。調査区の大部分は先の『観音寺遺跡(IV)』((財)徳島県埋蔵文化財センター 2008)で報告されているが、本書では観音寺遺跡南東部の一部を扱っているため、自然流路(SR3001)のみが報告対象となる。そこで、調査時に確認した層位を単位に出土遺物を記載する。

まず調査区は、調査時期の違いで大きく3区とE区に区分される。また、3区は西・北・東に細分した(第4図)。それぞれに大きな差異は見られないが、自然流路内は複雑な堆積作用を受けていることが想定されるため、まずは最小単位における層の堆積状況を把握した。3区西では上層においては1～6層において、シルト層の間に粘質シルトの堆積が見られる。標高4.2m付近の7層(7層内でさらに細分される)では細砂の混入が顕著である。また、粗砂が堆積する10層、自然流路南岸を形成する粘質シルト層の16層が鍵層となる(第5～7図)。また3区東の北壁では15層上面に、細砂とシルトが交互に堆積した砂質シルトの14層が見られる(第28図)。

E区では1～7層に粘性の高い層が堆積し、8～13層に細砂もしくは砂質シルト層となる。19～23層

は細砂層となり、24層の粘土層を挟んで25～27層の粗砂層となる（第63図）。

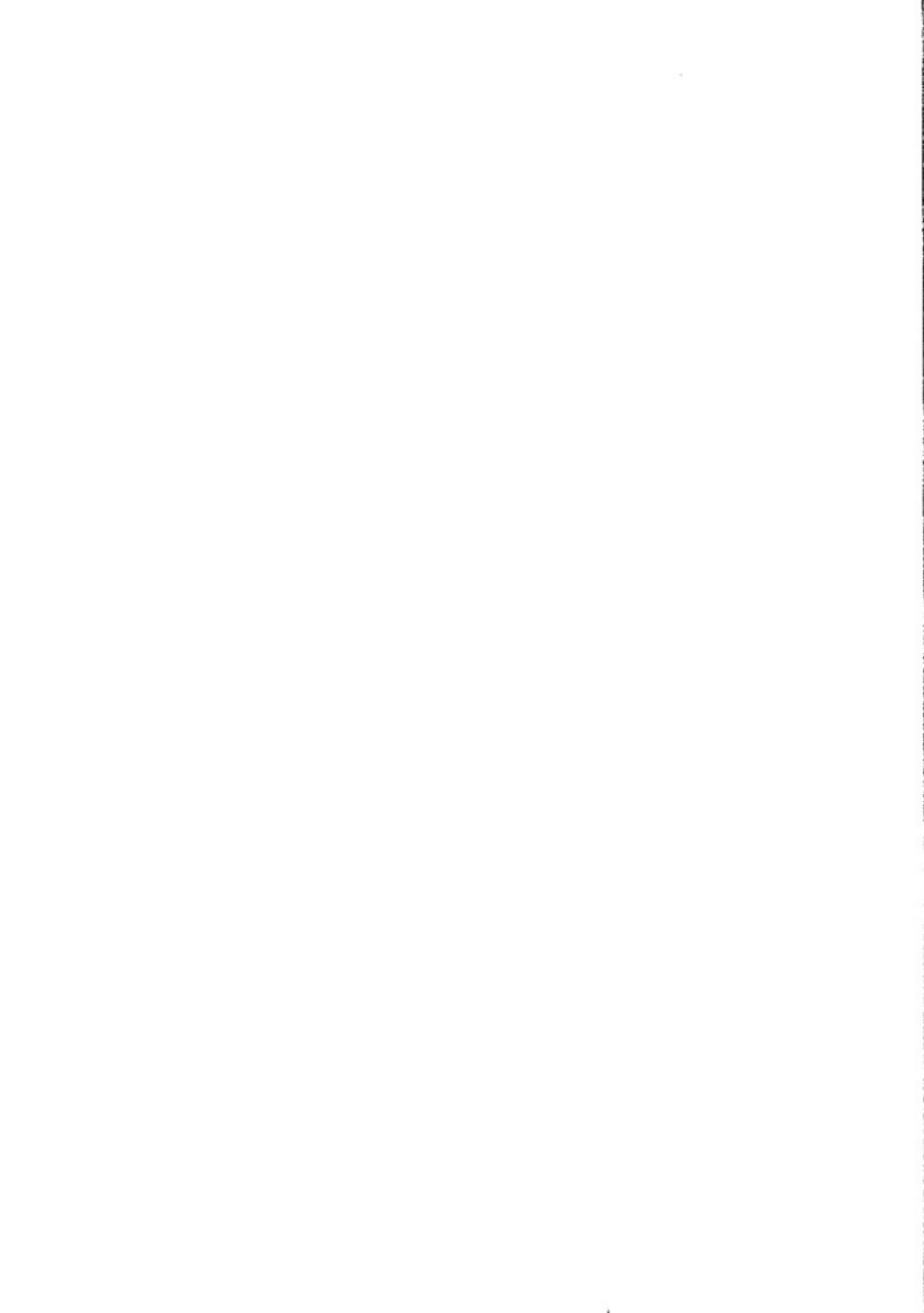
この段階では3区東の7層とE区の8～13層、3区東の14層とE区19～23層、3区東の15層とE区の25～27層の対応が想定される。（大橋）

参考文献

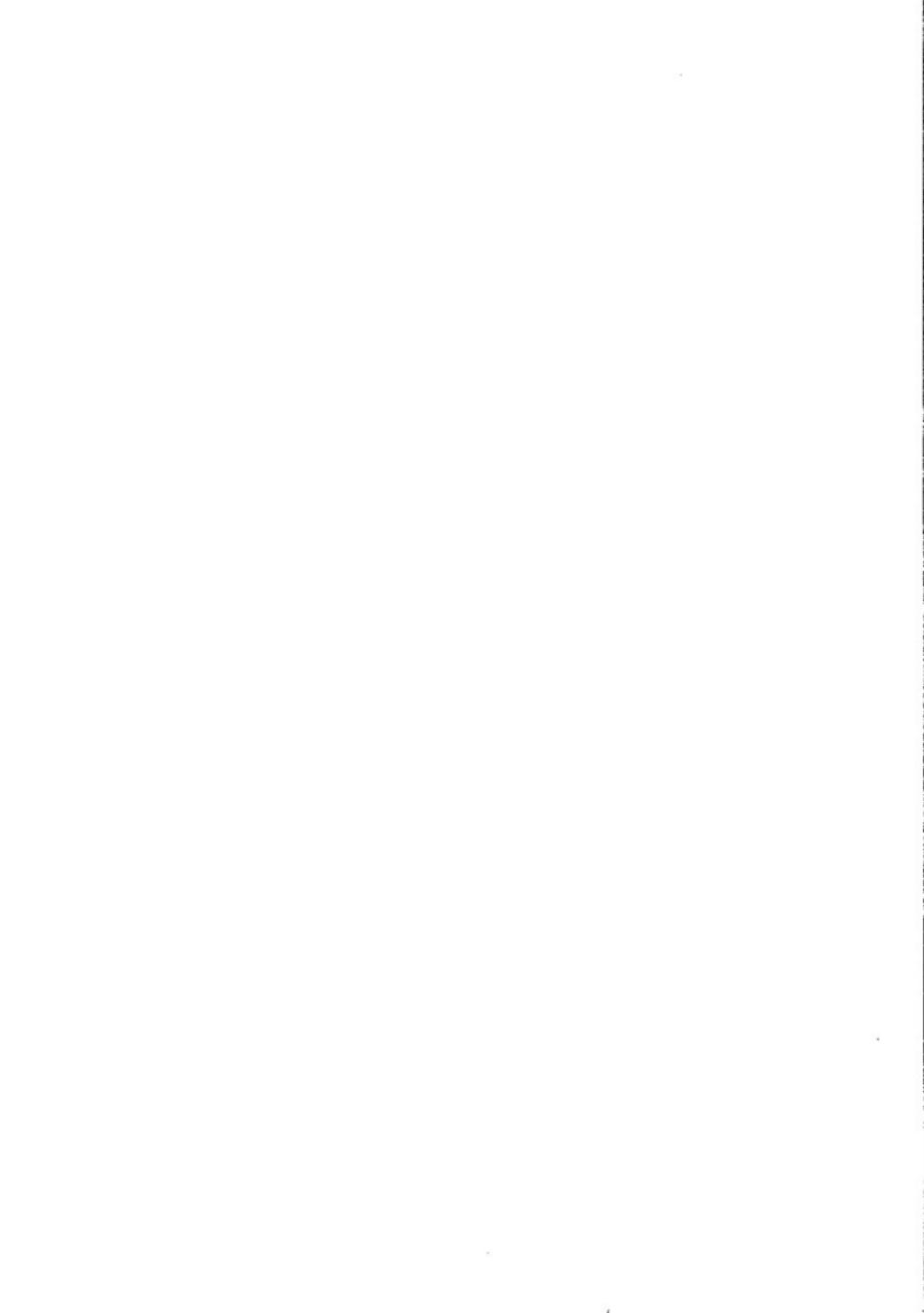
(財) 徳島県埋蔵文化財センター 2008 「観音寺遺跡(IV)」



第3図 徳島環状国府工区・路線と觀音寺遺跡調査区（網掛け部分）



IV 聞查成果



1 遺構配置

観音寺遺跡は、国道192号線からJR四国・徳島線までの範囲に位置する。鈴喰川の扇状地形により緩やかに南へ下る地形であるが、気延山以北では、ほとんど傾斜は見られない。遺跡周辺では逆に、北側の敷地遺跡へ向かって緩やかに上りの傾斜を見せ、微高地が点在する地形になる。微高地に立地する敷地遺跡では、占墳時代後期を中心とした集落が形成されているが、本遺跡はその南側の縁辺部と低地部分にあたると考えられる。よって住居跡などは見られず、自然流路とその周辺の水田面が形成されることとなる。

調査区は『観音寺遺跡(IV)』において報告した、自然流路(SR3001)の南東部にあたる。1998年度調査区の東に隣接しており、全範囲において自然流路の堆積層を確認した。ここで報告する遺物はすべて自然流路(SR3001)から出土したものであり、各地区において層位ごとに記述する。(大橋)

2 木製品の分類について

本書での木製品の分類は、例言に記したとおり、奈良国立文化財研究所の『木器集成図録 近畿原始編』と『木器集成図録 近畿古代篇』によっている。また、各器種の型式分類においても同様である。型式分類を適用したものは、祭祀具の「簀串」「人形」「舟形」「曲物」である。

「簀巾」は形態によってA~Dの4型式に分類し、切り込みの部位などでI~IV式に細分される。主にC型式に多様性が見られ、CI、CII、CIII形式のように表記した。但し、遺存状況が悪く判断不可能な場合は、A~D型式のみの表記とした。

「人形」は正面全身人形、側面全身人形、顔形、立体人形に分類されている。観音寺遺跡では、これまでの報告(『観音寺遺跡 I・II・(IV)』(財)徳島県埋蔵文化財センター 2002・2006・2008)により、杭状の丸木に目や口を彫り込んで表現した、簡易な人形が圧倒的に多いことが明らかとなっている。これらは立体人形の一種と考えられるが、「木器集成図録」での分類とは若干異なったニュアンスを持つことから、ここでは「円筒状人形」と呼称し、立体人形と区別することにした。前出の『観音寺遺跡(IV)』では、すでに円筒状人形として分類したものである。

「舟形」は、立体のA類と板状のB類に分類される。さらにA類は、内部を削り抜くものをA1類、切り込み、削り、溝で内部を表現したものをA2類とした。

曲物は底板と側板の結合形態からA~Fの6種類に分類される。このうち、釘結合曲物F型式と檍皮結合曲物E型式が多い。『木器集成図録 近畿原始編』によれば、「8世紀以降の曲物はFが主流で、蓋にD、Eもある」とされる。

本書に掲載する曲物底(蓋)板は、大きく3種類に分類できる。①側板の結合痕が見られないもの、②檍皮結合曲物D、E型式の痕跡(檍皮結合紐、紐孔、板の片面に残る円周状の傷または压痕)が見られるもの、③釘結合曲物F型式のものである。①は結合方法が不明であり、蓋、底の判断はできない。②は蓋、③は底と分類した。(大橋)

3 出土層位と遺物

(1) 3区西

① 土層堆積状況 (第5~7図)

3区西は1~16層に分層した。各層をさらに細分した場合は2'層のように表記した。第5図(西壁)では1~5層は、やや北側へ向かって下りの傾斜を見せ、自然流路(SR3001)の南岸の肩が調査区の南側に存在することを示している。6層は鍵となる7層(細砂層)を切ったような堆積であり、調査区北東隅には見られない。逆に7層は南西側に堆積が見られない。さらに10層、11層の堆積は北側への下りの傾斜が顕著となり、自然流路の底部の斜面に堆積した層位であると考えられる。16層は、現時点では古代以前の自然流路の堆積層であると考えられる。10層は鍵層の一つである15層と同様の粗砂層で、15層由来のものと推定される。二次的な堆積である可能性が高い。第6図(南壁)では2~5層までは、ほぼ水平な堆積であるが、6層はやや西側が深い。7層は東側にのみ堆積していることから、この調査区の南西隅には7層が堆積していないことがわかる。10~14層は東へ向かって厚く堆積し、下りの傾斜を示している。11層は南西部のみに堆積し、10層に切られた可能性も考えられる。

第7図(東壁)では、6層は南側にのみ分布することから、6層は7層とは逆に調査区の南東側に厚く堆積していたことがわかる。

② 5層出土遺物 (第8・9図)

5層は調査区の全範囲に堆積する灰オリーブ色のシルト層であるが、遺物は調査区南西部に分布する。1は曲物である。2は棒状祭祀具、3はC型式の簀車である。4は用途不明の木製品である。下端は欠損している。5は土師器の杯である。6は土師器の椀である。7は土師器の皿である。8は羽釜の脚部である。9は平瓦である。10は石製の丸柄である。

③ 6層出土遺物 (第10・12図)

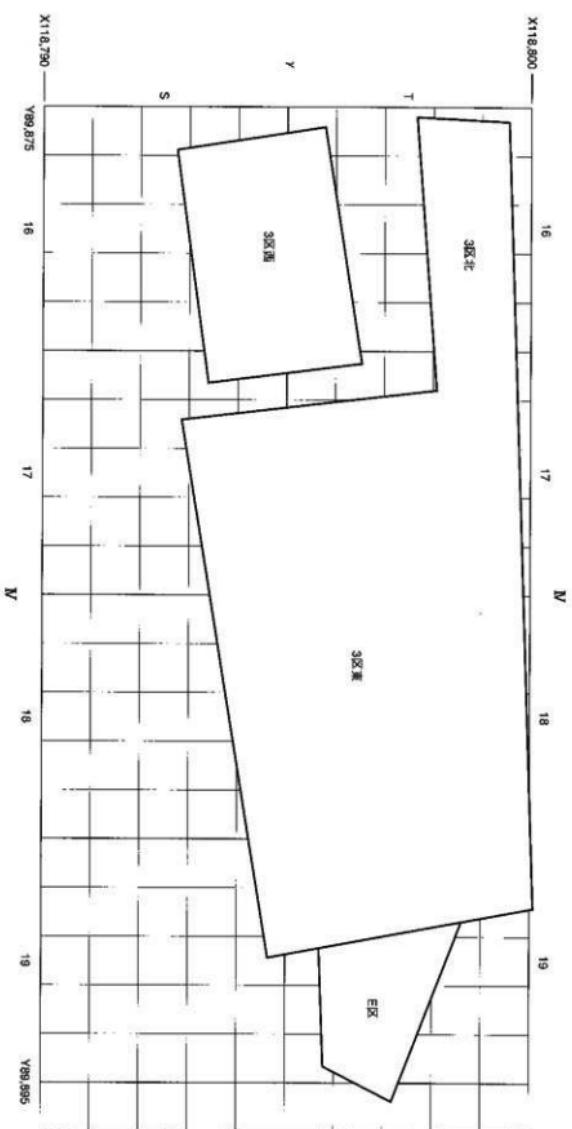
6層は、調査区北東部を除く範囲に堆積する灰色の粘質シルト層である。遺物は東西2ヶ所にまとまりが見られる。11は織機の中筒である。12は檜扇の下端である。13は曲物側板である。内面に釘引線が見られる。14は曲物蓋板である。15は黒色上器B類の椀である。16は土師器の皿である。17は土師器の瓶の把手である。18は土師器の羽釜である。

④ 7層出土遺物 (第11・13図)

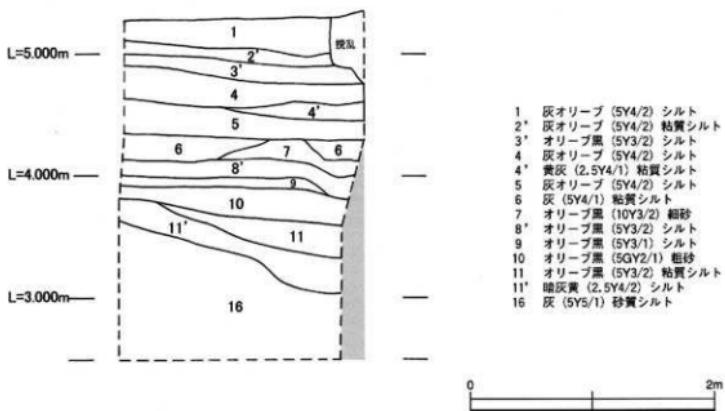
7層は、調査区南西隅以外の範囲に堆積するオリーブ黒色の細砂層である。遺物は3ヶ所にまとまりが見られる。19は工具の柄である。20は織機の中筒か。21、22は楕棒である。23、24は曲物の蓋板か。25、26は簀車である。27は棒状祭祀具である。28は部材である。29は土師器の杯である。30、31は土師器の皿である。

⑤ 8層出土遺物 (第14・15図)

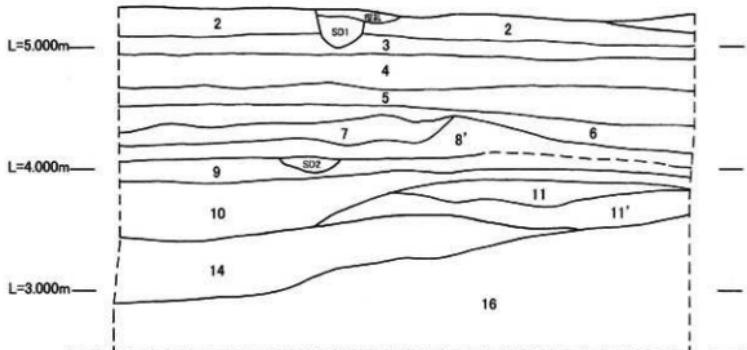
8層は、調査区全範囲に堆積するオリーブ黒色のシルト層である。遺物は大きく3つのまとまりを示す。32は農具の馬鍶である。33、34は檜扇である。35、37、38は曲物蓋板である。36は釘結合曲物(F型式)であることから、底板と考えられる。39~42は箸である。43はC型式の簀車の断片か。44~46は棒状祭祀具である。47~49は土師器の杯である。50は土師器の皿である。曲物は北西部に、檜扇は中央部にまとまって分布する。



第4図 調査区・グリッド配置図



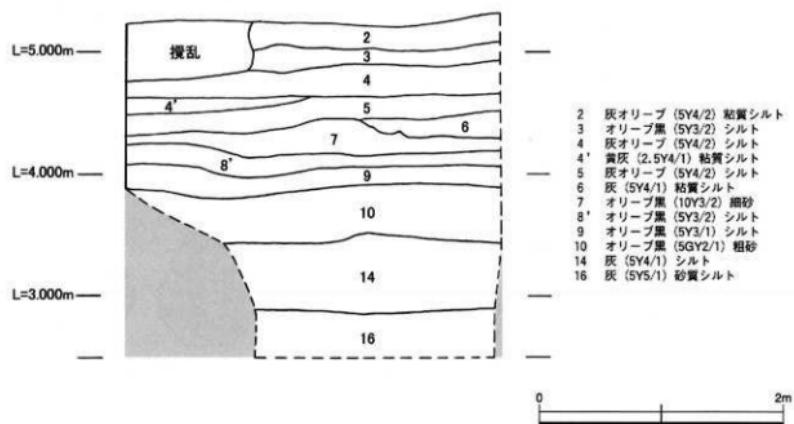
第5図 3区西（西壁）土層断面図



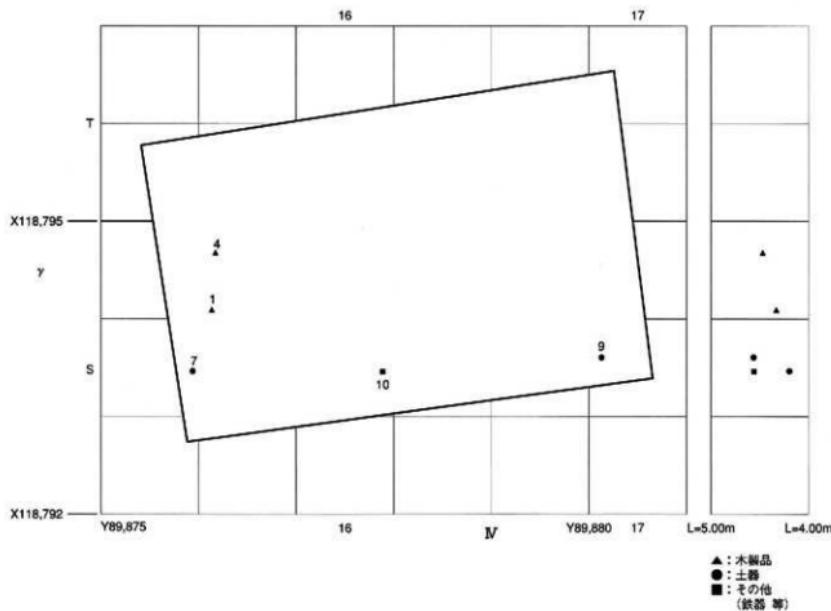
SD1: 道路
SD2: 池

2: 黒オリーブ (SY4/2) 粘質シルト
3: オリーブ黒 (SY3/2) シルト
4: 黒オリーブ (SY4/2) シルト
5: 黒オリーブ (SY4/2) シルト
6: 黒 (SY4/1) 粘質シルト
7: オリーブ黒 (10Y3/2) 細砂
8: オリーブ黒 (SY3/2) シルト
9: オリーブ黒 (SY3/1) シルト
10: オリーブ黒 (SY2/1) 粗砂
11: オリーブ黒 (SY3/2) 粘質シルト
11': 黄灰黒 (2.5Y4/2) シルト
14: 黒 (SY4/1) シルト
16: 黒 (SY5/1) 砂質シルト
SD1: 道路
SD2: 池

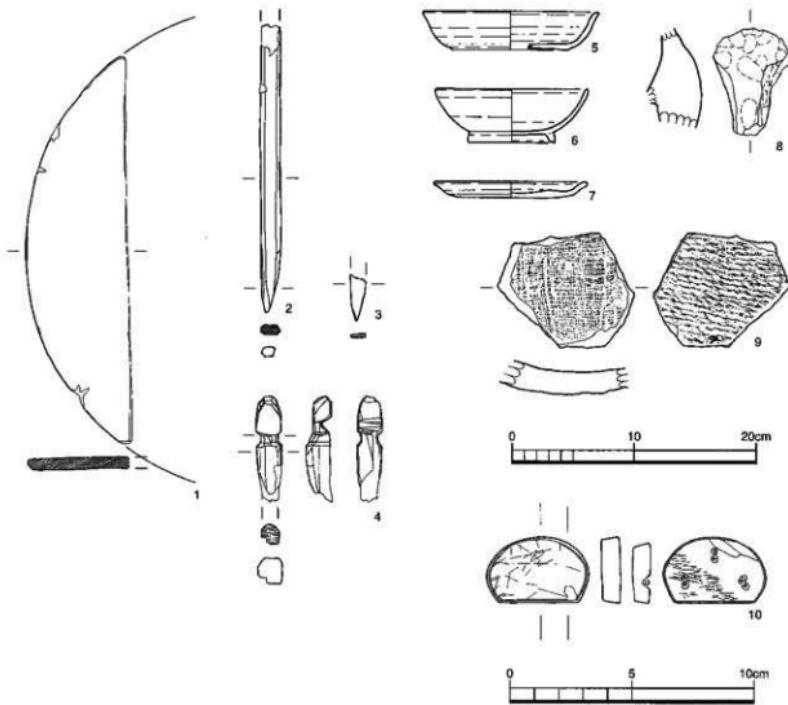
第6図 3区西（南壁）土層断面図



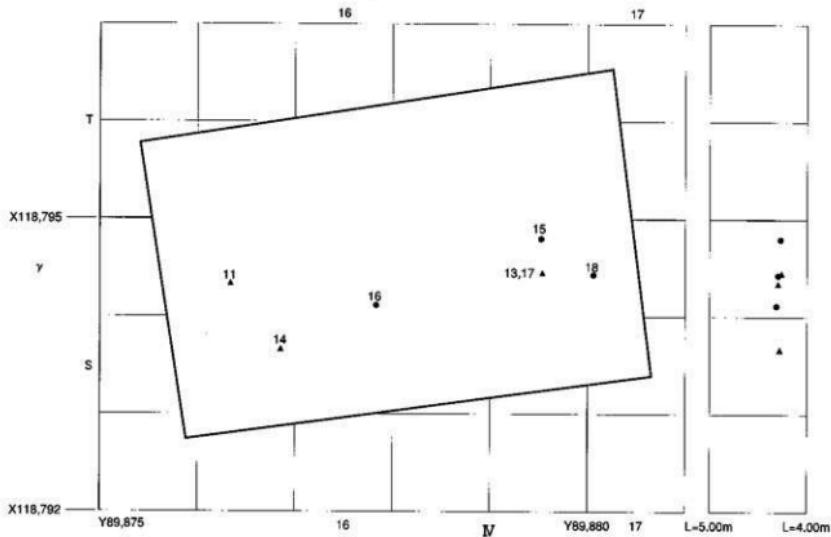
第7図 3区西(東壁) 土層断面図



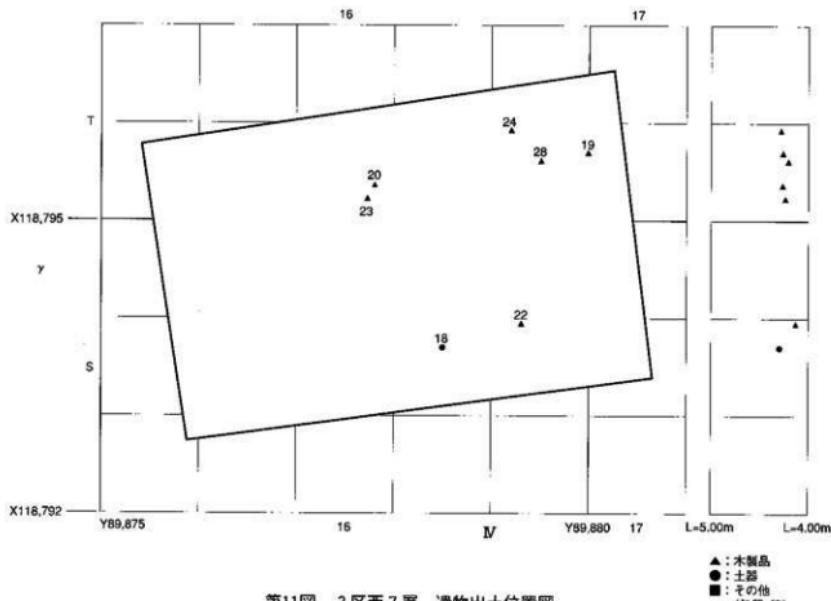
第8図 3区西5層 遺物出土位置図



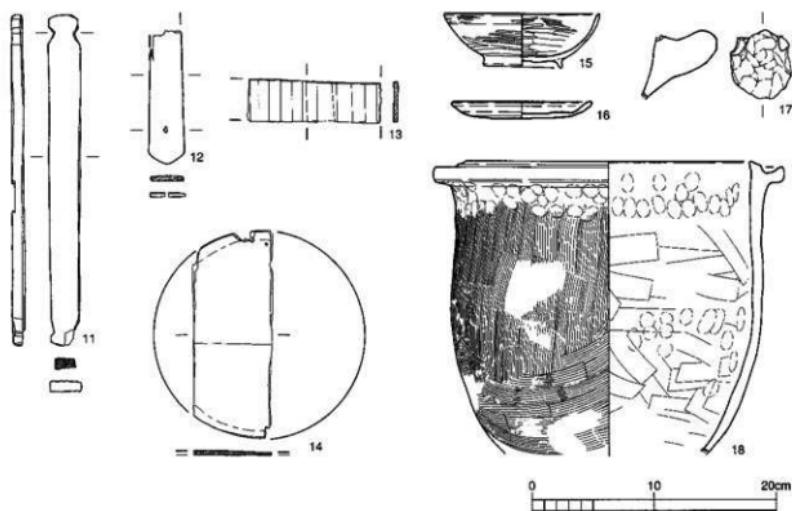
第9図 3区西5層 出土遺物



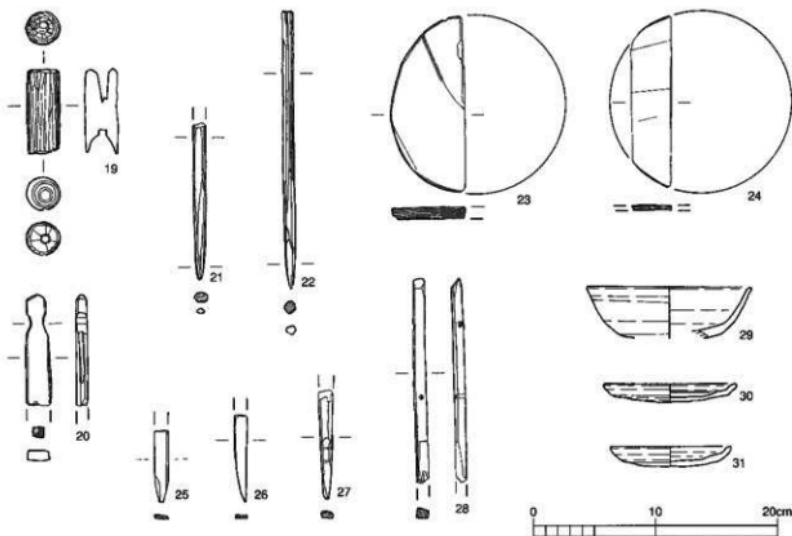
第10図 3区西6層 遺物出土位置図



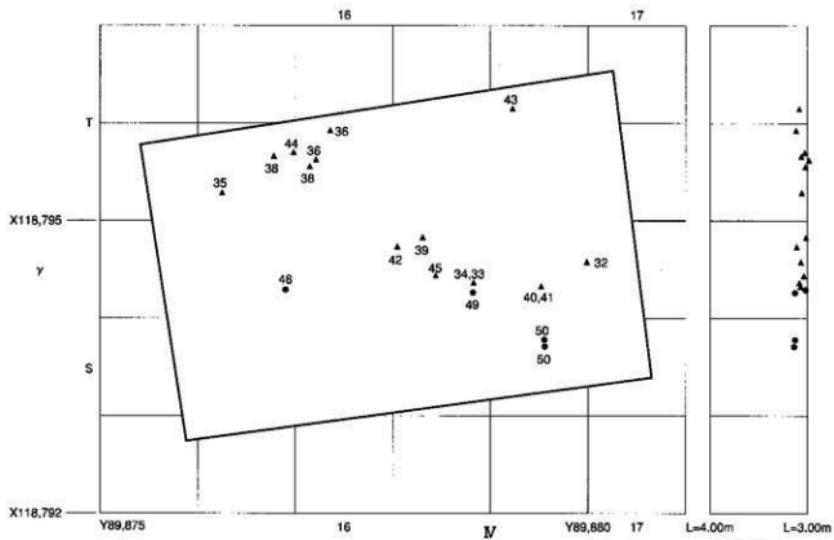
第11図 3区西7層 遺物出土位置図



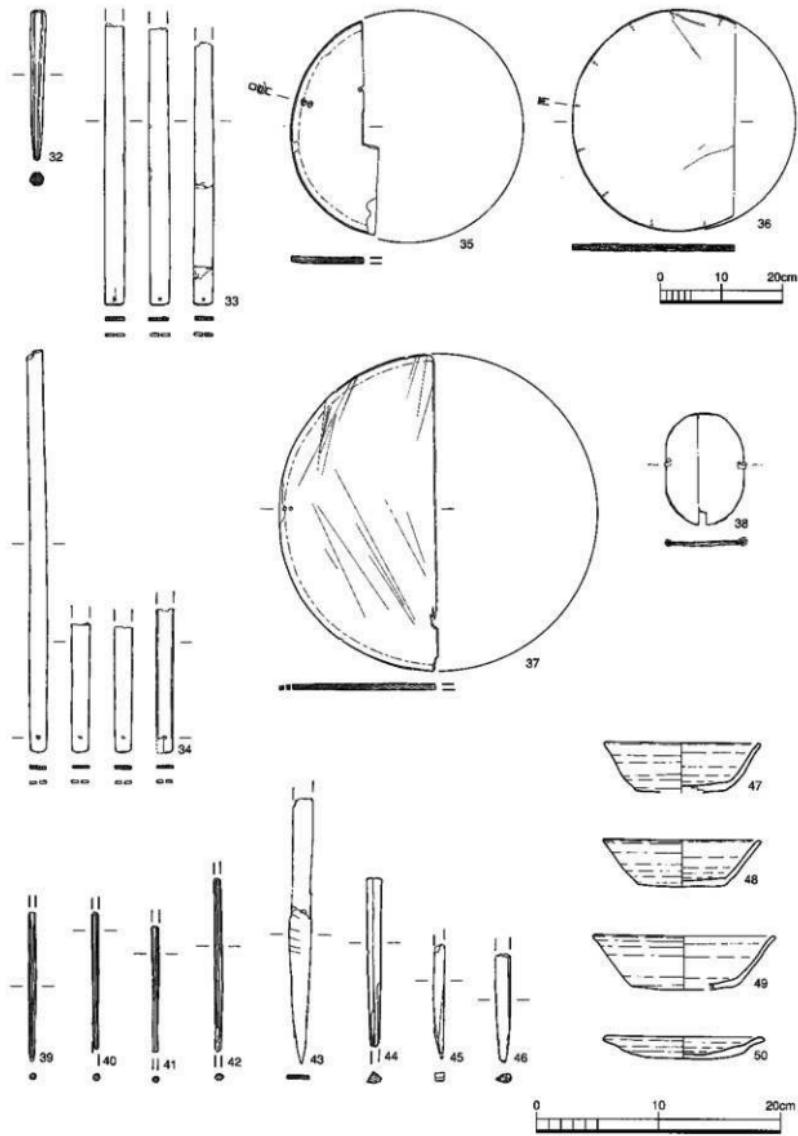
第12図 3区西6層 出土遺物



第13図 3区西7層 出土遺物



第14図 3区西8層 遺物出土位置図



第15図 3区西8層 出土遺物

⑥ 9層出土遺物（第16・18図）

9層は、調査区のほぼ全範囲に堆積するオリーブ黒色シルトである。遺物の分布は東側に散在している。51は檜扇の下端部である。52は曲物側板である。53、54は箸である。55は一端が欠損しているが、琴の可能性が考えられる。56、57は棒状祭祀具である。58はC V型式の斎串の断片か。59は土師器の壺である。56、57は同じタイプの棒状祭祀具で近接して出土した。

⑦ 10層出土遺物（第16・19図）

10層は、調査区全範囲で10~40cmの厚さで堆積するオリーブ黒色を基調とする粗砂層である。60は曲物である。61は棒状祭祀具である。両端を僅かに尖らせてあるため、箸とは区別した。62は土師器の杯である。内面に暗文が施されている。63は瓶の把手である。

⑧ 11層出土遺物（第17・20図）

11層は、調査区南西部に堆積する。上部にオリーブ黒色の粘質シルト、下部に暗灰黄色のシルトに分かれれる。遺物は南半分に散在する。65、66は柄である。67は琴柱である。68は正面全身人形である。腰から下は欠損しているが、左右に切り込みを入れて手を表現している。69は一端が欠損しているがB型式の斎串か。71~73はC型式の斎串である。74は籌木である。75は自在である。76は土師器の杯蓋である。77は須恵器の杯蓋である。78は土師器の皿か。底部内面に螺旋状暗文、体部内面に放射線状暗文が施される。79は土師器の皿の高台部分である。80は土師器の皿である。81は土師器の壺である。82は須恵器の壺である。83は土師器の瓶である。84は鉄鎌である。

（2）3区北

① 土層堆積状況（第28図）

3区北は3区東の北壁と一続きに固化した。3区西と層の対応を把握しながら分層した。7層にあたる細砂層が厚く、色調や粒度が若干異なるものを細分し、7A、7B、7Cと表記した。上層の5層までは水平堆積が見られるが、6層は東側には堆積せず、西に向かって厚くなる。逆に7層は西端には堆積せず、東に向かって厚く堆積する。6層段階の流路に7層が切られた状況が見える。下層の9~11層も6層同様に西に向かって厚く堆積する状況が見え、この時期の流路が調査区の西側を流れていたと推測できる。

② 6層出土遺物（第21・29図）

6層は調査区西半分に堆積する、オリーブ黒色の粘質シルト層である。遺物は北西部に分布する。85は曲物側板である。内面に縦引線があり、漆が付着している。86は棒状祭祀具の一部か。87は土師器の皿である。

③ 7層出土遺物（第22・33図）

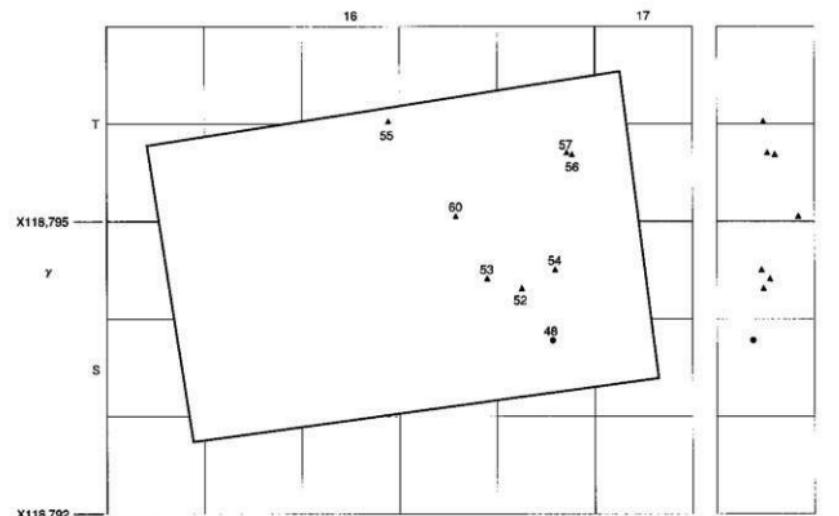
7層は調査区全範囲に堆積する。オリーブ黒色の細砂を基調とし、下部に灰色の粘質シルト層を薄く挟む。遺物は調査区の北半に分布する。88は織機の中筒か。上下両端が欠損している。89は檜扇の下端部である。90は曲物蓋板である。91は側面全身人形の一部か。92は杭である。93は土師器の杯である。

④ 8層出土遺物（第23・37図）

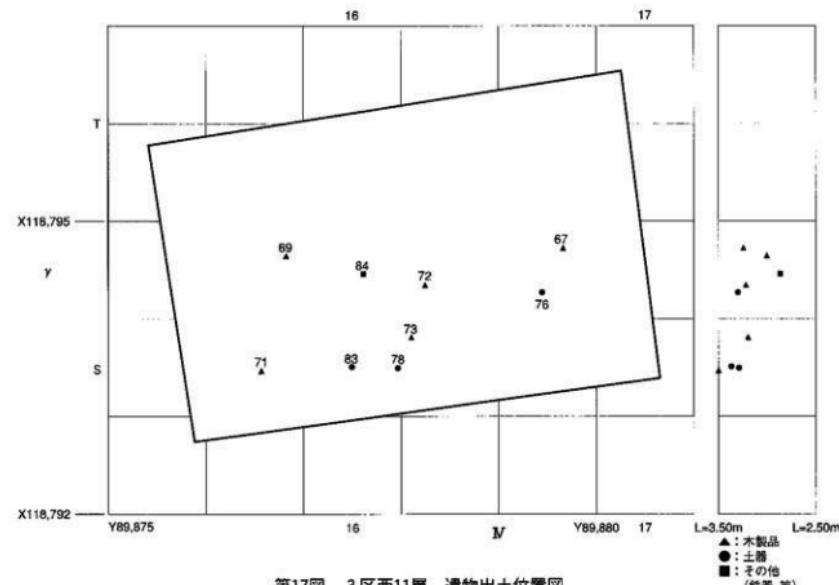
8層は調査区全範囲に堆積する、オリーブ黒色のシルト層である。遺物は調査区北東部に散在している。94は土師器の皿である。95、96は鉄鎌である。

⑤ 9層出土遺物（第24・41図）

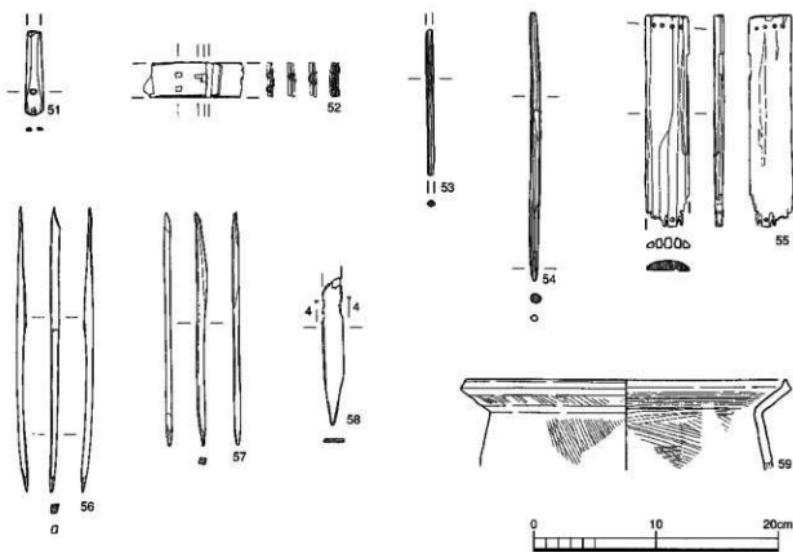
9層は調査区全範囲に堆積する、オリーブ黒色の粘土層である。97は土師器の皿である。98は土鍤で



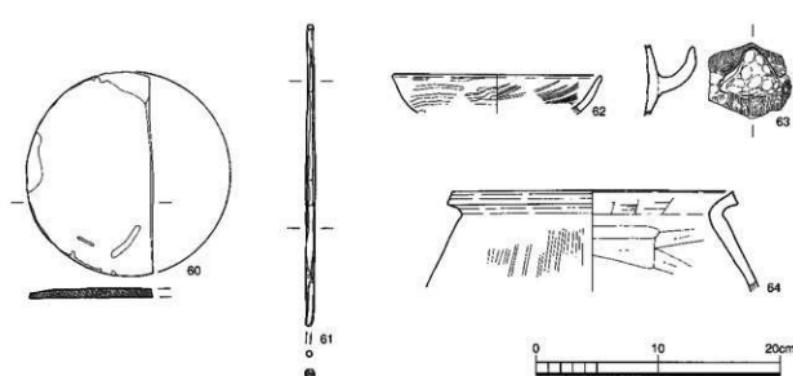
第16図 3区西9層・10層 遺物出土位置図



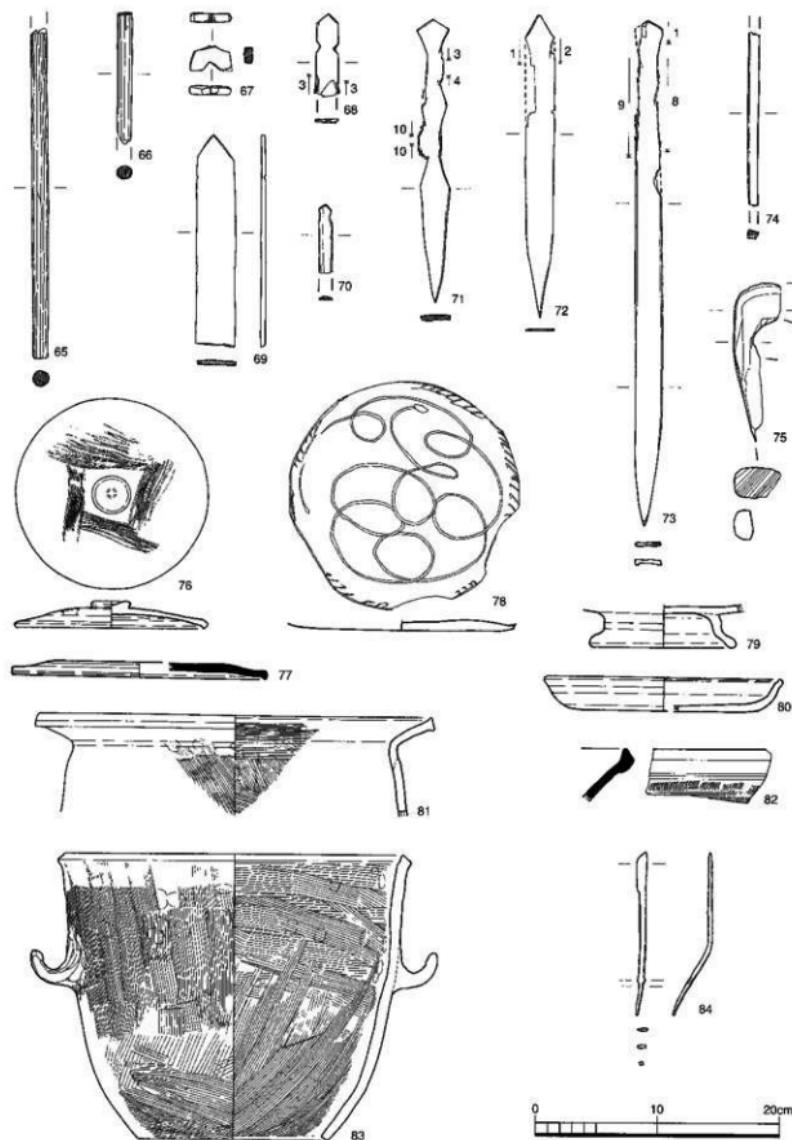
第17図 3区西11層 遺物出土位置図



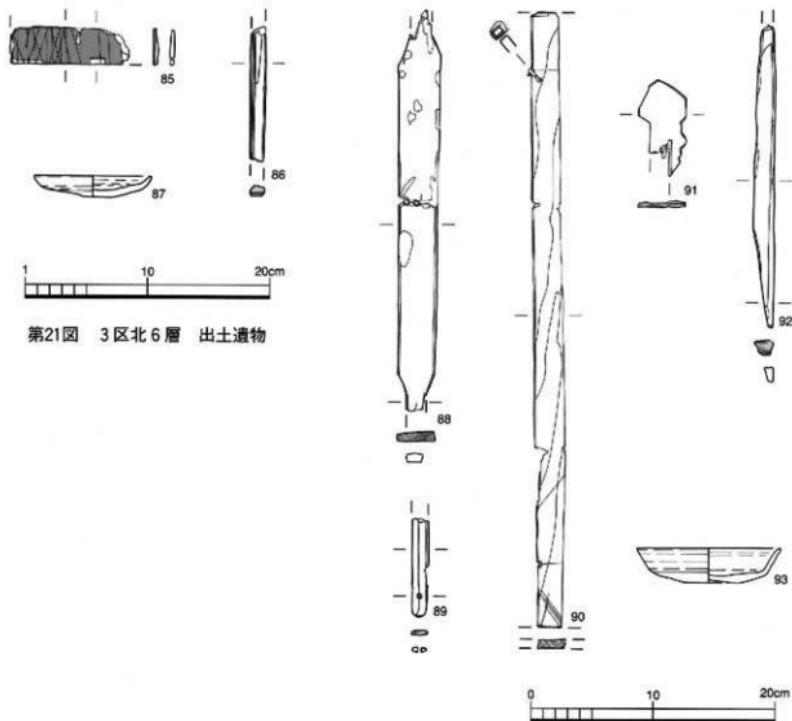
第18図 3区西9層 出土遺物



第19図 3区西10層 出土遺物

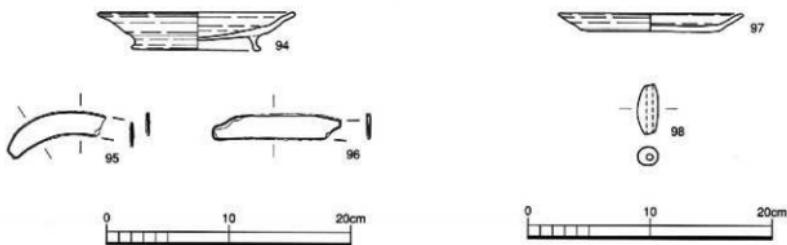


第20図 3区西11層 出土遺物



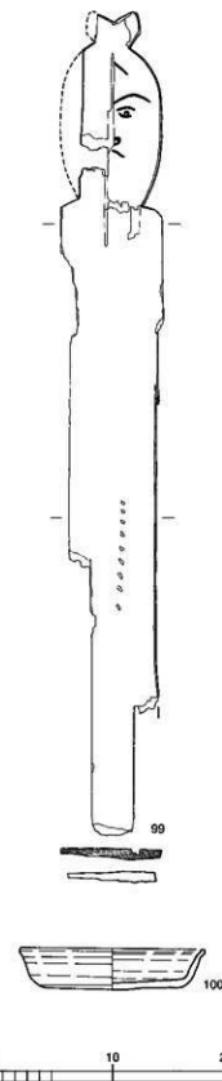
第21図 3区北6層 出土遺物

第22図 3区北7層 出土遺物



第23図 3区北8層 出土遺物

第24図 3区北9層 出土遺物



第25図 3区北11層 出土遺物

ある。

⑥11層出土遺物（第25・47図）

11層は調査区西端以外の範囲に堆積する、オリーブ黒色の粘土と粘質シルト層である。99は正面全身人形である。墨で顔を表現している。100は土師器の杯である。

（3）3区東

①土層堆積状況（第26～28図）

3区東は、東側の上層に現舌洗川の堆積層が残る。5層までは、ほぼ水平に堆積するが、7、8層は東から西へ向かって傾斜している。9C～9E層は、調査時に3区北の9層に対応すると考えたが、11層に対応するものと想定される。また第27図には現れていないが、10層は調査区南西部のみに堆積していることが第26図から読み取れる。14層、15層は調査区北側に厚く堆積し、標高の高い位置にある。12～13C層（第27図）が堆積した時期には中洲であった可能性がある。

②3層出土遺物（第29・30図）

3層は調査区北東部以外の範囲に堆積する、オリーブ黒色のシルト層である。遺物の分布は散漫である。101は下駄の端部である。102は曲物である。103は曲物蓋板である。104は曲物の蓋板か。内面に漆が付着する。105は箸である。106は平瓦である。

③5層出土遺物（第29・31図）

5層は調査区のほぼ全範囲に堆積する、暗オリーブ褐色のシルト層である。107は曲物蓋板である。108はC型式の舟串である。109は土師器の杯である。体部外側の下部に線状の墨書きがある。110は土師器の高杯である。111は平瓦である。112は方頭形の鉄族である。

④6層出土遺物（第29・32図）

6層は調査区南西部に堆積する、オリーブ黒色の粘質シルト層である。113・114は曲物蓋板である。115は漆木である。116は土師器の皿である。

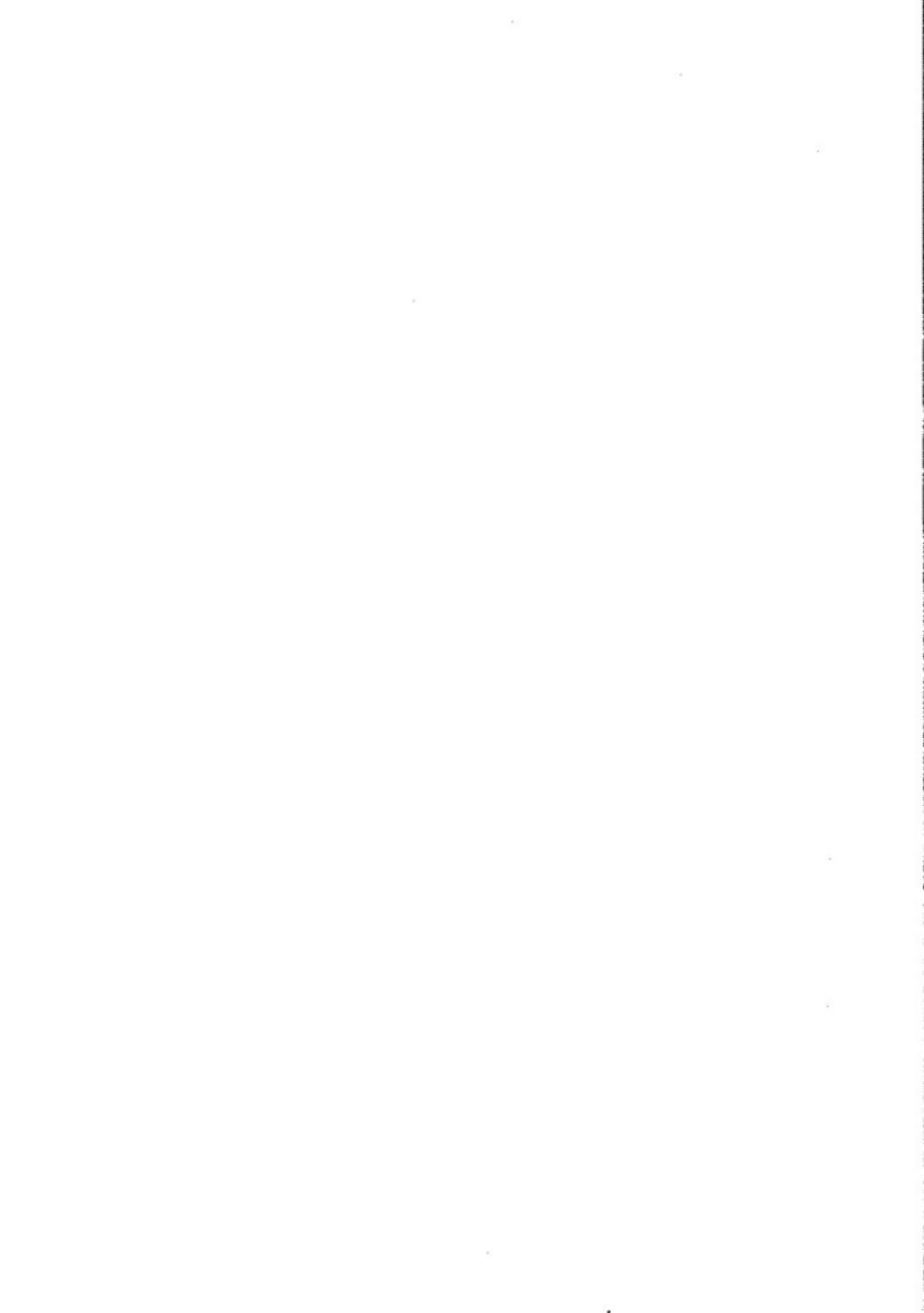
⑤7層出土遺物（第33～36図）

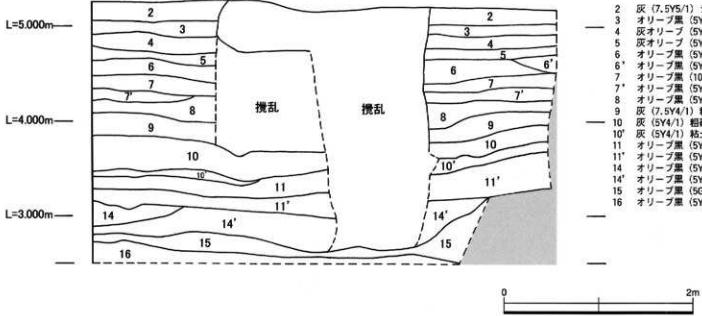
7層は調査区全範囲に堆積する、オリーブ黒色を基調とした細砂層で、間に粘質土を挟む。遺物の出土数が多く、南東から北西方向に帶状に分布する。117、118は縦棒である。119～122は織機である。123、124は棺崩である。125～129は箸である。130～135は曲物側板、136は箱である。137～139、141、144は曲物底板もしくは蓋板である。140は釘結合曲物（F型式）の底板である。142、143、145は檜皮結合曲物（E型式）で、蓋板である。146は正面全身人形である。墨は残っていないが墨書き部分が浮き上がっている。147は鳥形か。尾の部分に切り込みがある。舟形B類の可能性もある。148は鐵形か。149～164は舟串または棒状祭祀具である。149、150はC型式、152、154はA型式の舟串である。165は支脚である。166、167は漆木である。168は杭である。169は火付棒である。170～177は部材もしくは用途不明の木製品である。178～187は土師器の杯である。188～190は土師器の皿である。191は陶器の椀である。192は土師器の甕である。193は土師器の甕である。194は土錘である。195は平瓦である。196は舟頭形の鉄錐である。197は用途不明の鉄製品である。

土器の分布を見ると、調査区北部の小グリッドT-17で179、181、184、191。小グリッドT-18で178、183、186、187のまとまりが見られる（第33図）。

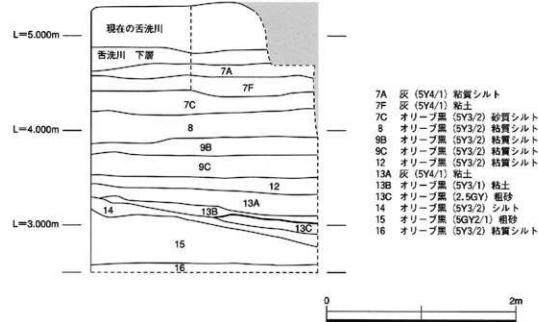
⑥8層出土遺物（第37～40図）

8層は調査区全範囲に堆積する、オリーブ黒色の粘質シルト層である。遺物は7層と同様に多く、南

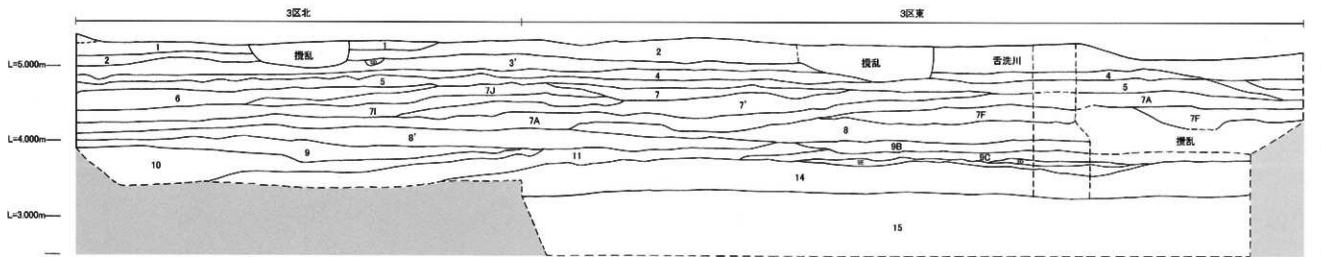




第26図 3区東（西壁）土層断面図



第27図 3区東（東壁）土層断面図

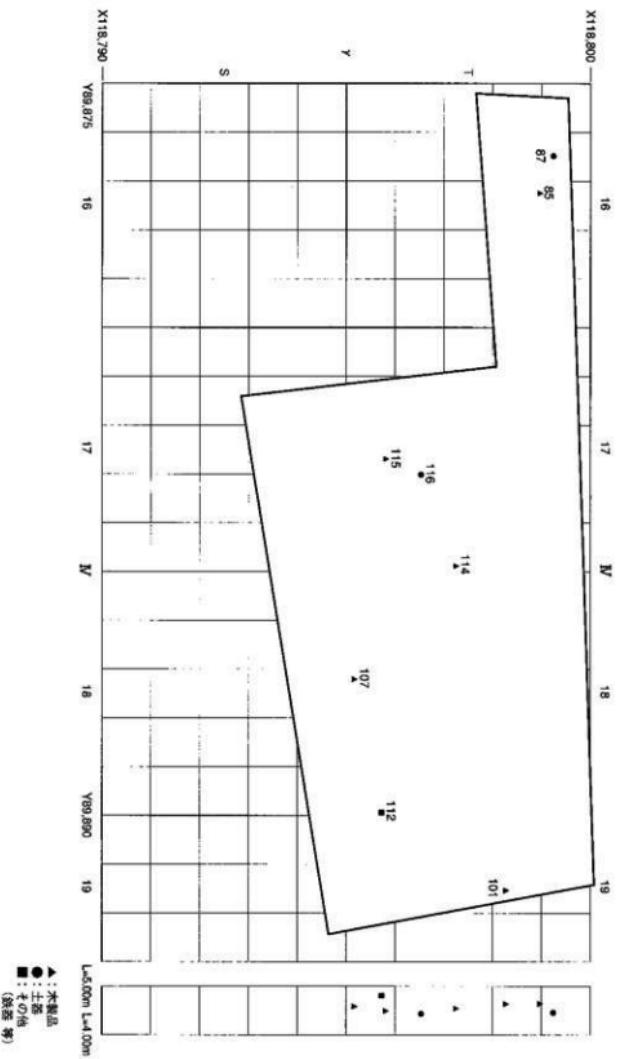


第28図 3区北・東（北壁）土層断面図

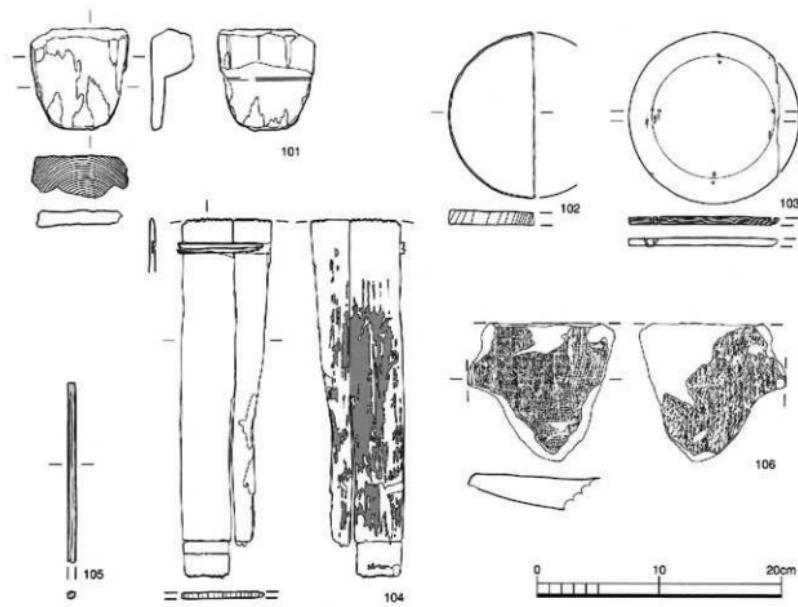
1 灰オリーブ (SY4/2) シルト
2 灰オリーブ (SY4/2) 粘質シルト
3 オリーブ黒 (SY4/2) シルト
4 オリーブ黒 (SY4/2) シルト
5 灰オリーブ (SY4/2) シルト
6 オリーブ黒 (SY3/2) 粘質シルト
7 オリーブ黒 (10Y3/2) 粗砂
7' オリーブ黒 (SY3/1) 粗砂
8 オリーブ黒 (7.5Y3/1) 粘質シルト
9 オリーブ黒 (7.5Y3/1) 粗砂

4 噴灰黃 (2.5Y4/2) 砂質シルト
5 オリーブ黒 (SY3/3) シルト
6 オリーブ黒 (SY3/2) 粘土
6' オリーブ黒 (SY3/2) 粘質シルト
9B オリーブ黒 (SY3/2) 粘質シルト
9C オリーブ黒 (SY3/2) 粘質シルト
10 オリーブ黒 (SY4/1) 粗砂層
11 オリーブ黒 (SY3/2) 粘土
12 オリーブ黒 (SY3/2) 粘質シルト
13 オリーブ黒 (SY3/2) 粘質シルト
14 オリーブ黒 (2.5GY4/1) 砂質シルト
15 細黒 (7.5GY4/1) 粗砂

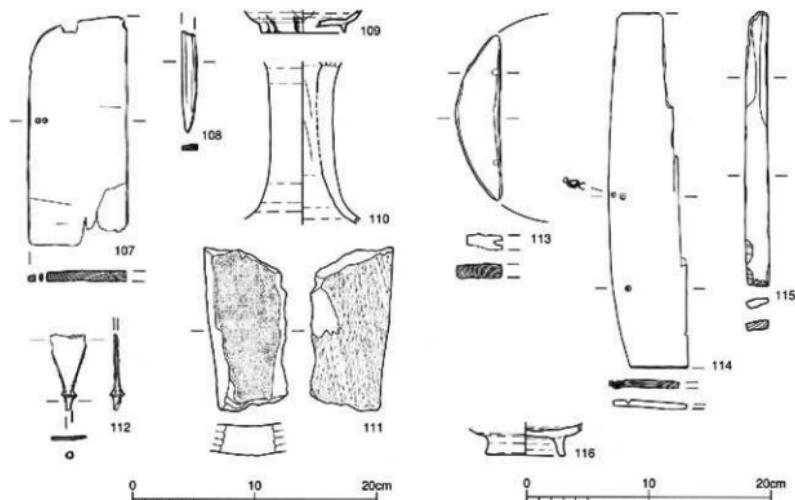




第29図 3区北・東3~6層 遺物出土位置図



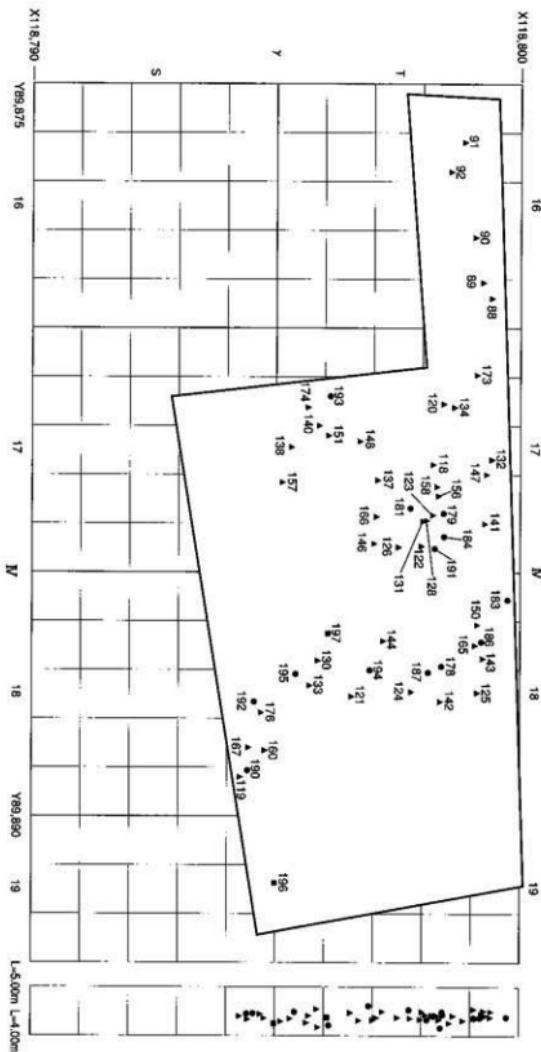
第30図 3区東3層 出土遺物



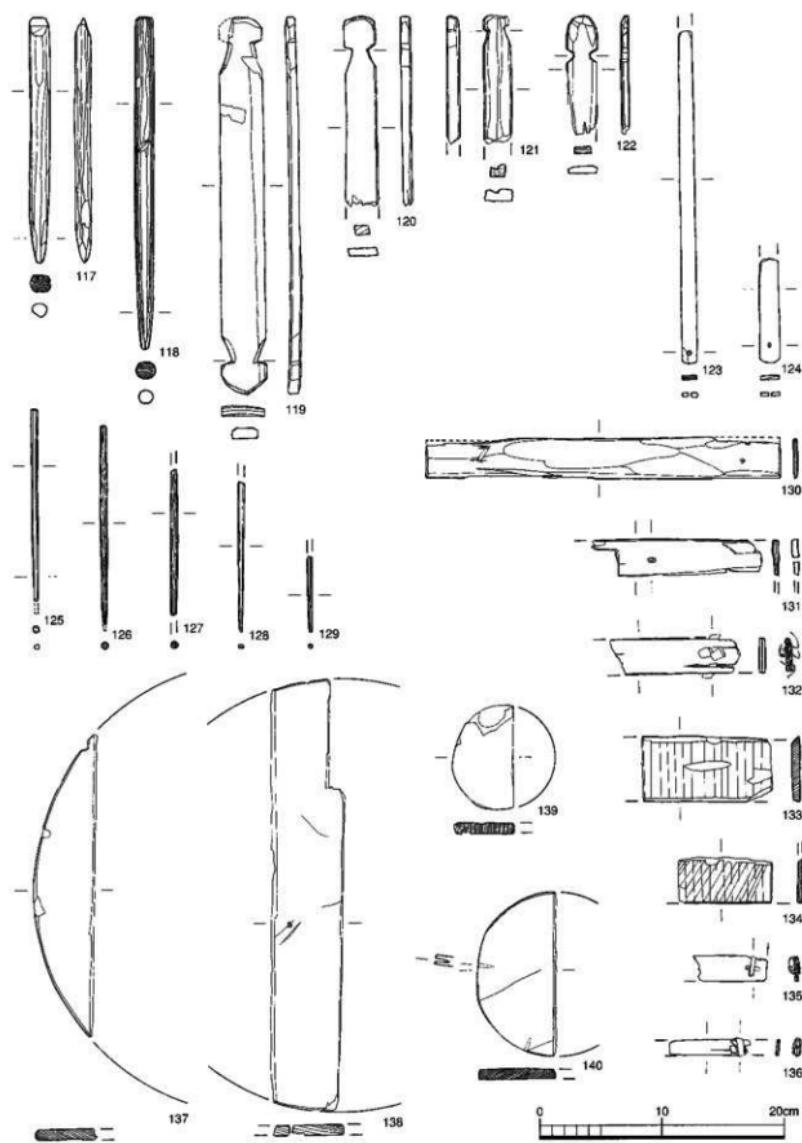
第31図 3区東5層 出土遺物



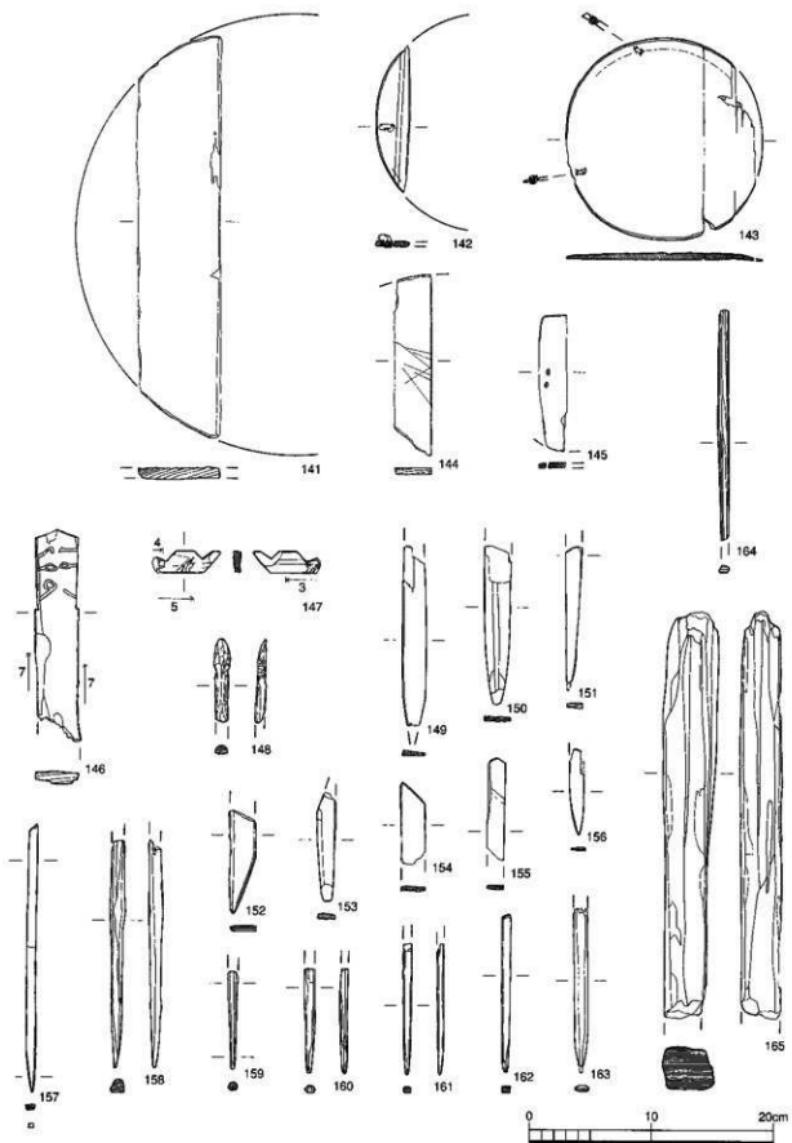
第32図 3区東6層 出土遺物



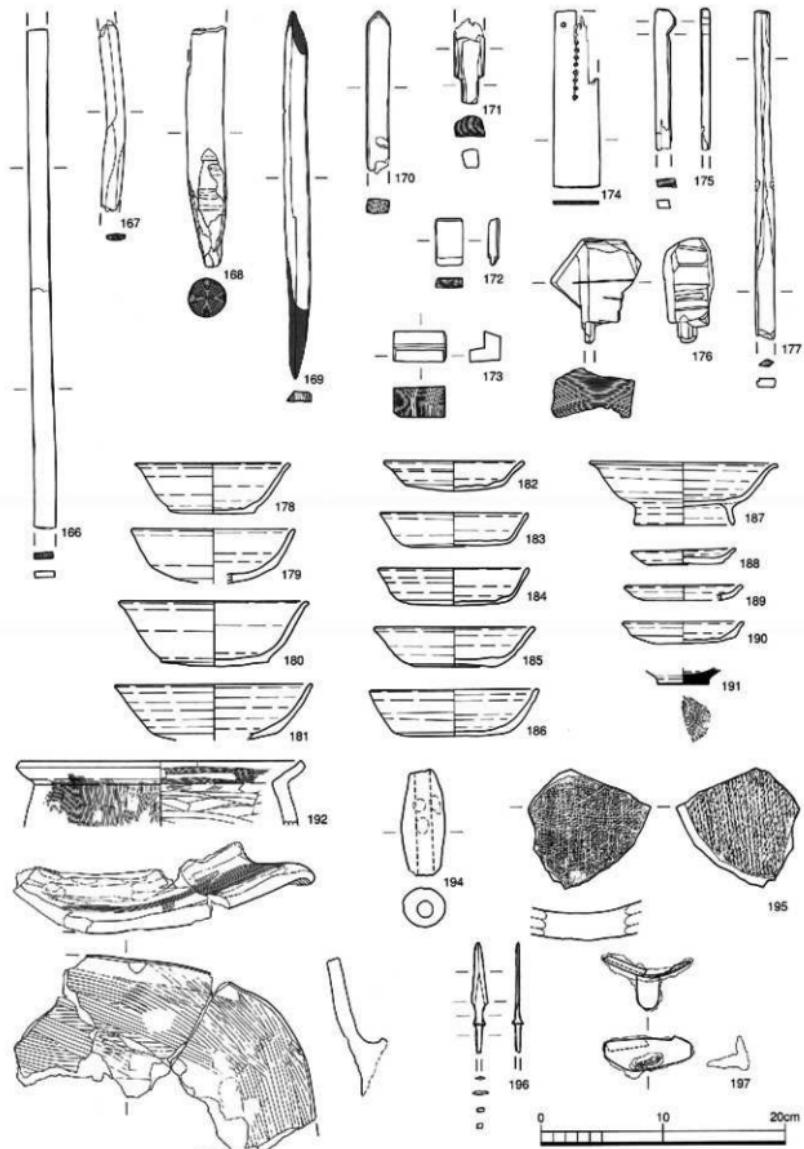
第33図 3区北・東7層 遺物出土位置図



第34図 3区東7層 出土遺物(1)



第35図 3区東7層 出土遺物(2)



第36図 3区東7層 出土遺物(3)

東から北西方向に大部分が分布するが、南西部にもまとまりが見られる。198は横楕か。199～201は織機である。202、203は柄である。204は櫛棒である。205は櫛扇の下端である。206～208は箸である。209～215は曲物蓋板もしくは底板である。210、213には片面に漆が付着している。214、215は桺皮結合曲物（E型式）の蓋板である。212も円周状圧痕が残存しており、桺皮結合曲物（E型式）の可能性がある。216～220は曲物側板である。218は縦の可能性がある。221～224は正面全身人形である。221は顔を表現した墨痕が残る。222は墨痕は残存しないが、浮き上がりが見える。225、226は刀形である。227はA2類の舟形であるが、屋形部は無い。228はA型式、241～244はC型式の斎串である。229～240、245、246は桺状祭祝具である。247～249は部材である。250～254は籌木である。255、256は火付棒である。257、258は用途不明の木製品である。259～267は土師器の杯である。268～273は土師器の皿である。274は墨書き土器である。黒色土器A類の椀の底部外面に墨痕が残る。

遺物の分布を見ると、小グリッドT-17とT-18の境界に大きなまとまりが見られる（第37図）。この中には229、231、232、234、236、243、246など、斎串や桺状祭祝具が見られる。また263の杯、272の皿が近接して出土した。この杯と皿のセットは259と268、266と269、261と270、271と274においても見られるが、現時点では、土器が原位置を保っているかどうかは未確定である。

⑦ 9層出土遺物（第41～46図）

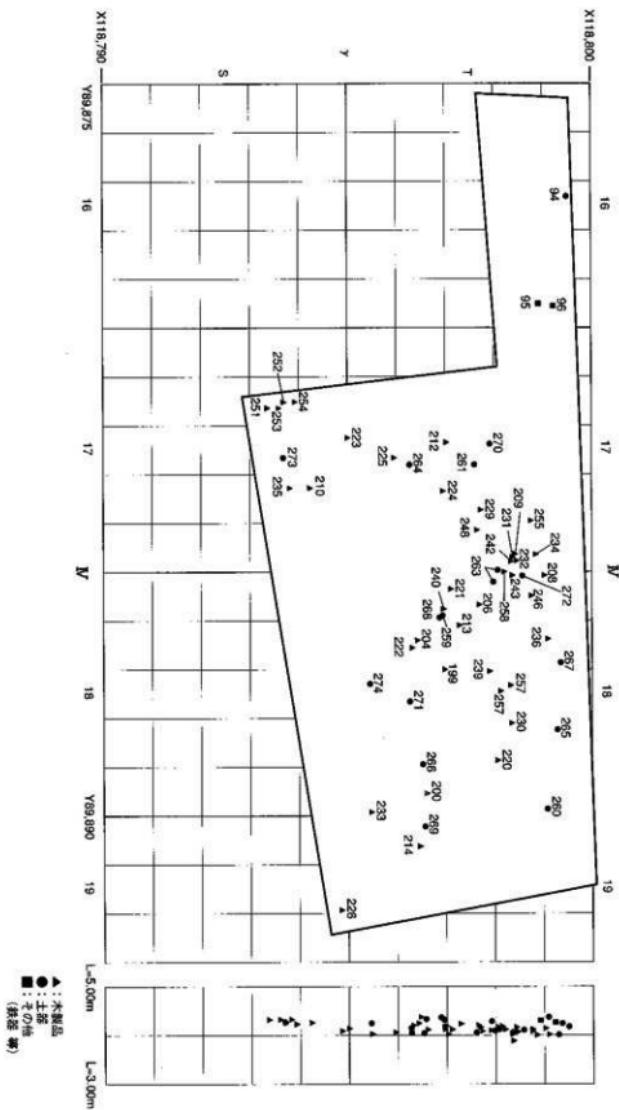
9層は調査区の全範囲に堆積する、オリーブ黒色の粘質シルト層である。遺物は7、8層同様に多い。特に、調査区北側中央部（T-17・18）に集中部が見られる。

275は刀子の柄である。276は桺である。277～281は箸である。282は曲物側板である。283～285は曲物蓋板である。286は曲物の未製品か。287は正面全身人形の一部である。288は刀形である。289～349は斎巾または桺状祭祝具である。289～300、302～311、314、324～326はC型式の斎串である。312はA型式、316はD型式か。350は断面3角形の棒状の木製品を組合せ、桺皮縫で束ねたものである。351、352は杭である。353は火付棒である。354～356は部材である。357は用途不明である。逆三角錐状を呈する。358は須恵器の杯蓋である。359～368は土師器の杯である。369は土師器の皿である。370は火舎の高台部である。371は土鉢である。372は刀子である。

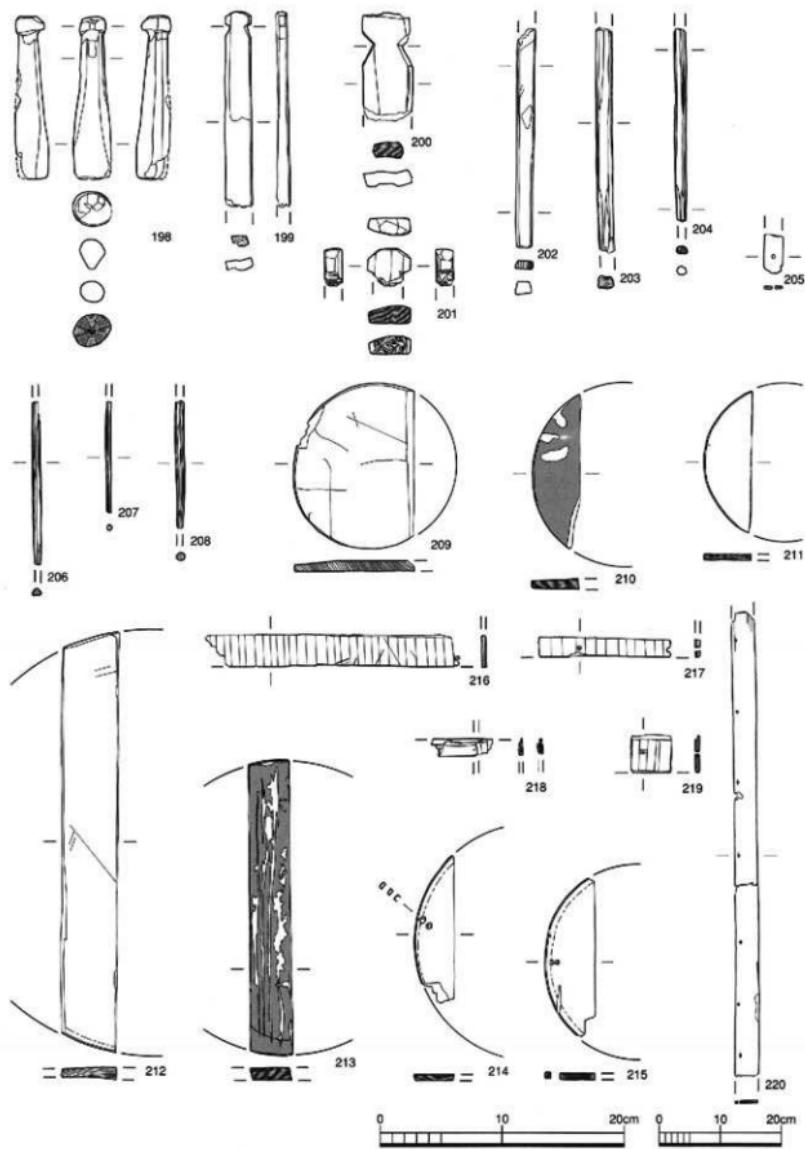
遺物の分布を見ると、小グリッドT-18とT-19の境界付近に斎串が集中する。第42図を見ると、斎串の集中部は北東と南西の2ヶ所に分かれ。南西側の集中部は、まとまりが明確である。8層の斎串のまとまりと同位置であることから、9層由来の斎巾が8層で捉えられた結果であろう。第43図は9層を除去した後の地形を表したものであるが、8層、9層で斎串が集中して出土した部分（網掛け部）は、標高3.7m以上の中洲の南斜面に位置することがわかる。祭祀の後にまとめて遺棄、または廃棄した可能性が考えられる。斎串集中部の西側には、364の杯と369の皿、363の杯と97の皿が近接して出土した。

⑧ 10層出土遺物（第47～49図）

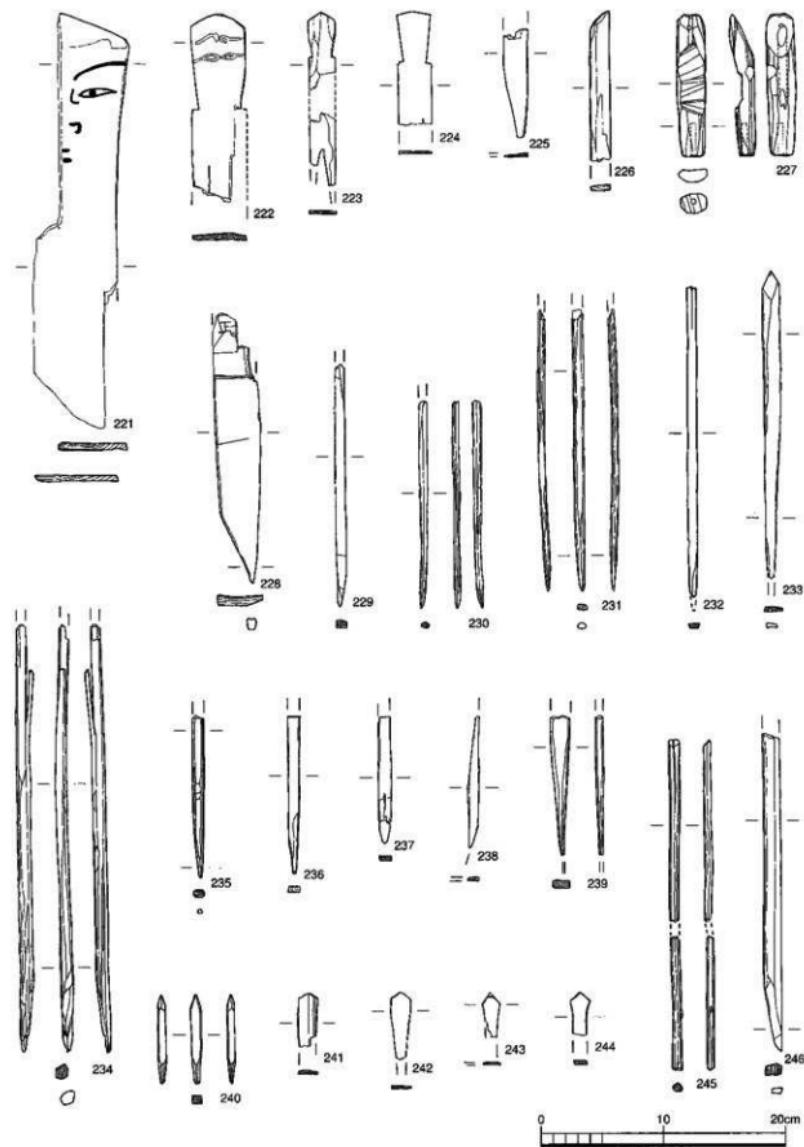
10層は調査区南西部にのみ堆積する、オリーブ黒色を基調とした粗砂層で、3区西の10層と一連の層であると考えられる。373は堅作の一部か。374～377は曲物である。376、377は桺皮結合曲物（E型式）で、蓋板である。378は挽物の皿である。379は鳥形である。380はA型式、381、382はC V型式の斎串である。383は部材である。384は用途不明である。385は須恵器の杯蓋である。386、387は土師器の蓋である。388は土師器の杯である。390は土師器の皿である。体部内外面に墨書きによる波線と内面に十字の模様が墨書きされる。391高杯の脚部である。392～394は土師器の壺である。



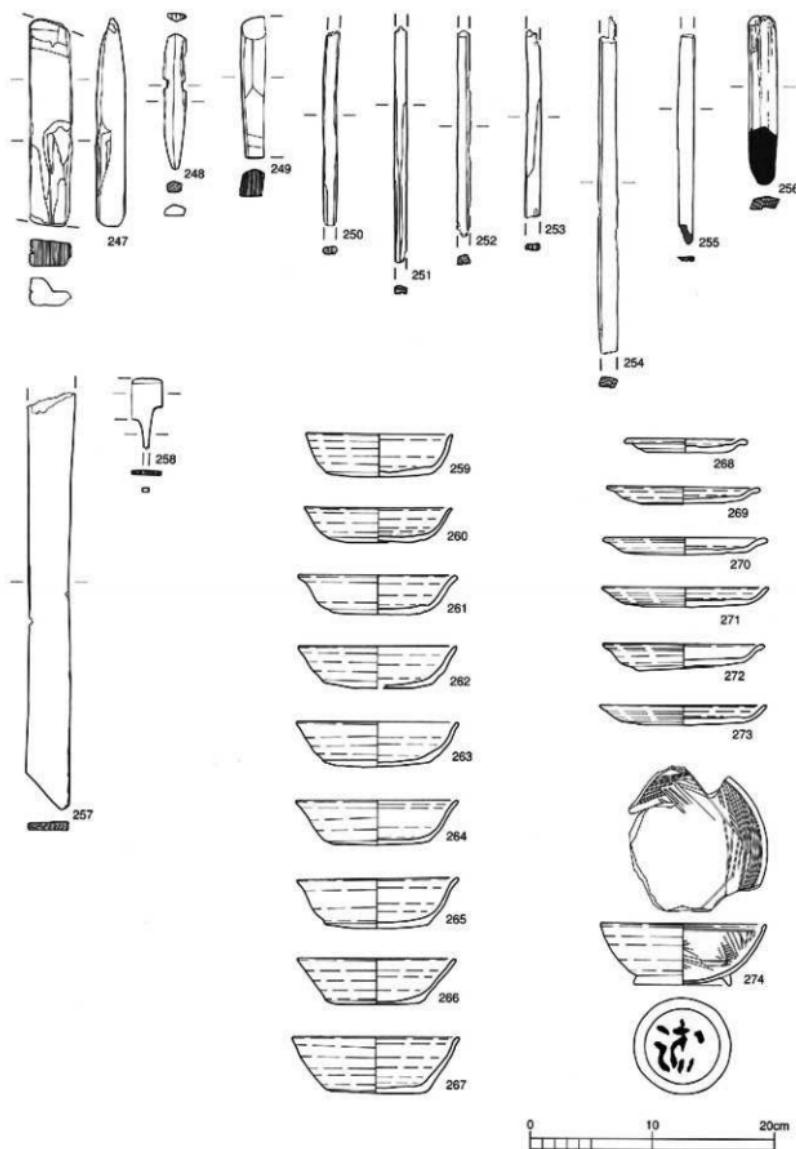
第37図 3区北・東8層 遺物出土位置図



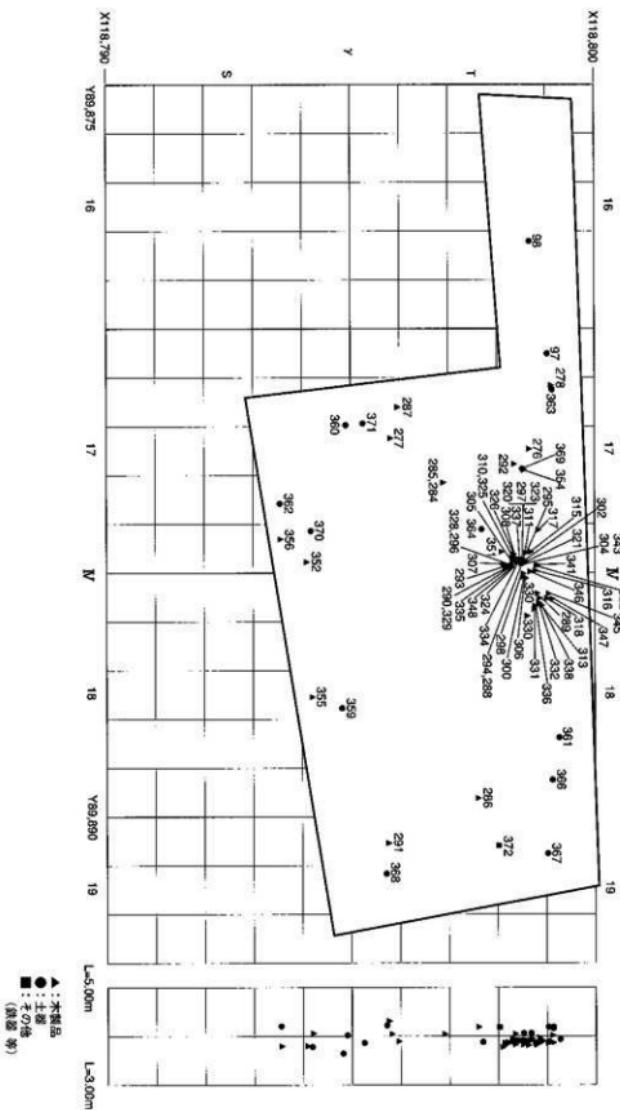
第38図 3区東8層 出土遺物(1)



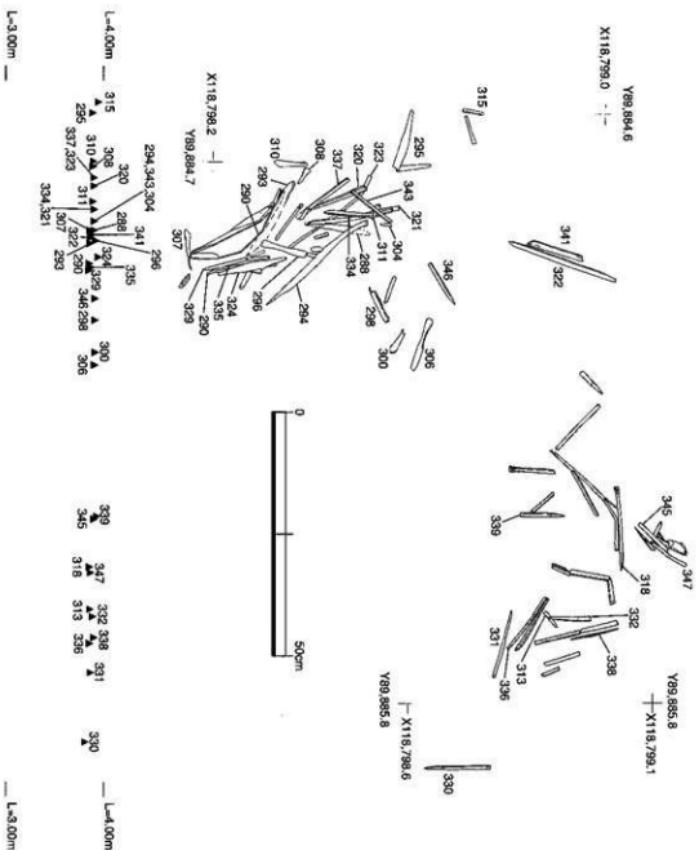
第39図 3区東8層 出土遺物(2)



第40図 3区東8層 出土遺物(3)



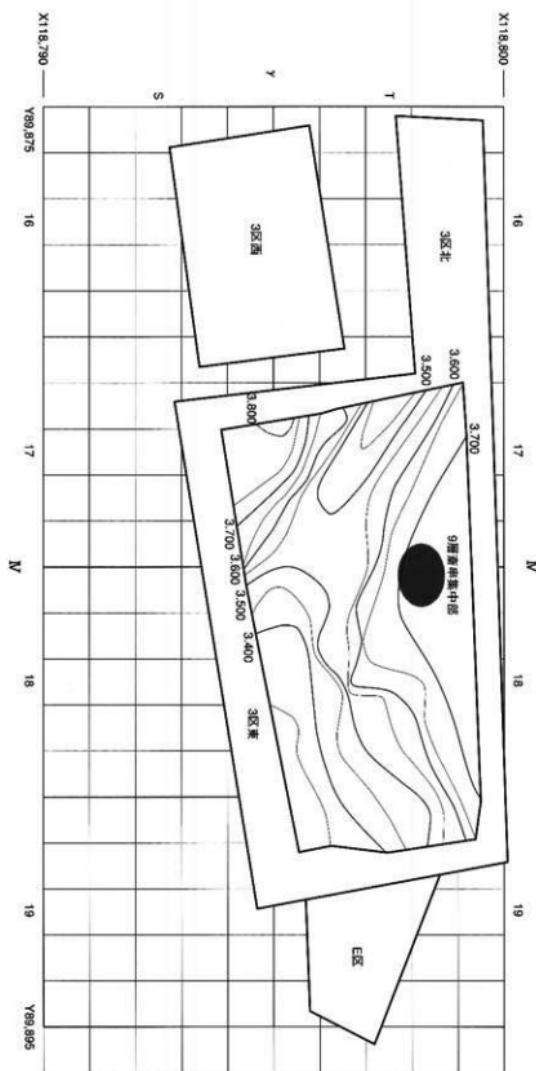
第41図 3区北・東9層 遺物出土位置図



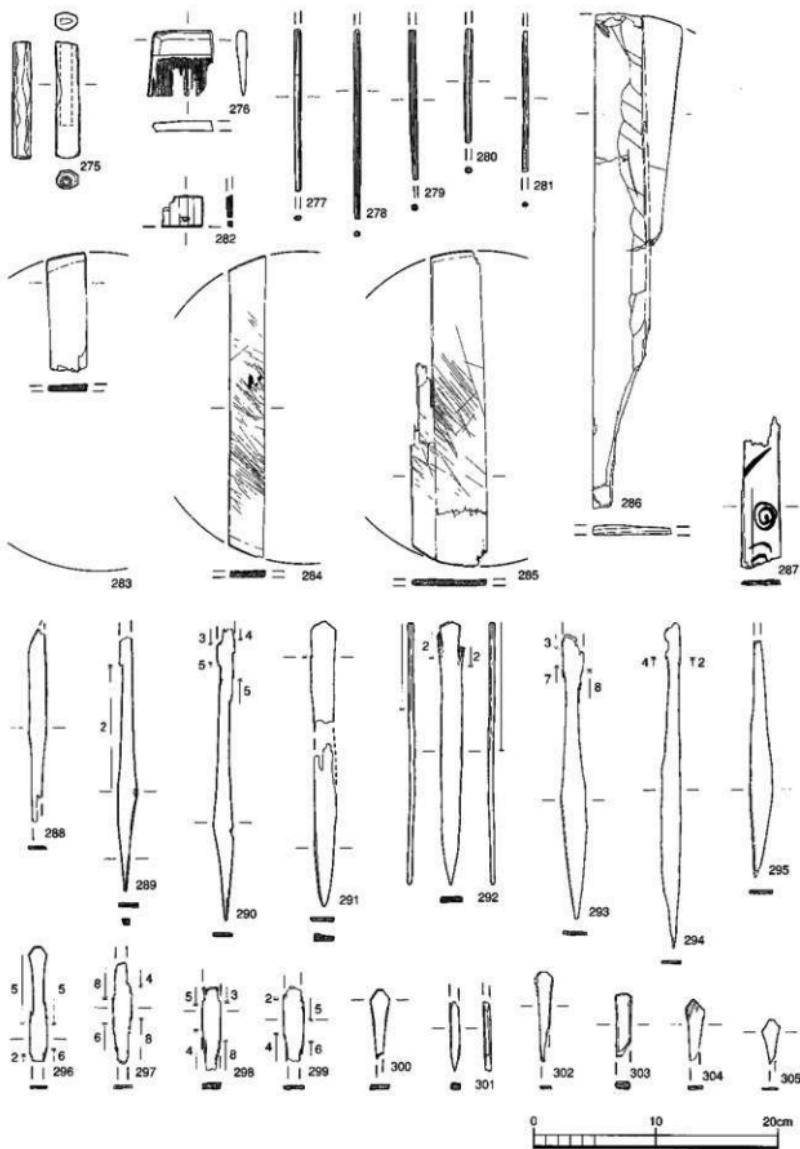
第42図 3区東9層 墓出土状況図

— L=3.00m —

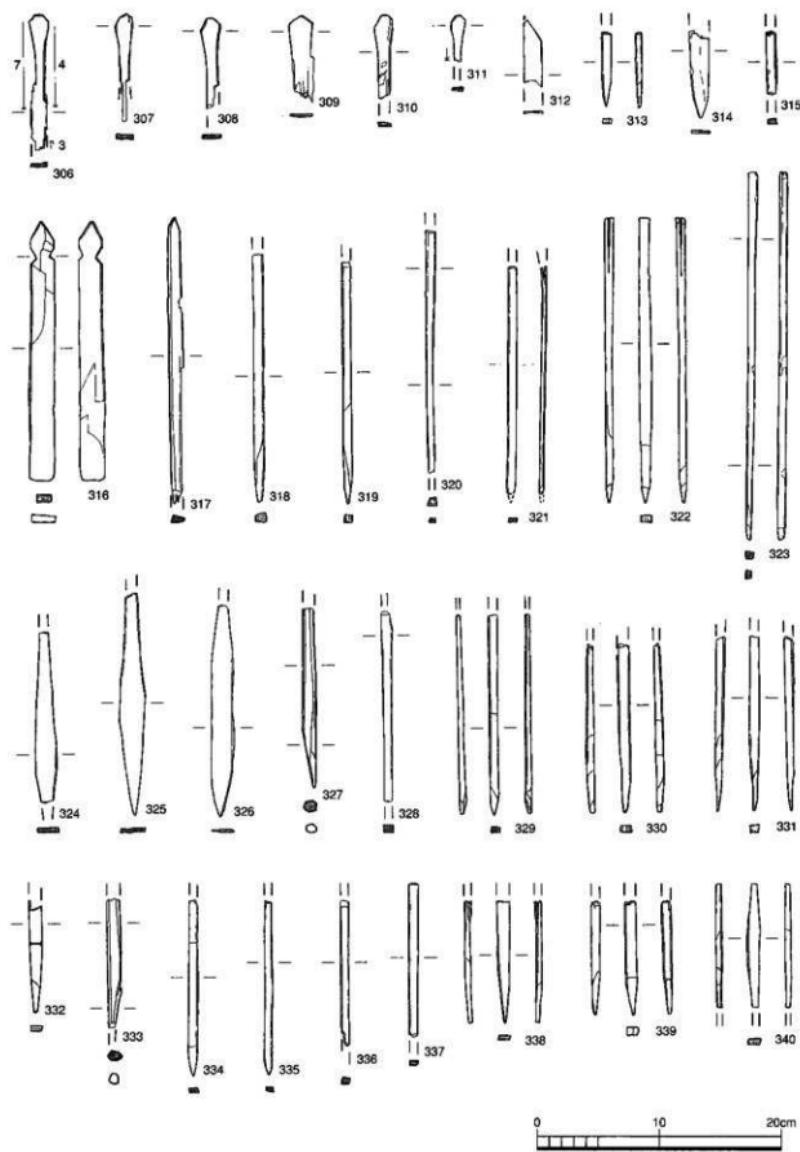
— L=3.00m —



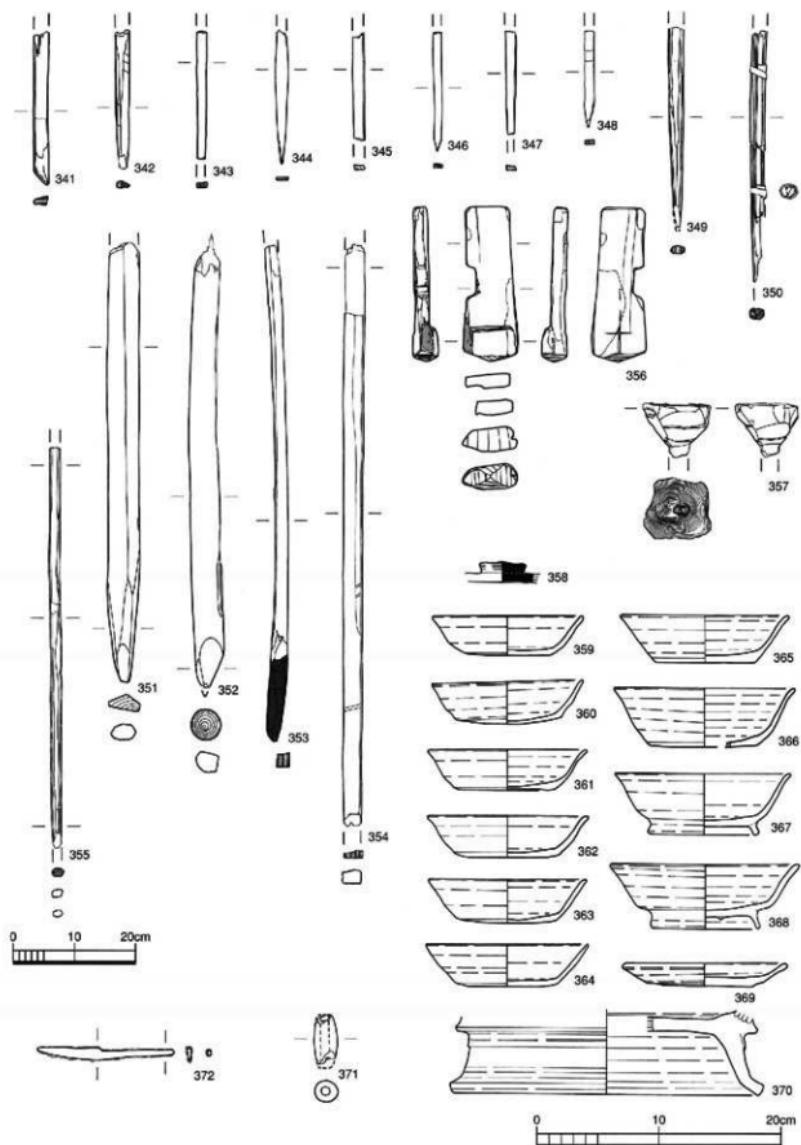
第43図 3区東10層上面（9層掘削後）の地形図



第44図 3区東9層 出土遺物(1)



第45図 3区東9層 出土遺物(2)



第46図 3区東9層 出土遺物(3)

⑨11層出土遺物（第47・50図）

11層は調査区南西部に厚く堆積する、オリーブ黒色の粘質シルト層である。395、396は曲物である。396は樺皮結合曲物（E型式）で蓋板である。397は棒状祭祀具である。398は火付棒である。

⑩12層出土遺物（第51～54図）

12層は調査区南東部に堆積する、オリーブ黒色の粘質シルト層である。399は下駄である。400は船軸である。401は題籠軸である。402、403は櫛である。404～406は箸である。407、408は曲物側板である。409～411は曲物である。409は片面に漆が残存する。410は樺皮結合曲物（E型式）の蓋板である。412は円筒状人形である。413は△型式の齋巾である。414～418はC型式であるが、415はC V形式、417はC III型式と見られる。419～428は棒状祭祀具である。429は杭である。430は籌木である。431は火付棒である。432～435は用途不明である。436は土師器の蓋である。437は土師器の杯蓋である。内面に墨書きがある。これは、「観音寺遺跡（IV）」の墨書き土器2666と接合することが明らかになった。438は土師器の杯である。439は土師器の皿である。440～456は土師器の杯である。457～459は土師器の皿である。460は土師器の高杯である。461、462は須恵器の杯である。463は黒色土器A類の椀である。464～466は土師器の壺である。467は土師器の甕である。468は平瓦である。469～471は土鍤である。472はリ子である。473はスラグである。

⑪13層出土遺物（第55・56図）

13層は調査区南東部に堆積する、オリーブ黒色の粘土層で15層由来の粗砂を含む。474は木製の留針である。475は曲物蓋板である。476は楕円形曲物底板である。477は棒状祭祀具、478はC I型式の斎巾である。479は土師器の杯である。

⑫14層出土遺物（第57～59図）

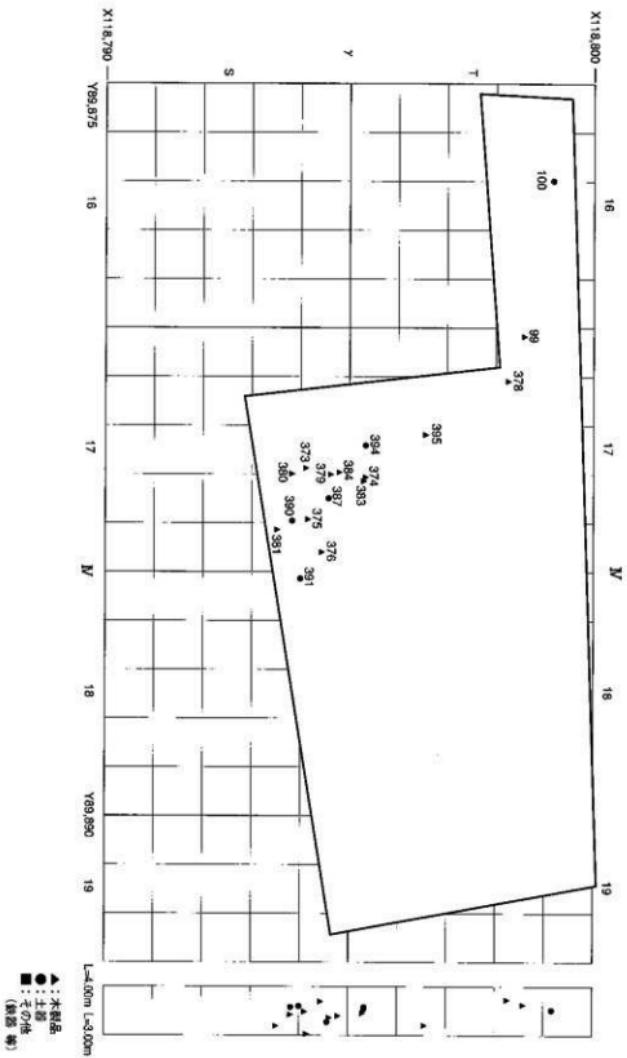
14層は調査区全範囲に分布する、オリーブ黒色のシルト及び砂質シルト層である。480は横樋である。481は系巻杵木である。482、483は編棒である。484～487は曲物である。486は樺皮結合曲物（E型式）で、蓋板である。488、489は円筒状人形である。490～492はA 2類の舟形である。492は船首部のみで、船首上部が欠損している。舟形部に穿孔があり、船尾部と組み合わせた可能性がある。493～496は斎串である。493はC IV型式、494はC I型式、495はA型式、496はC型式である。497は馬銭である。498は部材である。499は須恵器の杯蓋である。500～502は土師器の杯である。502は底部内面に螺旋状暗文と体部内面に放射状暗文を施す。503は土師器の皿である。504は羽釜である。

⑬15層出土遺物（第60・61図）

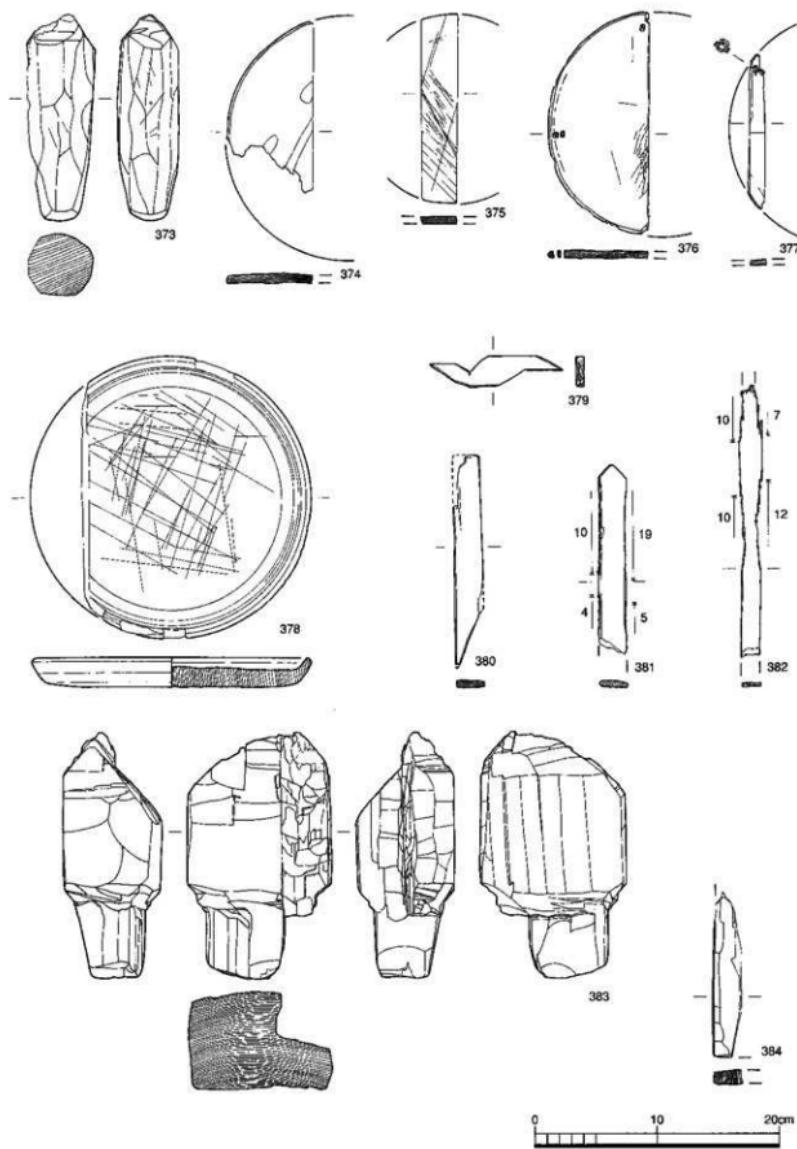
15層は調査区全範囲に堆積する、緑黒色もしくはオリーブ黒色の粒子の粗い砂層である。遺物の出土数は少ない。505は木製の留針である。506、507は曲物である。507は円周状の圧痕が見られるため樺皮結合曲物（E型式）の蓋板の可能性がある。508は杭である。509は土師器の杯である。510、511は土師器の甕である。512は瓶の把手である。513は方頭形の鉄鋤である。

⑭出土遺物（第62図）

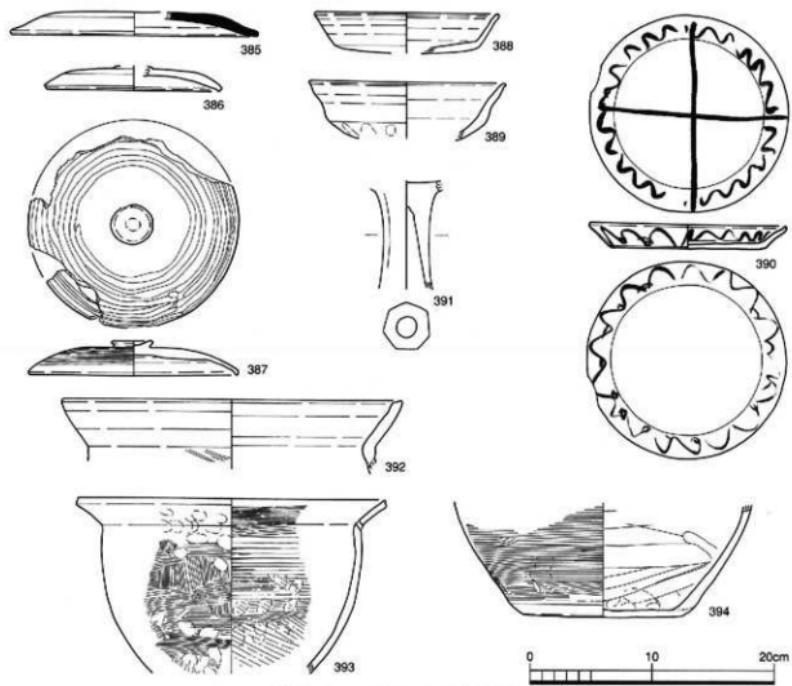
514、515は曲物である。516、517は杭である。



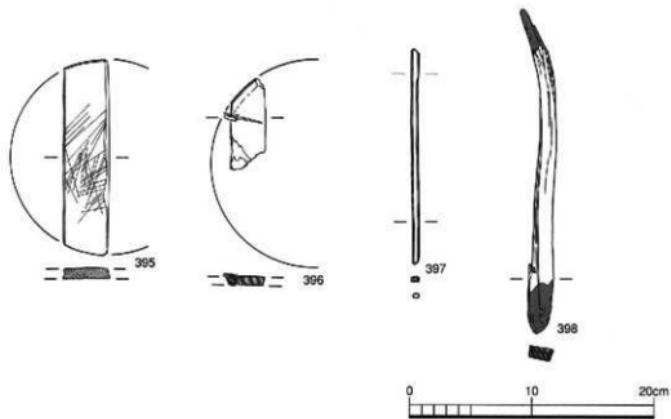
第47図 3区北・東10・11層 遺物出土位置図



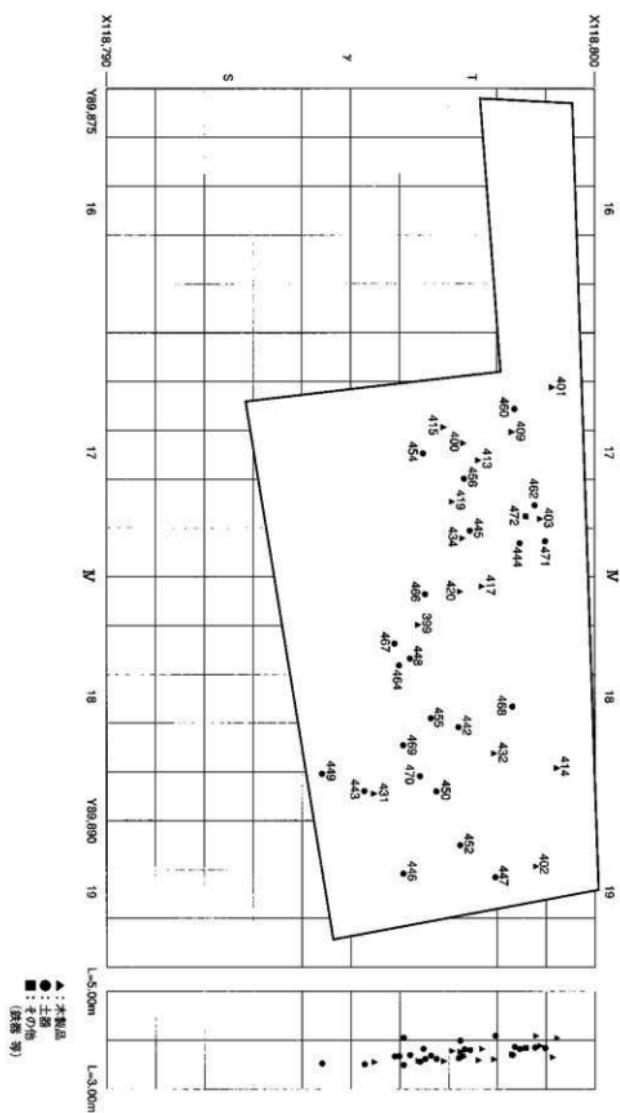
第48図 3区東10層 出土遺物(1)



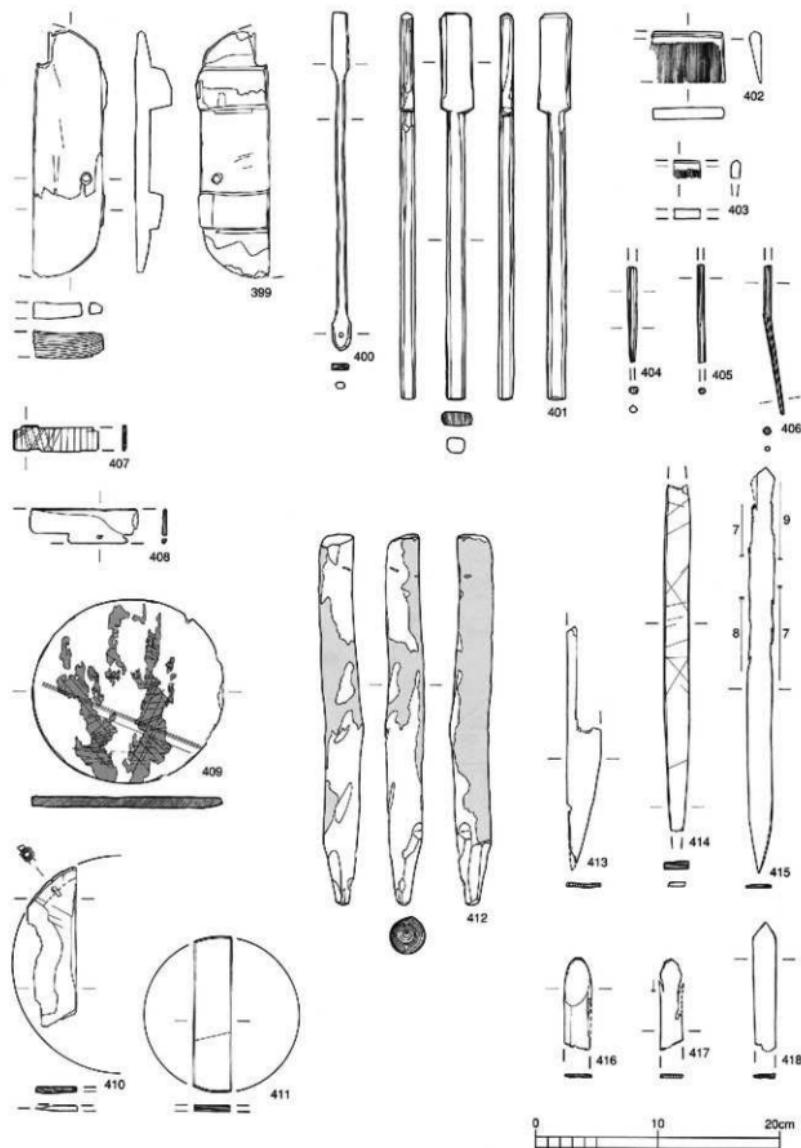
第49図 3区東10層 出土遺物(2)



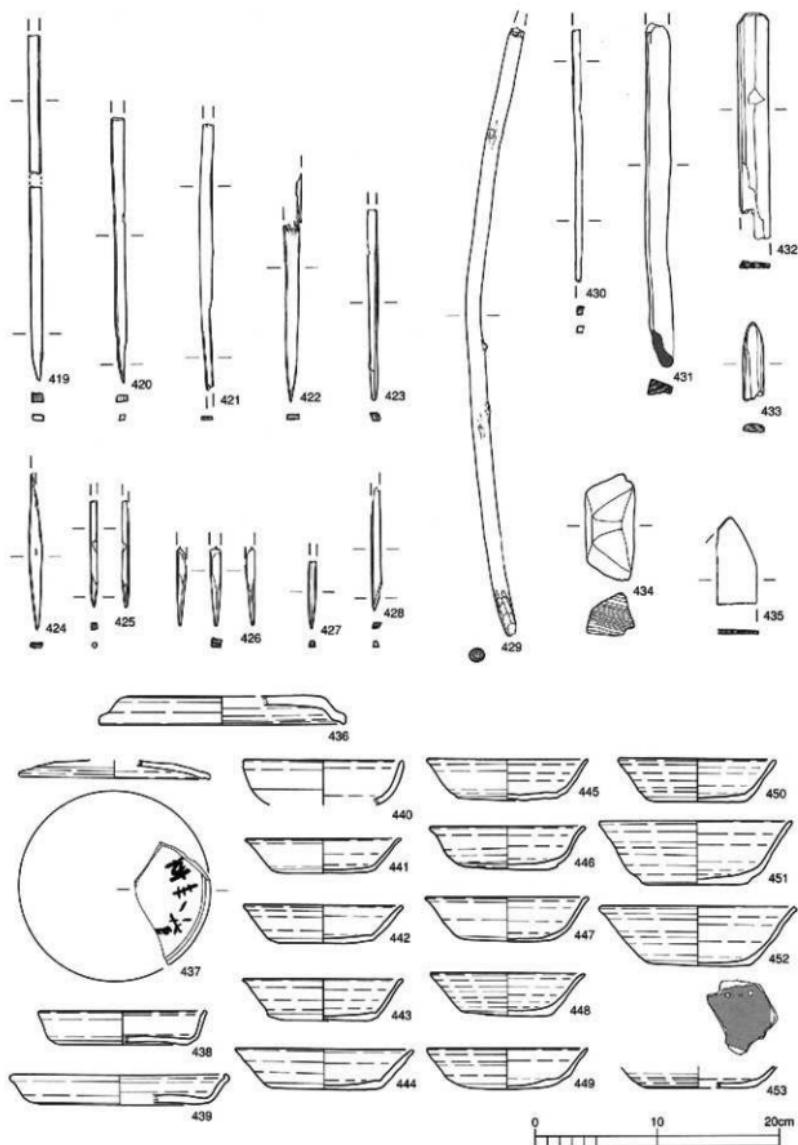
第50図 3区東11層 出土遺物



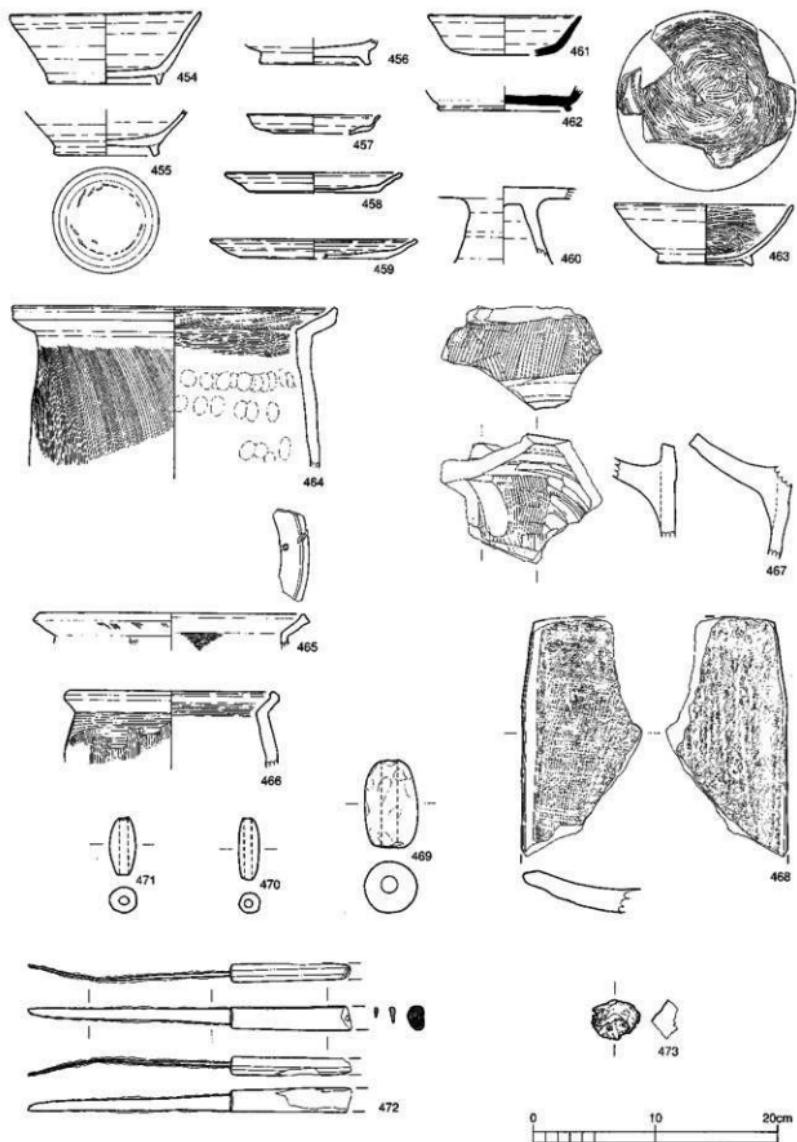
第51図 3区東12層 植物出土位置図



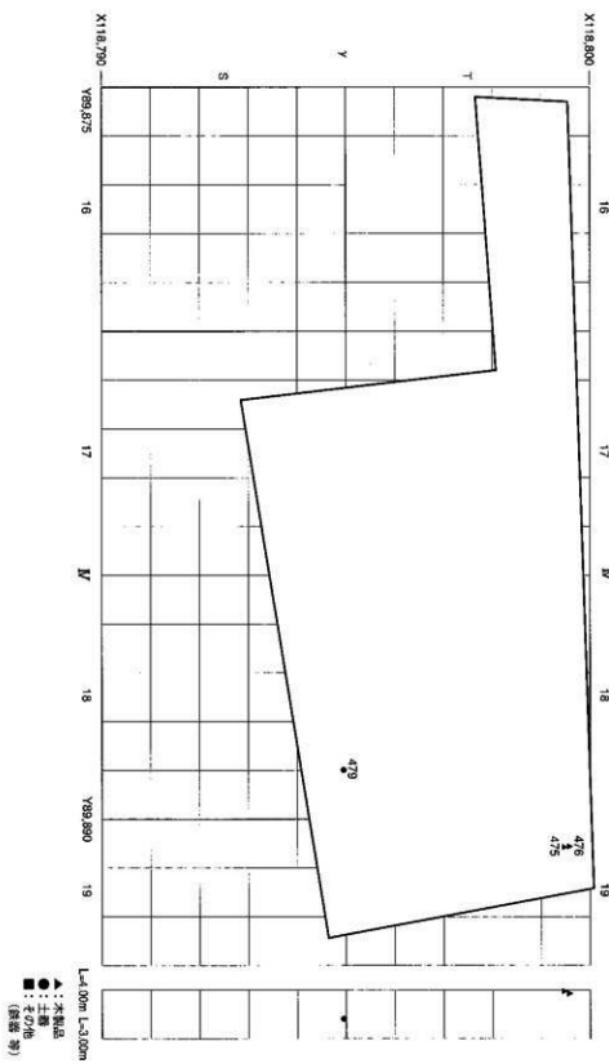
第52図 3区東12層 出土遺物(1)



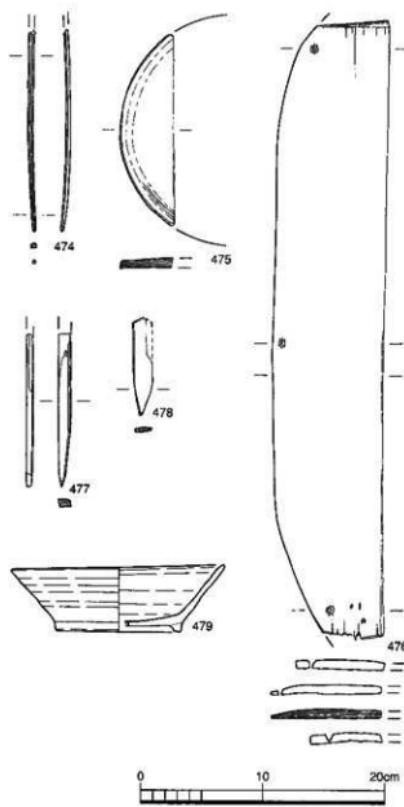
第53図 3区東12層 出土遺物(2)



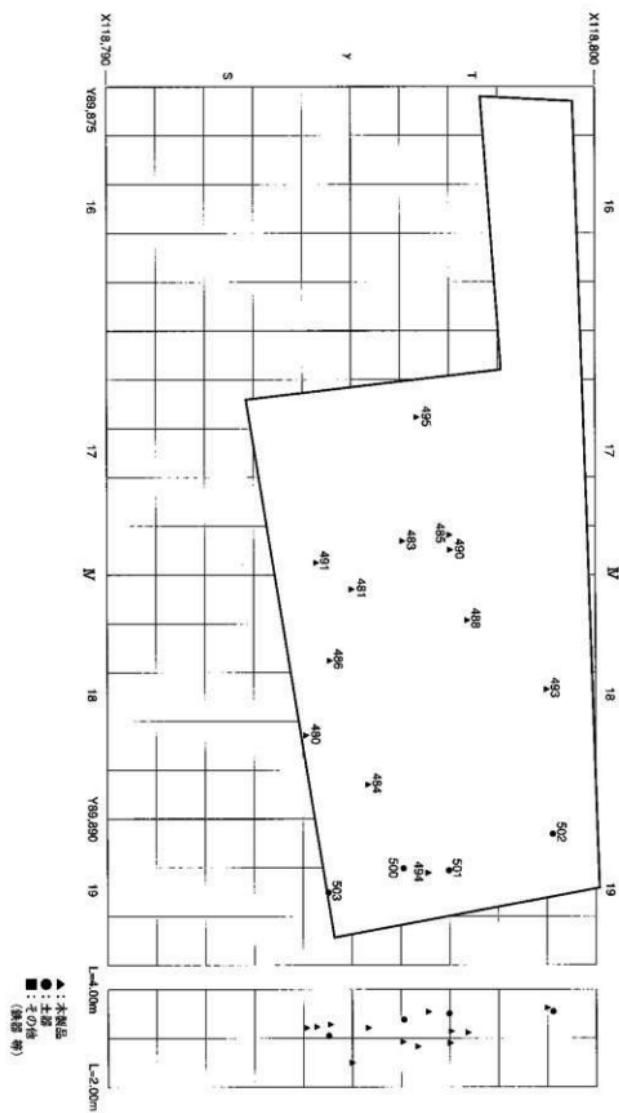
第54図 3区東12層 出土遺物(3)



第55図 3区東13層 造物出土位置図

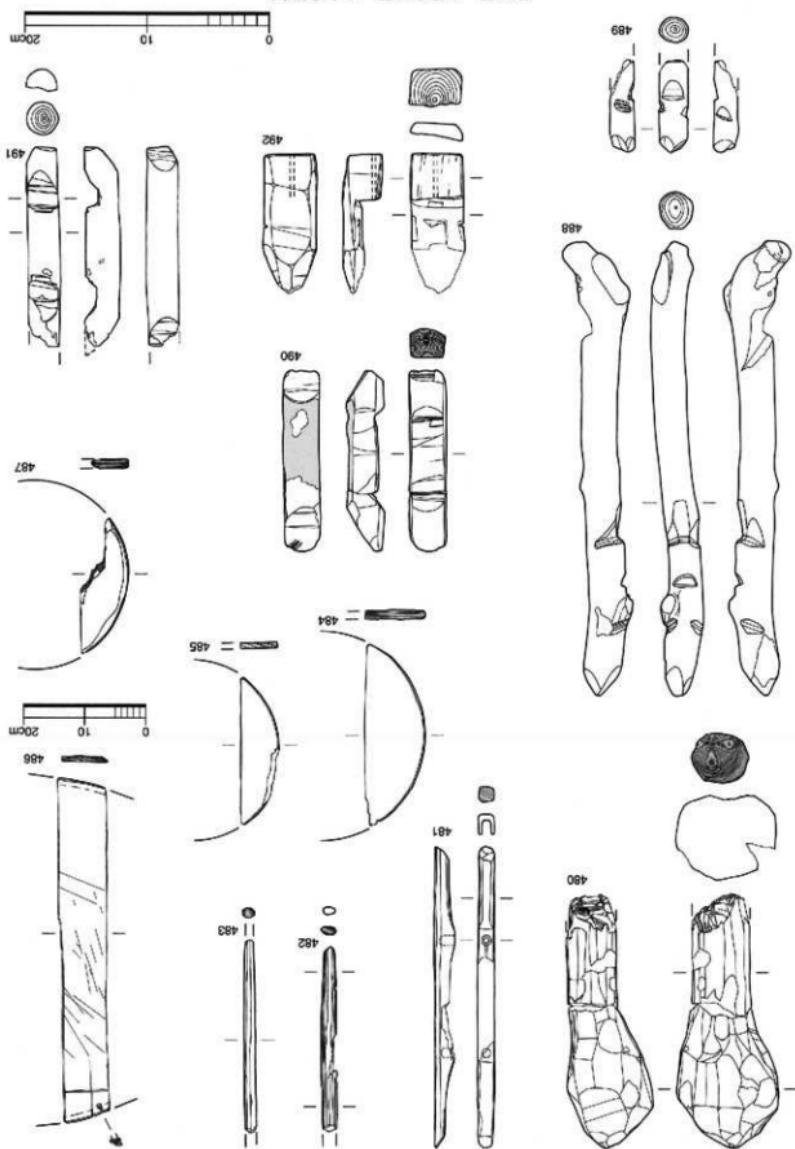


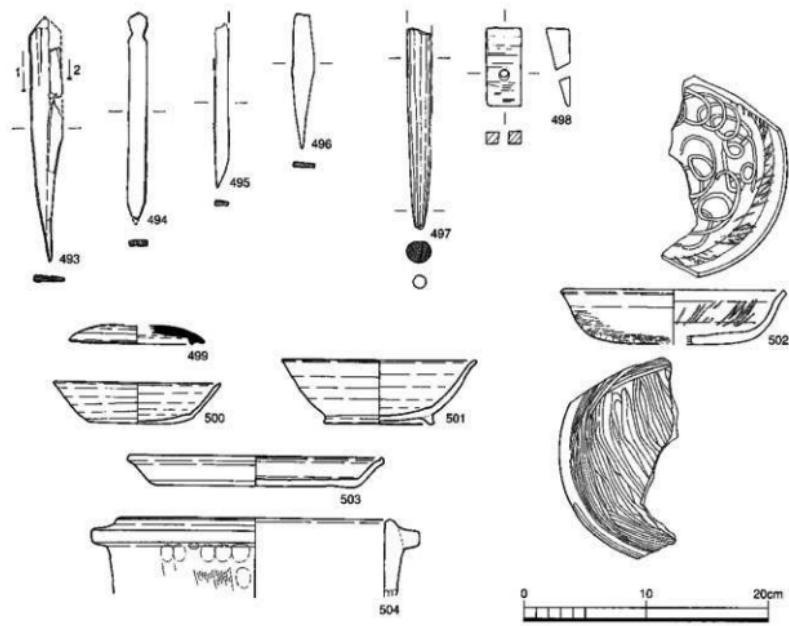
第56図 3区東13層 出土遺物



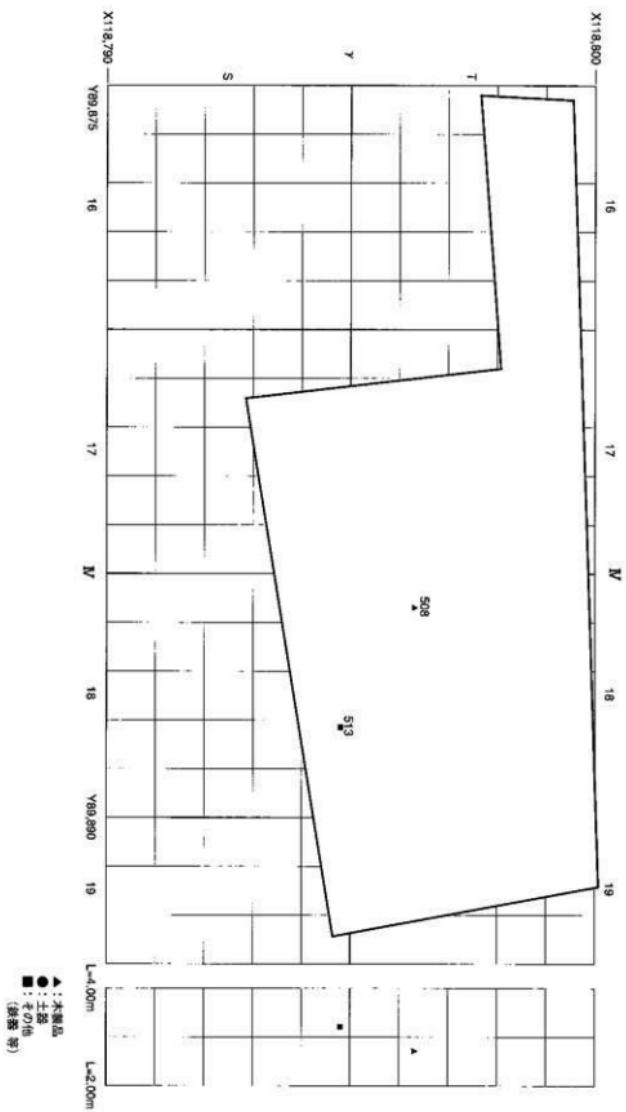
第57図 3区東14層 遺物出土位置図

第58圖 3區東14墓 出土遺物(1)

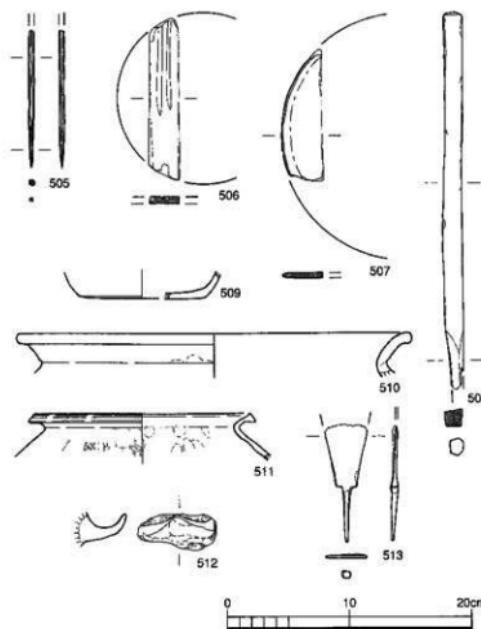




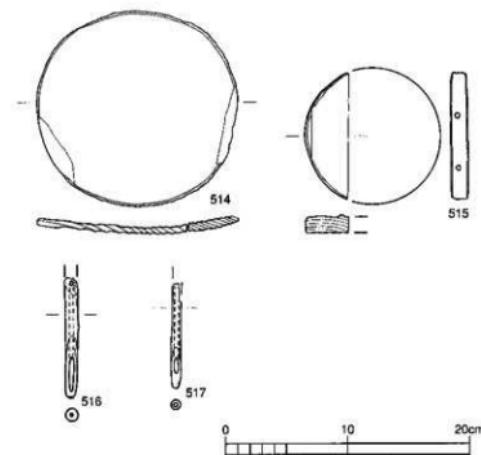
第59図 3区東14層 出土遺物(2)



第60図 3区東15箇 遺物出土位置図



第61図 3区東15層 出土遺物



第62図 3区東 出土遺物

(4) E 区

① 土層堆積状況（第63図）

E 区は3区東の東側に拡張した部分である。1層は現在の舌洗川の堆積層である。上層の2～4層は粘土、5～14層は細砂もしくは砂質シルトで、ほぼ水平に堆積している。15～18層は粘質シルト、19層以下は粗砂層となり、わずかに東へ下りの堆積を示す。基本的な層の重なりは3区東と同様である。

以下に各層ごとに出土遺物を記述するが、上記の1、2層をA層、3～5層をB層、6層をC層、7、8層をD層、9～14層をE層、15～17層をF層、18層をG層、19～23層をH層、24層をI層、25層をJ層としてまとめた。

② A層出土遺物（第64・68図）

A層は、灰色の砂層（第63図・1層）とその周囲のオリーブ黒色粘土層（2層）からなり、調査区内での最上層である。518は漆器椀の蓋である。519は土師器の杯である。

③ B層出土遺物（第65・69図）

B層は、オリーブ黒色の粘土層（3、4層）と灰色の砂層（5層）からなり、調査区の全範囲に堆積する。520は編織である。521は杭である。522～524は土師器の杯である。

④ C層出土遺物（第66・70図）

C層は、オリーブ黒色の砂質シルト層（6層）である。北壁の断面（第63図）には東側のみに見えるが、調査区の北西側を除いた範囲に堆積する。遺物の分布は、E区の中央部西よりに集中する。525は木鍤である。526は曲物側板である。527は部材である。528は用途不明である。529～531は土師器の杯である。

⑤ D層出土遺物（第67・71図）

D層は、オリーブ黒色の粘質シルト層（7層）と灰色の砂層（8層）からなる。調査区全範囲に堆積する。遺物の分布はE区の北東部に多い。532、533は棒状祭礼具である。534は杭である。535は用途不明である。この形状のものは他の地点に出土例がある。536、537は土師器の杯である。

⑥ F層出土遺物（第72図）

F層は、オリーブ黒色の粘質シルト層（15～17層）からなる。調査区東側に厚く堆積する。538～540は土師器の杯である。541、542は土師器の壺である。

⑦ G層出土遺物（第73図）

G層は、オリーブ黒色の粘質シルト層（18層）である。543～545は土師器の杯である。

⑧ H層出土遺物（第74・76図）

H層は、暗オリーブ灰色の砂層（19～22層）と暗緑灰色の砂層（23層）からなる。546はC型式の斎事半の断片である。547は部材である。548、549は土師器の杯である。550は土師器の皿である。内部に墨書きによる模様が僅かに残る。

⑨ I層出土遺物（第75・77図）

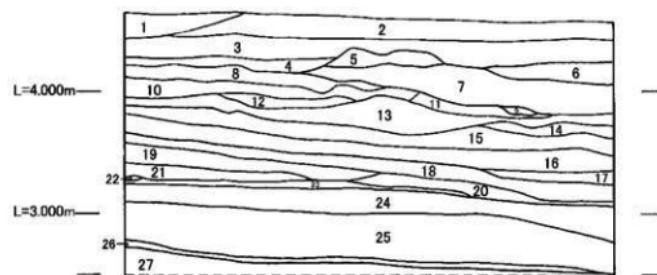
I層は、オリーブ黒色の粘土層（24層）である。555は土師器の杯である。556、557は土鍤である。

⑩ 出土遺物（第78図）

558は曲物である。片面に漆が付着している。559は剣形である。

（大橋）

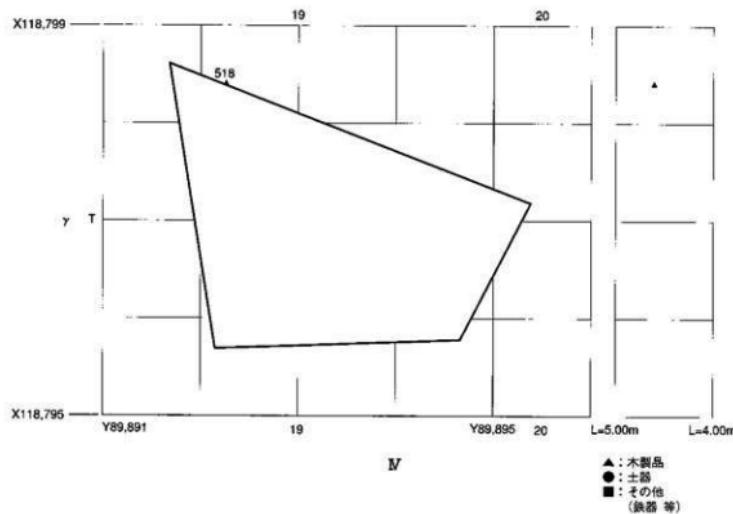
L=5.000m---



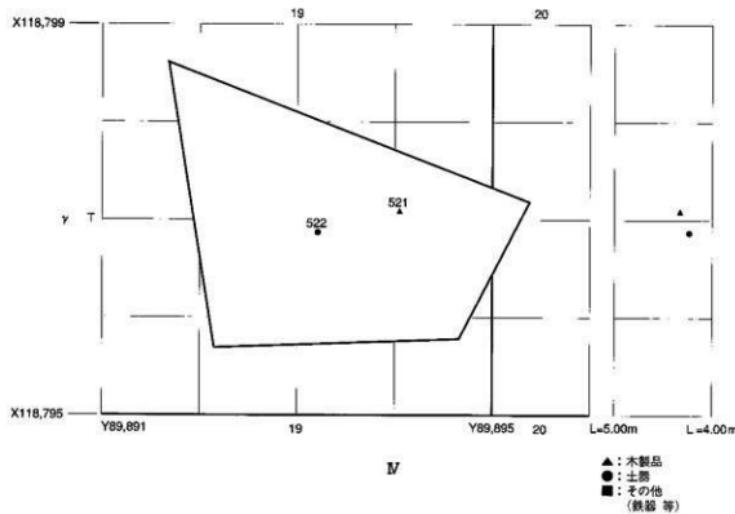
- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 1 灰 (10Y4/1) 砂 | 15 オリーブ黒 (10Y3/1) 粘質シルト |
| 2 オリーブ黒 (5Y3/1) 粘土 | 16 オリーブ黒 (7,5Y3/1) 粘質シルト |
| 3 オリーブ黒 (5Y3/2) 粘土 | 17 オリーブ黒 (7,5Y3/2) 粘質シルト |
| 4 オリーブ黒 (5Y3/2) 粘土 | 18 オリーブ黒 (7,5Y3/1) 粘質シルト |
| 5 灰 (5Y4/1) 砂 | 19 暗オリーブ灰 (2,5GY3/1) 砂 |
| 6 オリーブ黒 (5Y3/1) 砂質シルト | 20 暗オリーブ灰 (2,5GY3/1) 砂 |
| 7 オリーブ黒 (5Y3/1) 砂質シルト | 21 暗オリーブ灰 (5GY4/1) 砂 |
| 8 灰 (7,5Y4/1) 砂 | 22 暗オリーブ灰 (5GY4/1) 砂 |
| 9 灰 (10Y4/1) 砂 | 23 暗緑灰 (7,5GY4/1) 砂 |
| 10 灰 (10Y4/1) 砂 | 24 オリーブ黒 (7,5Y3/2) 粘土 |
| 11 オリーブ黒 (5Y3/2) 砂質シルト | 25 暗オリーブ灰 (5GY4/1) 砂 |
| 12 オリーブ黒 (5Y3/2) 砂質シルト | 26 暗オリーブ灰 (5GY4/1) 砂 |
| 13 灰 (10Y4/1) 砂 | 27 暗オリーブ灰 (5GY4/1) 砂 |
| 14 オリーブ黒 (5Y3/2) 砂質シルト | |



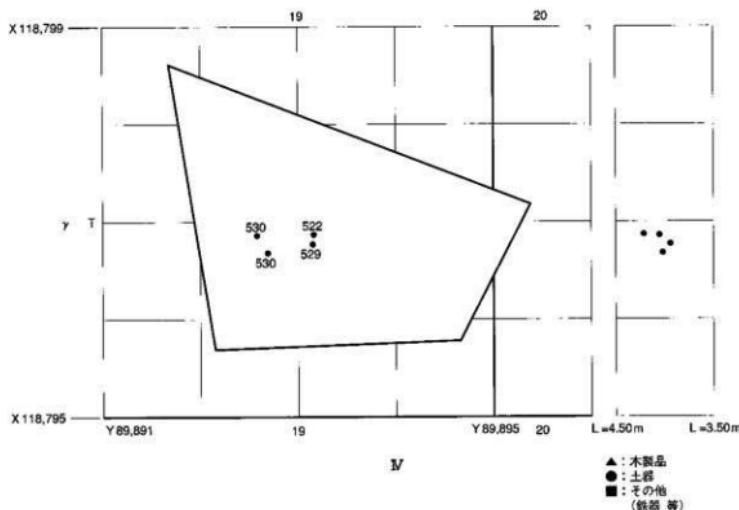
第63図 E区(北壁) 土層断面図



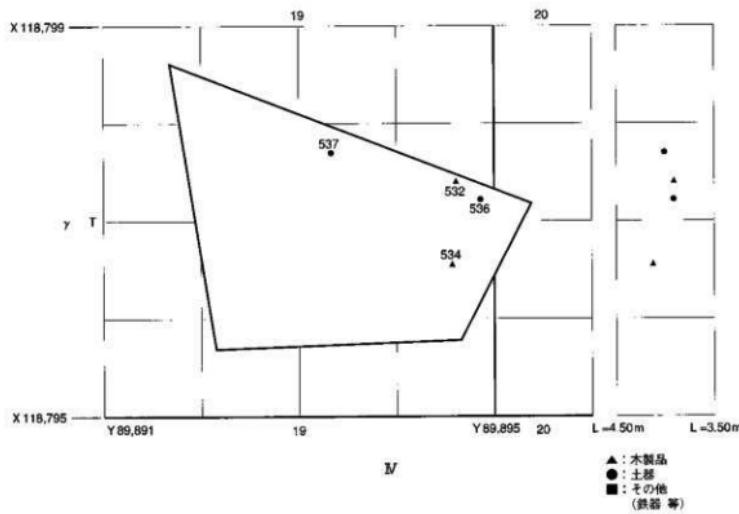
第64図 E区A層 遺物出土位置図



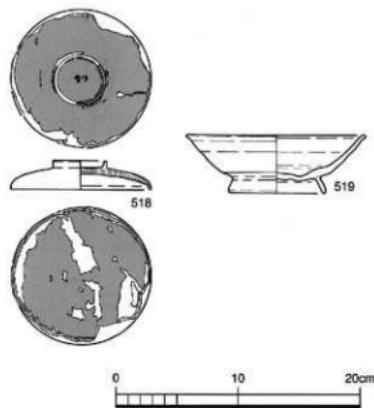
第65図 E区B層 遺物出土位置図



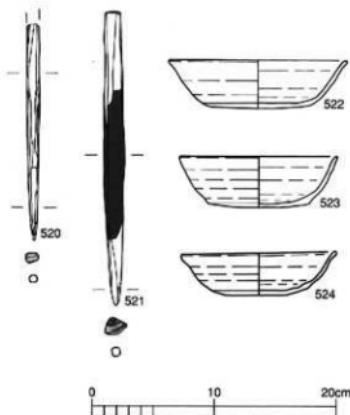
第66図 E区C層 遺物出土位置図



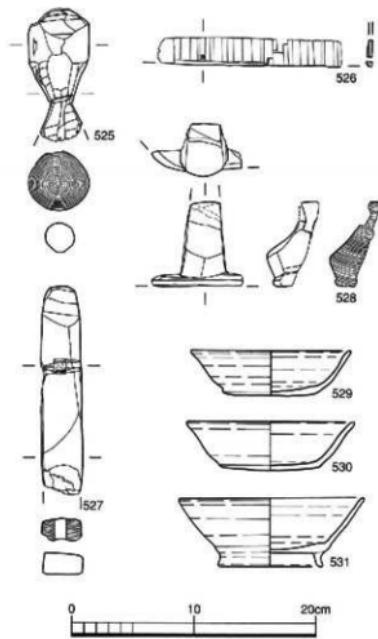
第67図 E区D層 遺物出土位置図



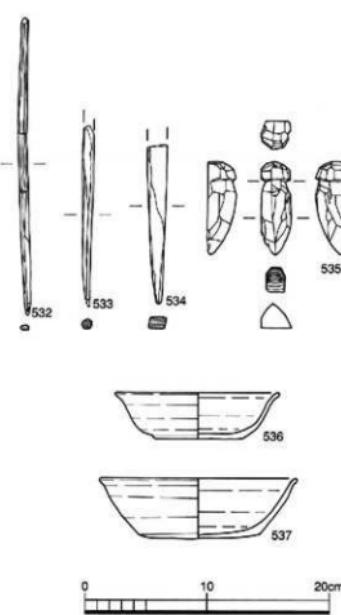
第68図 E区A層 出土遺物



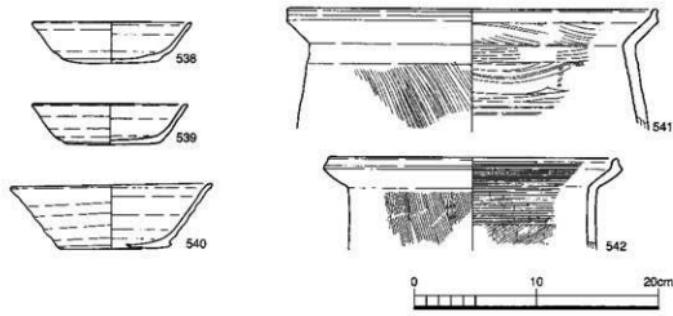
第69図 E区B層 出土遺物



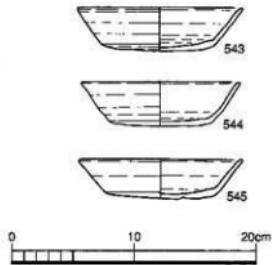
第70図 E区C層 出土遺物



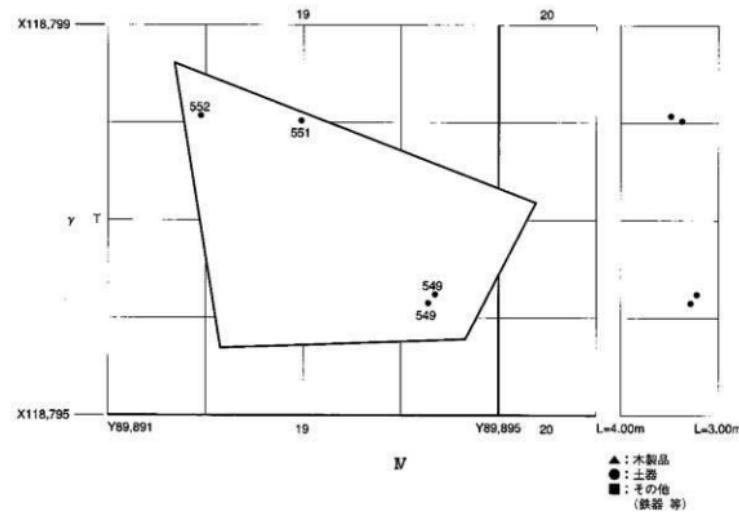
第71図 E区D層 出土遺物



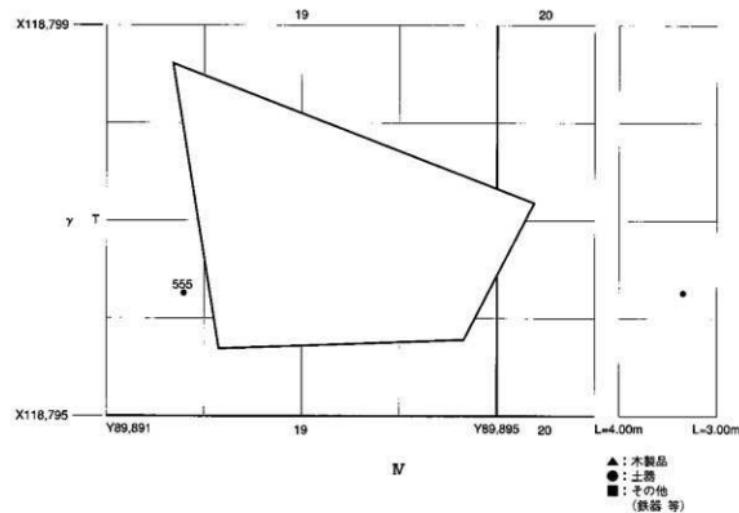
第72図 E区F層 出土遺物



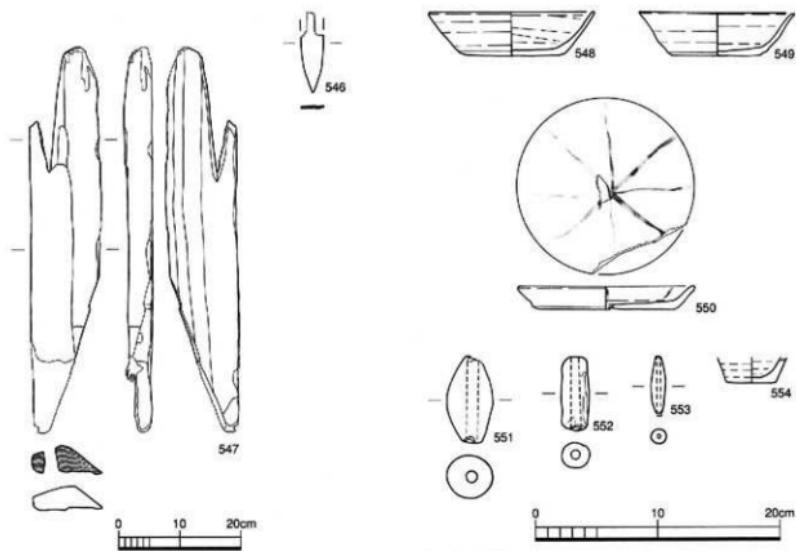
第73図 E区G層 出土遺物



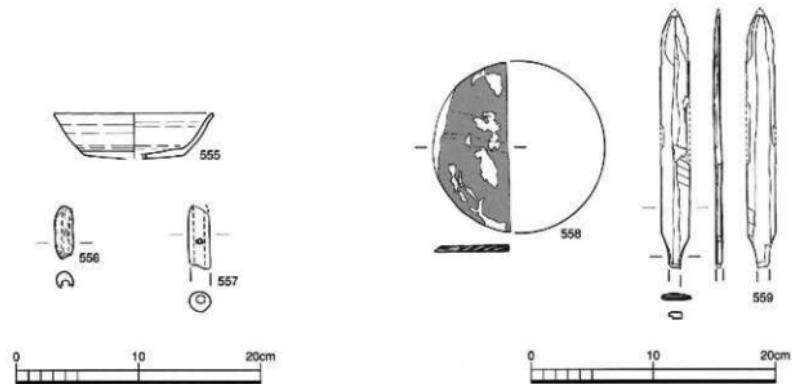
第74図 E区H層 遺物出土位置図



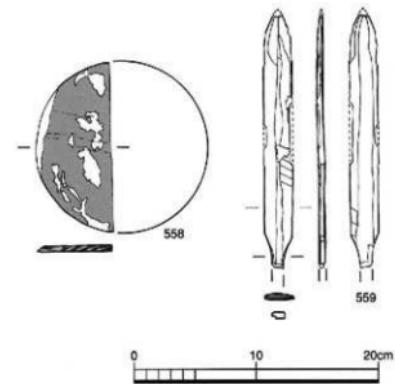
第75図 E区I層 遺物出土位置図



第76図 E区H層 出土遺物



第77図 E区I層 出土遺物



第78図 E区 出土遺物

φ γ π Λ



観音寺遺跡では、4条の自然流路が確認されている。南環状道路地点のSR1001 ((財)徳島県埋蔵文化財センター 2002『観音寺遺跡 I』)、西環状線地点のSR3001、SR4001、SR5001 ((財)徳島県埋蔵文化財センター 2008『観音寺遺跡 (IV)』)である。SR4001はSR5001が埋没した後の小さな流れと想定されるが、それ以外の3条は同一の流れか、別のものは明確にはなっていない。SR1001が6世紀末から8世紀前半までの堆積を中心としているのに対し、SR3001は8世紀後半から10世紀までの時期を中心としていること（それ以前の層位は、調査区の大部分において未調査である）、前者が幅20m程の規模であるのに対し、後者は幅90mの流域をもつなどの差異が明らかになっている。またSR3001の北側に位置するSR5001はSR1001と時期や規模が類似しており、その関係も考慮する必要があると考えられる。

本書で報告する調査区は、SR1001とSR3001の中間地点に位置する。大半がSR3001に含まれるもの、合流地点に近接した位置にあたると推測される。下層にはSR1001の堆積層が残存し、上層にSR3001の堆積層が見られると予想された。ここでは、これらの状況を踏まえて自然流路の堆積年代を検討し、SR3001の層位との対応関係を整理することとする。またこれまでの調査成果をまとめて、観音寺遺跡周辺の自然流路の位置関係について言及する。

1. 自然流路の堆積年代について

『観音寺遺跡 (IV)』ではSR3001の堆積をI～IX層に大別した。このうちIII～IX層が古代の自然流路の堆積層である。III層は10世紀前半から11世紀初頭、IV層は9世紀後半から10世紀前半、V層は8世紀後半から9世紀前半、VI～IX層は8世紀前半とした。

ここでは、これらに基づいて最も面積の広い3区東の土層堆積を検討する。3区東の1～6層は遺物の出土量が少なく、時期を特定することは困難である。7層は木製品、土器が多く含む。10世紀後半から11世紀初頭に位置づけられる。8層と9層は土器や斎巾の出土状況から、ほぼ同一時期の堆積層であると考えられ、10世紀前半に位置づけられる。218号木筒はこの層から出土した。10層は下層の15層山來の粗砂層が堆積するが、9世紀代の二次的な堆積と考えられる。11～13層は遺物量が減少する。ほぼ同質の層で一部に8世紀後半の遺物を含むが、10層と同様に9世紀代の堆積作用によるものと考えられ、220号木筒が出上している。14層は木製品に舟形、円筒状人形の増加など8世紀代の様相を見せるが、土器には時期幅が見られる。付札である222号木筒は「里」表記であり、8世紀初頭の堆積を含む可能性も考えられる。8～9世紀代の遺物が混在した状況である。15層は、過去の調査では掘削上の最下層となった厚い粗砂層である。以上からSR3001の層位と比較すると、7～9層はIII層に、10～13層はIV層に、14層はIV～V層に、15層はV層に対応させることができると考えられる。

次に出土遺物の多い3区西では、5～7層は10世紀後半に位置づけられる。8・9層はおおむね同質層であり、10世紀前半と見られる。10層は3区東の10層と一連の粗砂層である。11層は遺物が多く、221号木筒も出土している。8世紀前半と推定される。16層には遺物が多く、自然流路南岸の堆積層である可能性が高い。よって、ここでは5～9層はIII層に、10層はIV層に、11層はV層に対応させることができると見られる。

最も東に位置するE区では、A～G層までに遺物が多く見られる。それぞれ10世紀代におさまる年代を示すと見られIII層に対応する。H、I層は遺物が減少するが、9世紀代のIV層に位置づけられる。J

層は遺物が見えないが層の特徴からVI層、J層より下層はⅣ層に対応すると考えられる。

以上の結果、本調査区ではSR3001の一部であるにもかかわらず、「観音寺遺跡（IV）」での報告とは相違が見られた。最も大きな相違は、木簡を多く含むV層（8世紀後半）の堆積が見られないことである。3区西にわずかにⅣ層に対応する11層が残存する以外は、8世紀代の遺物を含む堆積層は堆積していない。これは9～10世紀の層であるIV・III層の堆積により、V・VI層の堆積層が二次的に削り取られてしまったためであると考えられる。9世紀の段階で新たな流れが、この調査区内に形成されたことがうかがえる。

さらにここで、今回の調査区内でのSR3001の変遷を層ごとに復元する。まず、最も下層のⅣ層は調査区の全範囲で厚く堆積する粗砂層である。調査区の南側では薄く、北側では厚い傾向がある。南側にはSR3001の南岸の傾斜面が見られることから、堆積が薄いと考えられる。一方、北側には盛り上がった部分が見られ、中洲を形成していたと考えられる。Ⅳ層は調査区南西部以外には見られず、大部分は上層によって浸食されてしまったと考えられる。VI層はおもに北側のⅣ層の盛り上がった部分に厚く堆積する。やはり後世の流れに浸食されずに残存した層が、中洲状の高まりを形成したものであると考えられる。IV層は南東部で厚く堆積し北西方に向かって伸びる。南東方向からの新しい流れであり、下層のVI～Ⅳ層を浸食して南岸と中洲の間を流れていたと考えられる。南東部では、かなり深い位置にも堆積が見られることから、淵のような部分であったとも想像される。III層は中洲が埋没した後の堆積で、調査区全体を薄く覆っている。細砂層やシルト層が小さな単位で交互に堆積していることから、短期間に水量の変動が繰り返された様子が見られる。

「観音寺遺跡（IV）」においても、自然流路の変遷について触れた。8世紀後半を中心とするV層段階の流れが、中洲を繞うように流れる状況が明らかになっていた。そして、中洲はIV層段階で埋没していた。今回の変遷を見ると、V層はほとんど残存しないことから、IV層段階での流れが自然流路の南岸に沿って流入したことにより、V層以下の堆積層が浸食を受け、北側に中洲を形成することになったと推測される。同様に南からのSR1001の河道も近辺に存在していたと推定できるが、西環状線地点ではSR3001の河道によって浸食されてしまった可能性が高いと考えられる。（大橋）

2. 観音寺遺跡における自然流路の変遷について

これまでの観音寺遺跡の調査では、各自然流路の切り合は確認されていないが、SR1001とSR3001は調査区の南東側で、SR3001とSR5001も調査区の東側で切り合は可能性が想定される。これらのことから自然流路の河道を推測し、観音寺遺跡周辺の自然流路の変遷について考察する。

第79、80図は、自然流路の推定河道を平面図にあらわしたものである。まず最初に、SR1001、SR3001、SR5001の規模と埋没時期について記述する。SR1001は南環状道路地点に位置する。南東方向から流れ込み、調査区内で北東へと蛇行する。幅約20m、最深部が標高約2.8mである。8世紀前半までに大部分が埋没し、それ以降は小さな流れであったと考えられる。木簡が出土したIII～Ⅳ層のうち、最古のⅣ層の底は標高3.4～4.5mに位置し、最も新しい8世紀前半のIII層では標高4.7～5.5mに位置する。いずれの層の堆積も南から北への下りの傾斜が見られる。

SR3001は西環状線地点に位置し、南東から北西方向へ流れる幅約90mの流域をもつ。自然流路の最深部は標高0mまで掘削したが、底は確認されなかった。遺物を多く含む層は標高2.5m以上で、木簡

第79図 8世紀前半までの自然流路（黒塗り部分は調査で検出した範囲）



第80図 8世紀半ば以降の自然流路（黒塗り部分は調査で検出した範囲）



を多く含むのはⅢ～V層である。8世紀後半のV層の底の標高は約3.1～3.6m、流路が埋没した10世紀代のⅢ層では、標高3.5～4.2mである。いずれの堆積も西側へのドリの傾斜が見られるが、V層は調査区の南西側、Ⅲ層は北西側が深くなっている、流域内の河道の変化がうかがわれる。SR3001は、調査区の南東側でSR1001と切り合っていた可能性が高い。層の標高を単純に比較すると、埋没時期の新しいSR3001がSR1001よりも深い位置にあるが、これは南から北への地形の傾斜の影響と考えられる。また、SR3001の流れが本格的に形成された時期には、SR1001は大部分が埋没していたと推測できる。

SR5001はSR3001の北側に位置する。SR3001同様、南西から北東方向へ流れているが、SR3001よりも真北に近い方向に流れているため、やはり調査区の東側でSR3001と切り合っていたと推測される。幅約30m、最深部が標高約0.5mである。木簡は標高2.3～2.8mの位置で出土している。堆積時期は7～9世紀である。標高3.5mで流路の上面を検出したことから、SR3001のⅢ層が堆積した頃には大部分が埋没し、小規模な流路（SR4001）として存続したと考えられる。

SR4001はSR5001の埋没後に形成された、幅7m、延長70mの直線状の流路である。深さ約0.4mで、最深部の標高3.8mである。直線的に流れているため、人为的に掘られた溝の可能性がある。8世紀代の遺物を含むが、周辺の出土遺物から9世紀頃まで機能していたと考えられる。

また第79・80図には、敷地遺跡の調査成果を図示した。SR5001のすぐ北には館跡と推定される建物群が検出された部分がある（（財）徳島県埋蔵文化財センター 2008『敷地遺跡（I）』）。また北側には、調査区内において西から東へ流れ、その後、北へ蛇行する自然流路も検出されている。この周辺にも大型の植物群が検出されている（（財）徳島県埋蔵文化財センター 2008『敷地遺跡（II）』）。

以上をふまえて、それぞれの自然流路の関連と変遷についての仮説を記述する。

仮説（A）SR3001がSR1001、SR5001と同時期から存在していた場合

3つの自然流路が8世紀前半以前の時期に、同時に存在していたと仮定すると、以下の4つのケースが想定される。

（A-1）SR1001とSR3001が一連の流れであり、SR5001はSR3001から分流したもの（第81図A-1）

SR1001がSR3001と一緒に流れであった場合は、SR1001の堆積層はSR3001の下層に堆積しているか、もしくはSR3001の8世紀半ば以降の流れによって削りとられてしまつたために存在しないことが考えられる。一部掘削を行ったSR3001の最下層では『里』表記の付札（211号木簡）など、8世紀初頭以前の遺物も見られるので、下層にはSR1001の堆積層が残存する可能性もある。SR1001の水源は、現在の舌洗池（SR1001から東へ約50mに位置する）と同様に扇状地扇端部の湧水によるものだったと考えられている。この事から、SR1001は南側の湧水地点から流れ出して蛇行しながら北上し、やがてSR3001となって北西方向へと流れることができると想定できる。しかし、この流れは8世紀半ばに埋没するため、それ以降の水源はSR1001とSR3001の調査区の中間に求めることとなる。しかしSR3001の規模が圧倒的に大きいため、もう少し距離離れた地点に水源を求める方が妥当であると考えられる。よって、8世紀前半にSR1001が埋没した後は、東側の別の水源からSR3001の新たな流れが形成されたと想定する。

これ以下は便宜的に、SR3001の8世紀前半までの流れをSR3001a、8世紀半ば以降の流れをSR3001bとする。以上を整理すると、8世紀前半までの流れはSR1001からSR3001aへ、SR5001はSR3001aから

ら分流したと想定できる。これらは8世紀前半までには大部分が埋没し、その後にSR3001bが形成され、SR5001は小規模なSR4001になる。SR4001が調査区内で直線状に検出されており、この延長上にSR3001bが位置すると考えられるので、SR4001はSR3001bから分流した可能性が高い。

(A-2) SR1001とSR3001が一連の流れであるが、SR5001はSR3001とは別の流れ（第82図A-2）

SR1001とSR3001aが一連の流れであり、水源が湧水であると仮定し、SR5001は東側の別の水源からの流れであると仮定する。8世紀前半までの時期には、SR1001・SR3001aの流れとSR5001の流れが近接していたことが想定される。しかし、これらは8世紀前半までに埋没し、それ以降は(A-1)と同様の流れが想定される。

(A-3) SR1001とSR3001は別水源からの流れであり、SR5001はSR3001から分流したもの

（第81図A-3）

SR1001は南からの流れであるのに対して、SR3001aはこれとは別の東側の水源から流れてきたと仮定すると、SR1001は北へ流れている以上、必ずSR3001aと合流する進路をとる。SR5001はSR3001aから分流したものと想定する。

(A-4) SR1001とSR3001、SR5001は別水源からの流れ（第81図A-4）

この場合は(A-3)と同様に、SR1001とSR3001aは別の水源からの流れであり、SR5001もさらに東側の水源から独立して流れると想定する。

仮説(B) SR3001が8世紀半ば以降に形成された場合

8世紀半ばになって初めて、SR3001bが形成されたと仮定する(SR3001aは存在しない)。それ以前にはSR1001とSR5001が存在していたので、両者の関連は以下の2つのケースが想定される。

(B-1) SR1001とSR5001が一連の流れ（第81図B-1）

8世紀前半にSR3001aが存在しなければ、規模や堆積時期から考えて、SR1001とSR5001は一連の流れであった可能性は皆無ではない。とともに8世紀前半までの堆積層を含み、それぞれに「里」表記の木簡が出上している。8世紀半ばにSR3001bの東からの流れが新たに形成されると、交差する地点の堆積層は、削平を受けて大部分が残存していないと考えられる。この場合、SR3001bの下流側(西側)にはSR1001に含まれていた遺物が堆積することになり、原位置を保った状態で出土したことが明確な場合以外は、仮説(A)と区別ができない。規模の大きなSR3001bの流れが8世紀半ばのある時期に形成されたにも関わらず、8世紀前半以前の遺物が下層から出土したとしても矛盾はない。ただし、上流側(東側)においても8世紀前半以前の堆積層の存在が明らかになれば、この仮説は成立しない。

(B-2) SR5001がSR1001から分流（第81図B-2）

8世紀前半にSR3001aが全く存在しない前提で、SR1001とSR5001が別の流れであったと仮定する。これまでの調査成果や地形を考慮すると、SR1001とSR5001は東側のどこかで接点を持たざるをえないため、両者が交差していると考えるよりは、SR5001はSR1001から分流したものと想定する。

まとめ（第81図）

以上の6つの仮説を提示したが、あらためて自然流路の変遷を整理する。対象となる自然流路は、8世紀前半までに存在したSR1001、SR3001a、SR5001、8世紀半ば以降に形成されたSR3001b、SR4001となる。

仮説（A）8世紀前半以前の様相（SR3001aが存在した場合）

- (A-1) SR1001 → SR3001a（一連の流れ）→ SR5001（分流）
- (A-2) SR1001 → SR3001a（一連の流れ）≠ SR5001（別水源から）
- (A-3) SR1001 ≠ SR3001a（別水源から合流）→ SR5001（分流）
- (A-4) SR1001 ≠ SR3001a（別水源から合流）≠ SR5001（別水源から）

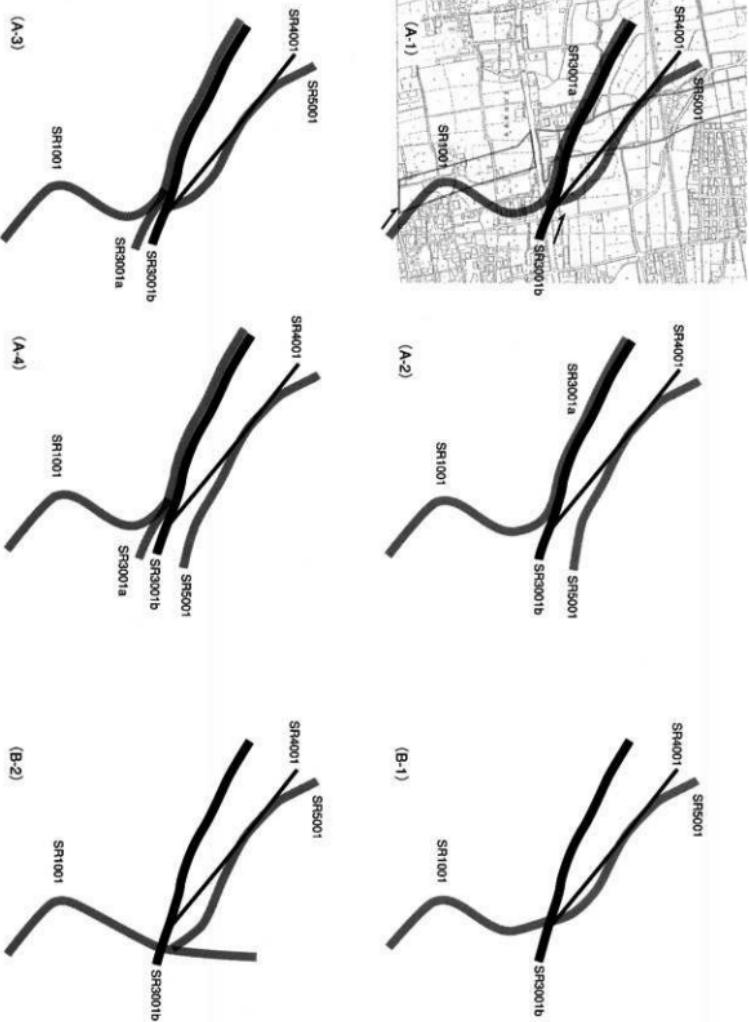
仮説（B）8世紀前半以前の様相（SR3001aが存在しなかった場合）

- (B-1) SR1001 → SR5001（一連の流れ）
- (B-2) SR1001 → SR5001（分流）

8世紀半ば以降の様相

SR3001b → SR4001（分流）

以上の組み合わせから、問題となるのは8世紀前半以前の様相であるが、それぞれに可能性があると思われる。今後、西環状線の東側での調査の進展によって明らかになることを期待する。8世紀半ば以降の様相は、ほぼ確定したと考えられるが、SR3001bの水源の位置も今後の課題である。SR1001の流れとは異なる位置から流れ出していると考えられることから、国府内での建物配置や施設場所の変化などに影響した可能性が高いと考えられる。今後、国府内の調査成果が期待される。（大橋）



第91図 自然流路の復元図（推定）

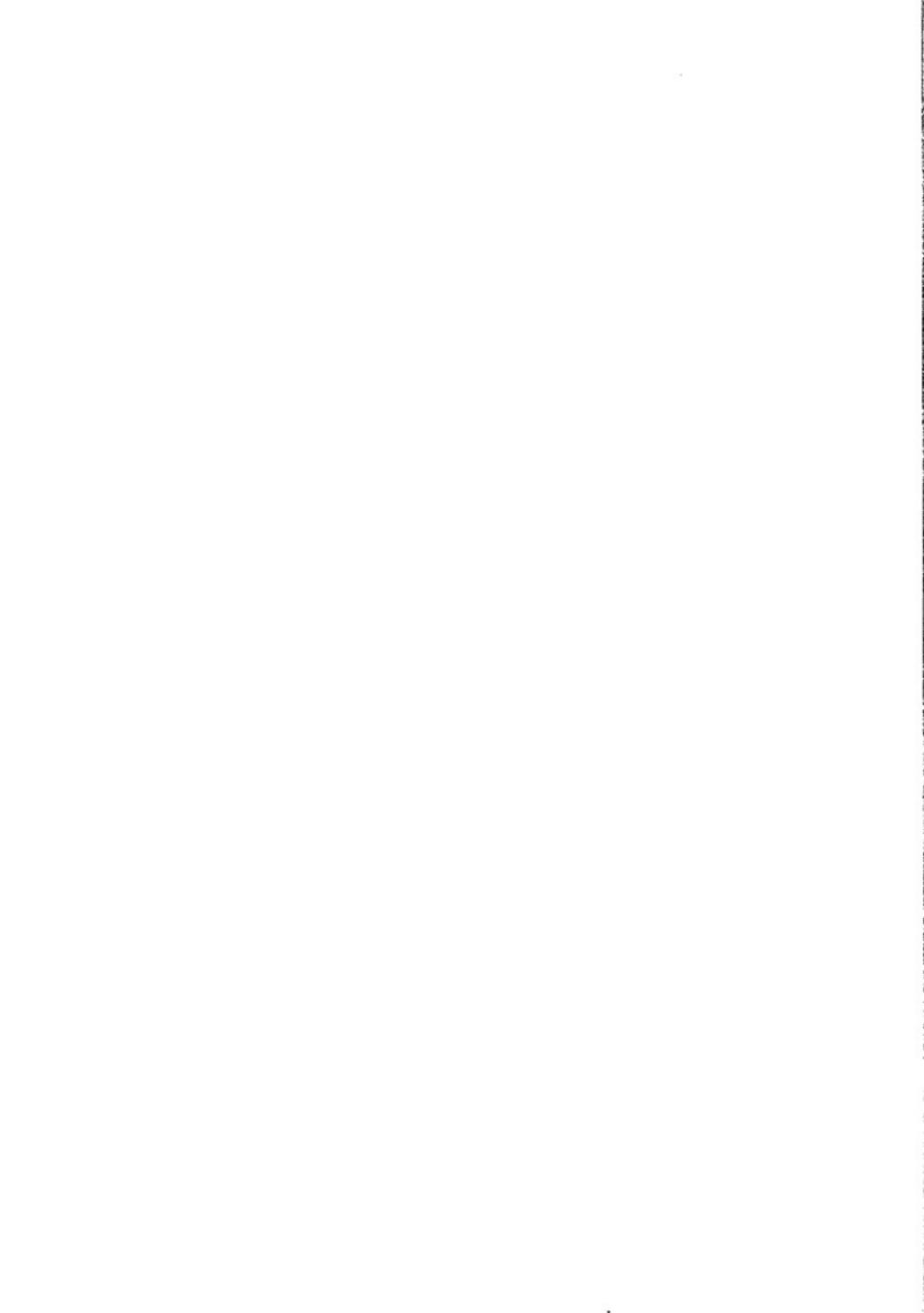
■ 8世紀前半以前の流れ
■ 8世紀半ば以後の流れ



観察表

表1 出土木製品観察表

表2 出土土器・土製品・その他観察表



観察表凡例

・木製品の分類、名称および型式：

「木器集成図録・近畿原始編」(奈良国立文化財研究所 1993)と「木器集成図録・近畿古代編」(奈良国立文化財研究所 1994)を基準にし、これに従った。

・法量：

土器の計測部位は下図のとおりとした。木製品などの残存値および復元値は（　）で表し、計測値はcm、重量の単位はgで表記した。

・表面の状態：

整理作業担当者が、保存処理前の実測の際に肉眼観察を行った結果を記した。

・色調：

小山正忠・竹原秀雄「標準土色帳 2001年度版」(日本色研事業株式会社)と太田昭雄・川崎秀昭「標準色彩図表 A」(日本色研事業株式会社 1981)に掲った。

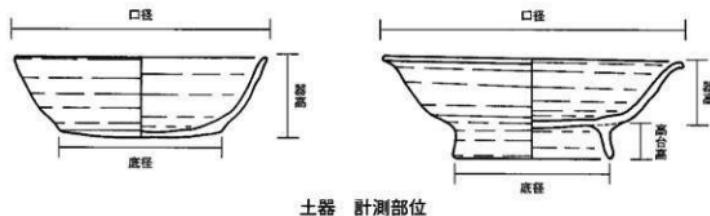


表1 出土木製品観察表

規範 番号	分類	名稱	調査区 名	出土位置 (タクリット)	層位	油量 L	法量 W	法量 H	特徴 1 (残存部分に 関する情報)	特徴 2 (形状に関する情報)	表面の状態	型式	木数
1	容器	円形曲物	3区西	S-T-16	5	(31.5)	(8.3)	1.1	全体の1/5残存。	復元径=40.2cm。	頃い	ビカ	板目
2	器記具	梯状祭祀	3区西	S-16	5~10	(23.6)	1.7	0.8	下部欠損。	両面の角を圓取り。下端部は尖らせる。	やや滑らか	板目	板目
3	器記具	芦苇	3区西	S-T-16	5~10	(3.8)	1.3	0.35	下端部のみ残存。	下端部左右より削り落とし、尖らせる。	滑らか	C	柱目
4	不明	不明	3区西	S-16	5	(8.5)	2.6	2.15	下部欠損。	表面は内側圓弧からの割れにより断部を成形。断部は丸く膨らみ、上面部は平で、上部は二種方向の斜面を成形。断部か。	やや滑らか	板目	板目
11	器記具	梯状 (中型)	3区西	S-16	6	27.0	2.5	1.0	ほぼ完形。下端部右側と裏面中央部欠損。	上部も先端辺に左右両側から三三角形に削り落とすことによって断部を成形。断部は丸くやかな断面形になるよう削っている。	やや頃い	板目	板目
12	器記具	梯形	3区西	3区	6	(10.8)	2.9	0.35	上部欠損。	表面は梯形が基。要孔横行。	やや頃い	板目	板目
13	青銅	円形曲物 盤板	3区西	S-16	6	(3.6)	(10.8)	0.36	右端のみ残存。他の3辺は欠損。	右端は12枚残存。	やや頃い	板目	板目
14	容器	円形曲物 盤板	3区西	S-16	6	(16.9)	(6.3)	0.35	1/3残存。	済度結合部用孔2ヶ所を有。(1ヶ所は内側圓弧部分と中央に刃跡傷有り。復元径=37.0cm)。	頃い	E	板目
19	工具	鉗	3区西	T-16	7	(8.2)	2.75	2.65	ほぼ完形。	上下に通じない刃孔有り。外周全帶を細かく削り落としにかけて上昇する。直側面。	滑らか	芯持材	芯持材
20	器記具	梯形	3区西	T-16	7	(8.2)	2.0	0.9	下部欠損。全体的に削成。	上端部に右両端部から切り込みを入れ、削部が成形。中央か。	頃い	板目	板目
21	農具	鋤	3区西	3区	7	(12.7)	1.0	0.75	下端部のみ残存。	全体に削って、断面を梯形に削り落とすように削る。	頃い	板目	板目
22	農具	鋤	3区西	S-16	7	(22.5)	0.95	1.0	ほぼ完形。	表面は多角形。下端部は所産六角形で尖らせる。	滑らか	刃材	刃材
23	容器	円形曲物	3区西	T-16	7	(14.3)	(6.1)	1.0	2/3残存。	不整四形。表面に3ヶ所刃跡傷有り。左側下端部の断面は二次に削た可能性あり。復元径=14.6cm。	頃い	板目	板目
24	容器	円形曲物	3区西	T-16	7	(13.9)	(3.3)	0.45	1/4残存。表面はかなめ底度。	表面の3ヶ所に刃跡傷有り。復元径=14.9cm。	頃い	板目	板目
25	器記具	車輪	3区西	3区	7	(5.9)	1.15	0.35	下端部のみ残存。	下端部を左右両側から削って尖らせる。下端部を左端から削って尖らせる。	やや頃い	板目	板目
26	器記具	車輪	3区西	3区	7	(7.1)	1.0	0.35	上端部のみ残存。	下端部を4面から削って尖らせる。左端が2ヶ所に削る。	滑らか	刃材	刃材
27	器記具	梯状祭祀	3区西	T-16	7	(8.8)	1.2	0.6	上部欠損。	梯状正方形。上端を直角から削めて削る。上の側面方に金属性の軌道を、下部の側面直角方向に木製の軌道を打ち込んでいく(一部削除)。	やや頃い	板目	板目
28	部材	不明	3区西	T-16	7	(16.8)	1.0	0.9	下部欠損。	左右両端部から削って尖らせる。下端部を左端から削って尖らせる。	やや頃い	板目	板目
32	農具	鋤	3区西	S-16	8	12.3	1.2	1.1	ほぼ完形。	全体に削って、側面に鋸齒状多角形に削成形。下端に削て餘分に尖らせる。	やや頃い	刃材	刃材
33	器記具	梯形	3区西	S-16	8	(29.0)	1.6	0.3	3枚とも上部欠損。	要孔各2ヶ所。3枚残存。	滑らか	板目	板目
34	器記具	梯形	3区西	S-16	8	32.9	1.4	0.3	4枚残存(白1本は、ほぼ完形)。	要孔各2ヶ所(白1本は、ほぼ完形)。	やや滑らか	板目	板目
35	容器	円形曲物 盤板	3区西	T-16	8	(16.9)	(5.9)	0.5	1/3残存。	神光結合部用孔小1孔对残存。横板による庇庇有り。復元径=19.0cm。	やや滑らか	E	板目
36	容器	円形曲物 盤板	3区西	S-T-16	8~9	(26.3)	1.1	0.35	1/4残存。	復元径=19.0ヶ所残存(内1ヶ所水剣残存)。	頃い	F	板目
37	容器	円形曲物 盤板	3区西	3区	8	27.8	(12.7)	0.5	1/2残存。	梯状結合部用孔小1孔对残存。縁邊から約5cmまでに開いた横板有り。表面に數ヶ所の鋸齒状切削跡有り。復元径=25.8cm。	やや頃い	E	板目
38	容器	円形曲物 臺臺	3区西	T-16	8	9.1	6.6	0.7	ほぼ完形。	左右両端部に梯状結合部残存。殆ど円形の左右両端部は山形側面に厚く、左右端部は斜面で削成形。道をやすり削くまるよう底成形。	やや頃い	E	板目
39	食事具	箸	3区西	S-16	8	(12.1)	0.5	0.5	上部欠損。	道をやすり削くまるよう底成形。	やや滑らか	刃材	刃材
40	食事具	箸	3区西	S-16	8	(11.1)	0.55	0.55	下部欠損。	多方角度から削られれている。下端は細く、断面は直角形。	滑らか	刃材	刃材
41	食事具	箸	3区西	S-16	8	(10.25)	0.6	0.4	上下両端欠損。	多方角度から削られれている。下端は細く、断面は直角形。	滑らか	刃材	刃材
43	食事具	箸	3区西	T-16	8	(21.6)	1.8	0.3	上部欠損。	下端部は舟形側面から削り、下端を尖らせるよう底成形。	やや滑らか	C	板目
44	器記具	梯状祭祀	3区西	T-16	8	(13.7)	1.25	0.9	下端部欠損。	全体に削成形が粗く、下端部のみ細かく削って先を尖らせる。	頃い	板目	板目
45	器記具	梯状祭祀	3区西	S-16	8	(9.0)	0.8	0.7	上部と下端欠損。	下端部は舟を削りて尖らせる。	やや滑らか	板目	板目
46	器記具	梯状祭祀	3区西	T-16	8	(8.7)	1.2	0.7	1部欠損。	下端部を右両端部から削って尖らせる。	頃い	板目	板目
51	器記具	梯冠	3区西	S-T-16	9	(6.9)	1.45	0.25	下端のみ残存。	両側面を削取る。要孔1ヶ所。	滑らか	板目	板目
52	容器	梯形	3区西	S-T-16	9	2.8	(8.1)	0.8	大部分欠損。	側板2枚を2ヶ所で神光結合部で留める。	やや滑らか	板目	板目
53	食事具	箸	3区西	0817-4	9	(11.8)	0.56	0.45	上下両端欠損。	側面から削取りを施して、断面は不整四形の底状。一面をやすり削く尖るように成形。	やや滑らか	刃材	刃材
54	食事具	箸	3区西	S-16	9	21.8	0.75	0.7	ほぼ完形。	側面から削取りを施して、断面は豊岡形の底状。一面をやすり削く、下端を尖らせるよう底成形。	やや滑らか	刃材	刃材

標號番号	分類	名稱	調査区	出土位置 (小グリッド)	層位	法量 L	法量 W	法量 H	特徵 1 (残存部分に関する情報)	特徵 2 (形状に関する情報)	表面の状態	型式	木取
55	渡辺氏	琴か	3区西	T-16	9	(17.1)	3.4	0.8	ほぼ完形。	上部に4孔の垂直孔有り。下部は欠損しているが、一部に乳孔が残存。	やや滑らか	板目	
56	祭把具	垂軸祭把具	3区西	T-16	9	23.3	(0.7)	(0.75)	左右両側面有。	上端部は左右両側から斜く削る。下端部は圓錐から削つて尖らせる。	やや粗い	板目	
57	祭把具	垂軸祭把具	3区西	T-16	9	19.0	0.9	0.5	ほぼ完形。	下端部は頗く削って尖らせる。	やや粗い	板目	
58	祭把具	垂軸	3区西	T-16	9	(12.0)	1.7	0.25	上端欠損。	切り込み：左右両側に下から4回。	滑らか	C Vか	板目
60	容器	円形容器蓋板	3区西	T-16	10	(16.7)	(10.3)	0.8	約2/3残存。	底面より表面が凸起。復元径=16.6cm。	悪い	E	板目
61	祭祀具	祭祀柄	3区西	S-T-16	10	(24.6)	0.7	0.65	下端欠損。	断面多角形。上端部は片側から削つて尖らせる。上下両端部はやや粗い感。	滑らか		板目
65	工具 棘		3区西	S-T-16	11	(27.0)	1.3	1.3	上部欠損。	全表面がくぼんで断面円錐形に成形。上部欠損で、上端に残り有り。	滑らか		刃材
66	工具 棘		3区西	3区	11	(10.7)	1.2	1.05	F部欠損。	頗く凹取りを施して、断面不整形の形状。	やや滑らか		刃材
67	渡辺氏	琴柱	3区西	S-16	11	2.1	(3.4)	0.7	右脚下端と裏側一部欠損。全体には彎曲。	上部に火炎に拵えを施した唐有り。	やや粗い	板目	
68	祭祀具	人形	3区西	T-16	11	(6.8)	1.8	0.3	F部欠損。	頭部上面を尖らせる。手の部分に各3回の切り込み有り。	滑らか	正面全身人形	板目
69	祭祀具	卓串	3区西	S-16	11	(17.4)	3.2	0.4	下端欠損。	上端部に左右両側から3角形に削る。表面に切り折りのため切り込み有り。	やや滑らか	B Iか	板目
70	祭祀具	卓串	3区西	3区	11	(5.6)	1.0	0.3	F部欠損。	上端部は傾いて尖らせる。	やや滑らか	不明	板目
71	祭祀具	卓串	3区西	S-16	11	23.2	2.6	0.3	左右両側の一部が欠損。	上端部は山形に成形。下端部は左右両側から削つて削つたもので尖らせる。	やや滑らか	C V	板目
72	祭祀头	薬草	3区西	S-T-16	11	24.7	2.3	0.15	左脚上部に欠損。	脚部は左右両側から斜つて鋭角に、片側のみに削る。左脚に右脚に付く。	やや滑らか	C III	板目
73	祭祀具	卓串	3区西	S-16	11	41.3	2.2	0.5	ほぼ完形。	切り込み：左脚上端に上から9回。右脚上端に上から8回。右脚上端部に上から4回。	やや滑らか	C V	板目
74	器具 薄木		3区西	3区	11	(14.1)	0.85	0.7	上下両端欠損。	棒状に成形。上下両端欠損。	悪い		板目
75	器具 板柱		3区西	3区	11	(12.9)	(3.8)	2.5	F部欠損。右半分欠損。	自在の一部か。	やや粗い	程昌	
85	脊髄	曲物	3区北	T-16	6	(3.0)	(9.8)	0.4	上部と右側は欠損。	内側に異形孔を有り。棒が付いていたと思われる場所には穴が付していない。	悪い		板目
86	祭祀具	祭祀柄	3区北	T-16	6	(11.0)	1.2	0.8	I-下端欠損。	柄部は圓取りを施す。下端両端に欠損。	やや滑らか		板目
88	紡織具 織機		3区北	T-16	7	(32.8)	3.45	0.8	上下両端欠損。	中央部に麻孔2ヶ所。上部にI-下端有り。上端部に上から8回。下端部は傾きから削つて削くする。左端。	やや粗い		板目
89	紡織具 織機		3区北	T-16	7	(8.0)	1.4	0.4	I-下端欠損。	表面に1ヶ所残す。やや厚めの板を裏材にする。	やや滑らか		板目
90	容器	曲物	3区北	T-16	7	30.2	(2.4)	0.8	全体の形状不明。	複数縫合孔1ヶ所。複数縫合孔用小孔1ヶ所が残存。孔の部分が水平に刃物傷有り。	滑らか	E	板目
91	祭祀具 不明		3区北	T-16	7	(7.8)	(3.9)	0.5	I-上部のみ残存。	竹筒前に横幅を表現した。圓筒全身人形の一部か。	やや滑らか		板目
92	枕		3区北	T-16	7	24.6	1.36	1.2	上部欠損。	下端部は左側から削つて尖らせる。表面は削られていている。	やや粗い		刃材
99	祭祀具	人形	3区北	S-T-16	11	(67.3)	8.2	0.9	祭祀の頭部1ヶ所と下端部欠損。長さ1.5mの大形の人形。	頭部に凸部有り。翼または冠か。頭は墨が剥がれていたり。左側には左側だけが削り下がる。右手側には切り込み有り。本体に9ヶ所の穴有り。	悪い	正面全身人形	板目
101	祭祀具	F乳	3区北	T-19	3階下	(8.25)	7.85	(3.45)	後歯より後張のみ残存。	芯部に近い刃材を削り出す。上部の大きさを欠損。全体に火炎色の付着物有り。	悪い		刃材
102	容器	円形容器	3区東	T-19	3~5	13.5	(7.0)	1.2	1/2残存。	斜面に2ヶ所所鉢孔があり。木軒が残る。復元径=13.5cm。	やや粗い		板目
103	容器	円形容器蓋板	3区東	3区	3層以上	14.0	(12.2)	0.7	5/6残存。	上下両端に性質を差し込むための削り切られ。片方に核木が残る。裏面に茎が付く。	やや粗い		板目
104	容器	曲物蓋板	3区東	T-19	3~5	29.5	(7.75)	0.6	両側面欠損。	芯部に近い刃材を削り出す。上部の大きさを欠損。全体に火炎色の付着物有り。	悪い		板目
105	火炎具	筆	3区東	T-19	3~5	(14.7)	0.7	0.6	I-下端欠損。	全体に圓取り。圓筒半円錐に成形。	やや滑らか		刃材
107	容器	山形蓋板	3区東	T-18	5~7	(17.6)	(6.0)	0.8	一端の角の部分のみ残存。	側面刃切から左側物の一部。複数縫合用孔が2ヶ所有。	やや粗い		板目
108	祭祀具	卓串	3区東	T-17	5~7	(8.2)	1.2	0.5	I-下端部のみ残存。	細部から削つて先端を擴べて尖らせる。	やや滑らか		板目
113	容器	曲物蓋板	3区東	3区	6	(13.5)	(3.6)	1.2	1/5残存。	右側面に削りだし3ヶ所。復元径=17.0cm。	やや粗い		板目
114	容器	曲物蓋板	3区東	T-18	6	29.0	(6.3)	0.6	上部両端及び左側面は残存。右側面は残存。	上部は表面の左右を削つてやや奥くすり。先端は斜めに削る。	悪い		板目
115	器具	告木	3区東	T-17	6	22.4	1.85	0.85	ほぼ完形。	全体を細く削る。下端部は左側から削つて断面形状が山形に成形。下端部は左側面から削り、細かな削り尖らせる。	やや粗い		板目
117	農具	偏耕	3区東	T-19	7	20.0	1.7	1.3	完形。	全体を削つて断面後円形の棒状。下端部は削り削つて尖らせる。	やや粗い		刃材
118	農具	偏耕	3区東	T-17	7	27.1	1.55	1.35	ほぼ完形。	全体を削つて断面後円形の棒状。下端部は削り削つて尖らせる。	やや粗い		刃材

掲載 番号	分類	名前	調査区 名	出土位置 (小クリット)	層位	法量 L	法量 W	法量 H	特徴 1 (残存部分に 関する情報)	特徴 2 (形状に関する情報)	表面の状態	型式	木目
119	紡錘呂	織機	3区東	T-18	7	30.8	3.5	0.9	上端左側欠損。	上丁字窓面に、左右両側から切り込みを入れて、表面を成形。上端部は丸く、下端部は尖らせて、表面を成形。中央部は丸く、左右側から削って表面を成形。	粗い		板目
120	紡錘呂	織機	3区東	T-17	7	(15.0)	(2.6)	0.8	下部欠損。	上端部は右側から削って表面を成形。下端部は左側から削って表面を成形。			板目
121	紡錘呂	織機	3区東	T-18	7	(10.4)	2.2	1.0	下部欠損。上端部右側欠損。	上端部の左右両側から切り込みを入れて表面を成形。上端部は摩耗のため丸くなっている。	やや滑らか		板目
122	紡錘呂	織機	3区東	T-17	7	(9.7)	2.35	0.6	下部欠損。	上端部は表面から削り欠ける。下端部は丸く、左側から切り込みを入れて表面を成形。形態の可能性有り。	滑らか		板目
123	紡錘呂	織機	3区東	T-17	7	(27.1)	1.3	0.4	上部欠損。	上端部は表面から削り欠ける。下端部は丸く、左側から切り込みを入れて表面を成形。形態の可能性有り。	やや滑らか		板目
124	紡錘呂	織機	3区東	T-18	7	(8.5)	1.7	0.35	上部欠損。	上端部は表面から削り欠ける。下端部は丸く、左側から切り取りが粗い。	やや滑らか		板目
125	食事具	箸	3区東	T-18	7	(15.7)	0.6	0.5	下端欠損。	断面が方形状で成形。下部は削て尖らせると、上端部は切って丸くなる。	やや滑らか		刃材
126	食事具	箸	3区東	T-17	7	(16.2)	0.55	0.55	下端欠損。	全体に細く削いて、ほぼ棒円形断面に成形。上端部も削って成形。	滑らか		刃材
127	食事具	箸	3区東	T-18	7	(11.9)	0.55	0.55	上ト下端欠損。	細かく削取りをして、断面は不整形とした棒状。一端をやや削く尖るように成形。	やや滑らか		刃材
128	食事具	箸	3区東	T-17	7	(12.2)	0.55	0.3	上端欠損。	下端部は丸く削る。下端部を丸く削形。左側面に削り取りが粗い。	やや滑らか		刃材
129	食事具	箸	3区東	T-18	7	(6.1)	0.4	0.3	下端部のみ残存。	断面が方形状で成形。下部は削て尖らせると、上端部は切って丸くなる。	滑らか		刃材
130	容器	曲物 蓋板	3区東	T-18	7	3.5	28.85	0.4	ほぼ完形。	丸孔が右側にある。内側は浅く削られる。腹部は二次的に削って丸形。左側の孔に絞られたものが残存か。底にによる圧痕有り。	滑らか		板目
131	容器	曲物 蓋板	3区東	T-17	7	(3.0)	(13.95)	0.6	左右両端と下部欠損。	木釘孔2ヶ所残存。	やや滑らか		板目
132	容器	曲物 蓋板	3区東	T-17	7	2.9	(10.6)	0.6	左右両端欠損。	柳皮結合部3ヶ所と漆皮結合部用の穴リットが削り取れてある。約2mm厚の板を蓋として柳皮結合部で留めている。	粗い		板目
133	容器	重物 蓋板	3区東	T-18	7	(5.3)	(10.5)	0.7	大部分が欠損。	算引跡が3ヶ所。上端部は斜めに削る。	やや滑らか		板目
134	容器	蓋板	3区東	T-17	7	(3.7)	(7.7)	0.4	下端部のみ残存。左右両側と上部は欠損。	底面と斜めの(右上→左下)方向の算引跡有り。	やや滑らか		板目
135	容器	蓋板	3区東	3区市屋	7	2.1	(6.0)	0.9	左側と上部欠損。	柳皮結合部1ヶ所残存。2枚の板を蓋として柳皮結合部で留めていたのか。	粗い		板目
136	容器	曲物 蓋板	3区東	T-19	7	1.3	(6.6)	0.7	左右欠損。	柳皮結合部1ヶ所残存。2枚の板を蓋として柳皮結合部で留めていたのか。	やや滑らか		板目
137	杓子	円形曲物	3区東	T-17	7	(24.7)	(5.0)	0.9	1/6程度残存。	復元後=37.0cm。	粗い		板目
138	容器	円形曲物	3区東	T-17	7	(35.2)	(5.8)	0.9	1/6程度残存。	中央に近い位置に孔があり、復元後=35.4cm。	粗い		板目
139	容器	円形曲物	3区東	T-19	7	(8.4)	(4.9)	0.85	2/3残存。	復元後=8.4cm。	やや粗い		板目
140	容器	円形曲物	3区東	T-17	7	(13.4)	(6.5)	0.9	1/2残存。	表面に2ヶ所刃物跡有り。不規円形。木釘孔2ヶ所残存。復元径=13.5cm。	やや滑らか	F	板目
141	容器	円形曲物	3区東	T-17	7	(32.8)	(6.9)	1.0	1/6程度残存。	復元径=36.5cm。	粗い		板目
142	容器	円形曲物 蓋板	3区東	T-18	7	(12.0)	(2.7)	0.4	1/6程度残存。	柳皮結合部川字型に柳皮結合部残存。復元径=17.8cm。	やや滑らか	E	板目
143	洋芋	円形曲物	3区東	T-18	7	16.5	(15.25)	0.6	ほぼ完形。	表面に2ヶ所刃物跡有り。表面に摩滅有り。	やや粗い	E	板目
144	容器	虫物	3区東	T-18	7	(14.8)	(3.0)	0.5	上端部のみ残存。	表面に日本刀刃物跡有り。表面に摩滅有り。	やや滑らか		板目
145	容器	内形曲物 蓋板	3区東	T-18	7	11.05	(2.3)	0.4	下端部のみ残存。	底板の上面と側面を2次的に削って成形する。柳皮結合部川字型有り。	やや滑らか	E	板目
146	伝記具	人形	3区東	T-17	7	(17.8)	3.5	1.0	下部欠損。	上端部を削り成形。左右の下の部分に下から入り込みが3箇所。丘の欠損のため不規則。表面は削り落していないが、頬の表皮が剥き落している。	やや粗い		正面全身人形
147	伝記具	鳥形小	3区東	T-17	7	(5.5)	1.8	0.6	ほぼ完形。	腹を開いて頭と尾を表現。裏面部分には表皮が剥り落。表面に3回、裏面に3回の切り込みが有る。底に4回の切り込みで長方形。	滑らか		奇形(鳥形)の可能性有り。
148	伝記具	鳥形小	3区東	T-17	7	(6.8)	1.3	0.8	下部欠損。	表面は細かく削って丸く、裏面は平面に成形。	滑らか		板目
149	伝記具	唐牛	3区東	3区東	カタクシ	(14.7)	1.9	0.4	上端・下端・下部欠損。	上部欠損。下部は左右両側から削って尖らせる。	滑らか	C	板目
150	伝記具	唐牛	3区東	T-28	7	(12.9)	2.1	0.4	上部欠損。	下端部は右側と左側から削って尖らせ。	やや滑らか	C	板目
151	伝記具	唐牛	3区東	T-17	7	(11.2)	1.3	0.4	上部・下端欠損。	下部は右側から削って、先端を尖らせる。	滑らか		板目
152	伝記具	唐牛	3区東	T-18	7	(8.4)	(2.1)	0.45	上部欠損。	下部は右側から削って尖らせ。	やや滑らか	A	板目
153	傳記具	小形	3区東	T-18	7	(8.8)	1.5	0.5	上部欠損。	下端部を左側から削って丸く削る。上部は左側から削り落している。	やや粗い		板目
154	傳記具	唐牛	3区東	T-18	7	(6.7)	(2.0)	0.4	下部欠損。	上端部は右側側面から削って尖らせ。表面に剥離した表皮が付いている。	やや滑らか	A	板目
155	傳記具	唐牛	3区東	T-18	7	(8.4)	1.4	0.3	下部欠損。	上端部は右側側面から削って尖らせ。表面に剥離した表皮が付いている。	やや滑らか		板目
156	傳記具	唐牛	3区東	T-17	7	(7.0)	1.2	0.1	上部欠損。	下端部は右側側面から削り落す。先端を尖らせる。	やや滑らか		板目

被服番号	分類	名稱	調査区	出土位置 (セグメント)	層位	法量 L	法量 W	法量 H	特徴 1 (残存部分に 關する情報)	特徴 2 (形状に關する情報)	表面の状態	型式	木章
157 無記品	被状器皿	片	3区東	T-15	7	21.75	0.85	0.45	完形。中央部折れ。	上端部は鋸めに、下端部は左右両側から後く削って、先端を尖らせる。	滑らか	板目	
158 無記品	被状器皿	片	3区東	T-17	7	(18.5)	1.3	1.0	上部欠損。	下端部は板状に尖らせる。	やや滑らか	板目	
159 無記品	被状器皿	片	3区東	T-18	7	(8.0)	0.8	0.65	上部欠損。	全体に削って、下端部へ徐々に細くなるよう成形。	やや滑らか	板目	
160 無記品	被状器皿	片	3区東	S-18	7	(8.5)	0.9	0.6	上部欠損。	側面は柔軟な面取りをして成形。先端は極く尖らせる。	やや滑らか	板目	
161 無記品	被状器皿	片	3区東	T-17	7	(10.7)	0.7	0.55	上部欠損。	四方から削って下端を尖らせる。角は曲取り。	やや滑らか	板目	
162 無記品	被状器皿	片	3区東	T-17	7	(12.9)	0.7	0.5	ほぼ完形。下端部少し尖る。	下端部は圓く尖らせる。上端部も成形されている。	やや滑らか	板目	
163 無記品	被状器皿	片	3区東	3区東	7~9	(12.9)	1.2	0.5	上部、下端欠損。	全面に削り、下端部は尖るよう成形。	やや滑らか	板目	
164 無記品	被状器皿	片	3区東	T-18	7~9	(18.75)	0.85	0.6	下部欠損。	上端部は柔軟から來て斜めに削り落とす。	やや滑らか	板目	
165 部材	支臂	片	3区東	T-18	7	(33.2)	4.5	3.4	上端、下部欠損。	上端部はさしづつ状の内形に成形。	滑らか	板目	
166 錠具	錠木	片	3区東	T-17	7	40.8	1.85	0.55	上ト裏端欠損。	上端部は丸く削って成形。表面と全体を大きめに削って成形。	滑らか	板目	
167 錠具	錠木	片	3区東	T-18	7	(15.6)	1.7	0.5	上ト裏端欠損。	芯押し材の先端を、3方向から斜めに削って尖らせる。成形は粗い。	滑らか	板目	
168 枝	枝	片	3区東	T-18	7	(19.7)	3.1	3.1	上部欠損。	芯押し材の先端を、3方向から斜めに削って尖らせる。成形は粗い。	滑らか	板目	
169 鋏具	大付鍬	片	3区東	T-17	7	30.0	1.95	0.8	完形。	上下端部を削化。	滑らか	板目	
170 部材	小明	片	3区東	T-18	7	(13.3)	1.9	1.2	下部欠損。	上部の表面両側とも刃形。刃物傷、ねじり有り。上端部は左右両側から削って尖らせる。	やや滑らか	板目	
171 部材	不明	片	3区東	T-17	7	(6.9)	2.4	1.65	上部欠損。	表面が丸く、裏面は平坦。下端部は両側から削ってカブシ形にして成形。	やや滑らか	板目	
172 部材	不明	片	3区東	T-17	7	3.8	2.2	0.8	完形。	下端部を削後から削ってヨレ状に成形。	やや滑らか	板目	
173 部材	不明	片	3区東	T-17	7	2.5	4.2	2.45	完形。	鋲孔材の一部分。上部に斜めに削成形。	やや滑らか	板目	
174 不明	不明	片	3区東	T-17	7	14.3	3.7	0.25	右肩上部欠損。	上端部の左側の骨突が、列に並ぶ。七瓣形で半周で穿孔有り。	滑らか	板目	
175 不明	不明	片	3区東	T-17	7~8	(11.5)	1.6	0.7	下部欠損。	上端の右側面のみ削って頭部を成形。川字形。	やや滑らか	板目	
176 小明	不明	片	3区東	T-18	7	(8.5)	6.7	3.9	完形?	表面と端部は屋根。両側面を削って頭部を成形。下部欠損。	やや滑らか	板目	
177 不明	不明	片	3区東	3区	7	(26.9)	1.5	0.7	下端欠損。	下端部の(4/4)断面直方体。上部は被留面形に成形するように骨突を凹む。凹みを口凹みとする。	滑らか	板目	
178 義歯	義歯	片	3区東	T-19	8	13.3	3.1	2.75	上部表面欠損。全体的に削成形。	表面を多く削って頭部を表面化にする。表面を多く削って頭部を成形される。本體の可能性有り。	滑らか	板目	
179 義歯	義歯	片	3区東	T-18	8	(16.0)	2.3	(1.0)	下部欠損。	上端部は右側面に切り込み有り。上端部に入り込む成形。下部欠損。	滑らか	板目	
200 義歯	義歯	片	3区東	T-18	8	(8.8)	4.1	1.4	下部欠損。	上端部の右側面のみ削って頭部を成形有り。骨突の削除。	滑らか	板目	
201 義歯	義歯	片	3区東	T-18	8	3.1	3.5	1.45	F部欠損。	上端部は角を削りこして丸を削る。表面を多く削る。表面は反時計回りにねじ刃を入れて意図的に削断した痕跡が見られる。	滑らか	板目	
202 工具	鉈	片	3区東	T-19	8	(17.9)	1.4	1.1	上部欠損。	上部に断面直方体。上部は薄く成形。表面は、やや粗い。	やや滑らか	板目	
203 工具	鉈	片	3区東	3区	8	(18.4)	12.5	1.0	上ト下端欠損。	下端部に削欠損しているが、面取りした形跡有り。	やや滑らか	板目	
204 駒具	駒鐵	片	3区東	T-18	8	(15.8)	1.9	0.7	下ト下端欠損。	全体に削取り。下端部はやや斜く成形。	滑らか	板目	
205 駒具	駒鐵	片	3区東	T-18	8	(3.2)	1.5	0.23	下端部のみ残存。	要生存。下端部はやや丸く成形。	滑らか	板目	
206 武具	盾	片	3区東	T-18	8	(13.3)	0.6	0.36	下端面欠損。	中心部に斜めに削りを施して断面直方体(円柱)に成形。	滑らか	板目	
207 食事工具	器具	片	3区東	T-18	8	(9.1)	0.5	0.4	上部欠損。	表面は角を削りこして丸を削る。表面を多く削る。表面は反時計回りにねじ刃を入れて意図的に削断した痕跡が見られる。	やや滑らか	板目	
208 食事工具	器具	片	3区東	T-17	8	(10.3)	0.65	0.6	下端面欠損。	細かい面取りをして断面直方体(円柱)に成形。	やや滑らか	板目	
209 容器	円形曲物	片	3区東	T-17	8	13.5	(9.6)	0.85	3/4残存。	細かい面取りをして断面直方体(円柱)に成形。	やや滑らか	板目	
210 容器	円形曲物	片	3区東	T-17	8	(12.6)	(3.9)	(0.85)	1/4残存。	表面に溝が残存。中央から底面に向かって深くなっている。復元径=15.1cm。	滑らか	板目	
211 容器	円形曲物	片	3区東	T-19	8	(11.5)	(3.8)	0.5	1/4残存。	復元径=13.0cm。	やや滑らか	板目	
212 容器	円形曲物	片	3区東	T-17	8	(34.3)	(4.6)	1.0	1/6程度残存。	下端に側板の存在有り。表面に溝が残存。上の側板には複数の跡が見られる。復元径=21.1cm。	滑らか	板目	
213 容器	円形曲物	蓋板	3区東	T-18	8	24.1	(3.6)	1.0	1/6程度残存。	側板による圧痕有り。縦約5mmの伸び縮み合せ縫合孔1対残存。側板による圧痕有り。復元径=16.0cm。	滑らか	板目	
214 容器	円形曲物	蓋板	3区東	T-19	8	(12.0)	(3.2)	0.5	1/4残存。	側板による圧痕有り。刀物傷が數ヵ所有り。	滑らか	板目	
215 容器	円形曲物	蓋板	3区東	T-18	8	(12.5)	(4.2)	0.5	1/4残存。	側板による圧痕有り。刀物傷が數ヵ所有り。	滑らか	板目	
216 容器	円形曲物	蓋板	3区東	T-18	8	(2.6)	(20.8)	0.4	下端部のみ残存。	内面に鋸刃跡有り。刀物傷が數ヵ所有り。	滑らか	板目	
217 容器	円形曲物	蓋板	3区東	T-18	8	(1.6)	(10.9)	0.4	下端部のみ残存。	鋸刃跡有り。底板と結合する複数組合せ孔2ヶ所有り。	滑らか	板目	

相應 番号	分類 名稱	調査区 3区東	出土位置 (小方格)	層位	法量 L	法量 W	法量 H	特徵 1 (保存部分に 關する情報)	特徵 2 (形狀に關する情報)	表面の状態	型式	木取
218	葬具 内形曲物 骨灰	T-17	8	(1.4)	(5.05)	0.3		側底の一端。倒伏か。 下の部分欠損。	2つの板が腰帶結合部で留められる。縫合部は斜めに切ってある。	滑らか		板目
219	葬具 内形曲物 骨灰	3区東 T-18	8	(3.1)	(3.4)	0.4		下部のみ残存。 下方は火焼。	腰帶結合部用小孔1ヶ所残存。肩引板4本右側。	やや滑らか		板目
220	春替 骨灰	3区東 T-18	8	4.2	(76.05)	0.45		筒状欠損。	木取は7ヶ所残存(内5ヶ所に小鉢残存)。	滑らか		板目
221	祭祀具 人形	3区東 T-18	8	(94.0)	(6.7)	0.6		左半分欠損。	頭・目・鼻・口が墨で描かれている。	やや滑らか	正面全身人形	板目
222	祭祀具 人形	T-15	8	(15.3)	4.4	0.4		下部欠損。	頭・目を墨で表現する。無は残存せず。墨は上がっている。	滑らか	正面全身人形	板目
223	祭祀具 人形	T-17	8	(12.2)	2.15	0.25		脚部、下端欠損。	頭部を削って頭部を成形。	滑らか	正面全身人形	板目
224	祭祀具 人形	3区東 T-17	8	(9.2)	2.7	0.25		下部欠損。	頭部を削かずに頭部を表現する。	やや滑らか	正面全身人形	板目
225	祭祀具 人形	3区東 T-17	8	(6.9)	1.95	0.3		上端欠損。	下端部は左側から削って尖らせる。	やや滑らか		
226	祭祀具 刀形	3区東 T-19	8	(12.3)	1.6	0.45		下部欠損。	厚い板の上端を左側から削って切っ先を成形。	やや滑らか		板目
227	祭祀具 奈形	3区東 T-18	8	(11.65)	2.0	2.3		ほぼ完形。	船底部分に直角ない厚1mm、長さ2.7cmの穿孔有り。船底部分には底からへつて穴が開いてある。全体に角を削取らず、頭部を削る。腰帶部は底面まで削っていない。底部は斜めに削って尖らせる。	滑らか	A 2	板目
228	祭祀具 肩車	3区東 T-19	8	(21.9)	3.65	0.85		上端欠損。裏面上に 分割線。	上端部を切り込み2ヶ所有り。腰帶部は左側から斜めに削って尖らせる。	やや滑らか	A	板目
229	祭祀具 植状祭祀具	3区東 T-17	8	(19.75)	0.8	0.65		下部欠損。	下端部を右側から削り、下端部は左側から削り、頭部を削って尖らせる。上端に後に切り込み有り。	滑らか		板目
230	祭祀具 旗	3区東 T-18	8	(16.9)	0.6	0.6		上端欠損。	全体的に面双りし、面張り成形。特に下端部は3ヶ所から削って尖らせる。	滑らか		板目
231	祭祀具 片	3区東 T-18	8	(22.9)	0.9	0.6		上端欠損。	全体的に面双りし、面張り成形。	滑らか		板目
232	祭祀具 槌状祭祀具	3区東 T-17	8	(25.3)	0.75	0.35		下端欠損。	上端に5.5cm程の切り込み有り。下端部は尖らせるが、表面部は削り部分的である。	やや滑らか		板目
233	祭祀具 槌状祭祀具	3区東 T-18	8	(25.1)	1.5	0.4		上端・下端・右側部 常に欠損。	上端部は山形に成形。左端上半に彫取りを施す。刀形か。	やや粗い		板目
234	祭祀具 槌状祭祀具	3区東 T-17	8	(34.9)	1.0	1.1		下部欠損。	下端部を左側から削りし、腰帶部は右側から削り、頭部は左側から削る。	やや滑らか		板目
235	祭祀具 槌状祭祀具	3区東 T-17	8	(13.2)	1.0	0.6		上端欠損。	全体に削って頭部を削取する。下端部は尖らせる。	滑らか		板目
236	祭祀具 槌状祭祀具	3区東 T-17	8	(12.8)	0.9	0.5		上部欠損。	下部は左側と正直から削る。下端部は左側の角を削って尖らせる。	やや板目		板目
237	祭祀具 槌状祭祀具	3区東 カクラン	10.3	1.0	0.4			上端欠損。下端部等 にひび割れ有り。	下端部は四方から削って薄く尖らせる。	滑らか		板目
238	祭祀具 槌状祭祀具	3区東 T-17	8	(10.7)	(0.9)	0.3		下端部・左側部に欠 損。	下端部は四方から削りに削る。祭祀具の頭片有り。	やや滑らか		板目
239	祭祀具 槌状祭祀具	3区東 T-18	8	(11.3)	1.45	0.6		下端欠損。	下部は細く削取りし、丸く成形。	やや滑らか		板目
240	祭祀具 槌状祭祀具	3区東 T-18	8	7.2	0.9	0.6		完形。	下端部ともに4方から削り、上端部は尖らせる。	やや滑らか		板目
241	祭祀具 葵形	3区東 T-17	8	(4.3)	1.5	0.3		上端部のみ残存。	上端部は山形に成形。上部表面に舟舟有り。	やや滑らか	C	板目
242	祭祀具 肩車	3区東 T-18	8	(5.5)	1.6	0.3		上端部のみ残存。	上端部は山形に成形。	やや滑らか	C	板目
243	祭祀具 肩車	3区東 T-18	8	(3.4)	1.45	0.2		上端部のみ残存。	上端部は山形に成形。左端とも下方内へ彫りを施す。	滑らか	C	板目
244	祭祀具 肩車	3区東 T-18	8	(3.5)	1.6	0.35		上端部のみ残存。	上端部は山形に成形。下部の左右両側に上端の切り込み有り。	やや滑らか	C	板目
245	祭祀具 槌状祭祀具	3区東 T-18	8	(25.85)	0.9	0.75		中央部は削れていい が、裏表合はできない。	全周に細かな面取り。下端部は舟舟から削って尖らせる。上端部は舟舟から削り、左側部は舟舟から削って尖らせる。	やや滑らか		透材
246	祭祀具 槌状祭祀具	3区東 T-18	8	(25.7)	1.35	0.9		上部欠損。	下端部は左側から削りて細く尖らせる。裏表合の間に削りによる成形。	やや滑らか		板目
247	部材 不明	3区東 T-18	8	15.9	(3.4)	2.2		左右両側欠損。	上端部はやや削り、削られ、下端部は平坦。中央部に凹部有り。	やや滑らか		板目
248	部材 不明	3区東 T-17	8	11.0	(1.8)	0.9		左肩欠損一部が 欠損。	厚い板の表と裏と面表を「掌」に削って成形。裏表は丁字なり有り。左側に舟形状の切り込み有り。	やや滑らか		透材
249	部材 不明	3区東 T-19	8	11.6	(1.9)	2.15		右肩欠損。	裏表は舟形の状様で、上端部は斜めに削られる。	やや滑らか		透材
250	器具 葵木	3区東 T-18	8	(15.9)	1.1	0.6		上下両端欠損。	中央部で僅かに削り出る。裏表両側は削ったまま、右側両側は削りにより成形。	やや滑らか		板目
251	器具 葵木	3区東 T-17	8	(19.1)	0.9	0.95		上下両端欠損。	裏表の下部のみ成形。	やや滑らか		板目
252	器具 葵木	3区東 T-17	8	(16.8)	1.0	0.8		上下両端欠損。	裏木の断面か。	滑らか		透材
253	器具 葵木	3区東 T-17	8	(15.1)	1.1	0.5		上下両端欠損。	片方の裏木は舟形物(舟か)有り。	やや滑らか		透材
254	器具 葵木	3区東 T-17	8	(27.6)	1.6	0.8		上下両端欠損。	裏表は舟形方柱。裏表は穂が無い。裏表裏に黒色の付着物有り。	穂が無い		板目
255	器具 大付軸	3区東 T-17	8	(17.1)	1.35	0.95		上部欠損。	右側面は削って成形。裏木状の木製品を火付棒として使用。	やや粗い		透材
256	器具 大付軸	3区東 T-18	8	13.8	2.95	1.0		上部欠損。	内側面は舟の底の削り面。裏表両面は削ったままの無い成形。一箇所に火をつけた痕有り。	穂が無い		透材

掲載番号	分類	名前	調査区	出土位置 小マップ	層位	法量 L	法量 W	法量 H	特徴 1 (残存部分に関する情報)	特徴 2 (形状に関する情報)	表面の状態	型式	木歯
237 不明 不明			3区東	T-18	8	(31.0)	3.2	0.7	上端欠損。	下端部は斜めに削る。右肩両肩ともに直角で、下端を深く底形。	やや滑らか	板目	
238 不明 不明			3区東	T-18	8	(5.7)	(2.5)	0.35	と側と下端部は欠損。	上端部は直角で、下端を深く底形。	滑らか	板目	
275 人上 川子の頭			3区東	T-18	9	9.5	1.75	1.5	完形。	刃先側が右側。刀子の穴一極1cm、厚さ0.4cm、刃長6.8cm。刃の左端側は細かに凹凸感があり、鋸歯状。	やや滑らか	芯持材	
276 限界鳥 極			3区東	T-17	9	5.35	(5.35)	0.85	一端欠損。	刃端部は直角により、下端部が圓形。	滑らか	A II	不明
277 食事具 箕			3区東	T-17	9	(13.2)	0.5	0.35	上下両端欠損。	細かな凹凸を取りて、斜面不整円形。	滑らか		板目
278 食事具 箕			3区東	T-17	9	(15.3)	0.5	0.4	上下両端欠損。	細かな凹凸を取りて、斜面不整円形。	やや滑らか	刃材	
279 食事具 箕			3区東	3区	9	(12.1)	0.5	0.5	上下両端欠損。	全体を削って円形に近い断面にして、下端に開け、やや深く底形。	やや滑らか	刃材	
280 食事具 箕			3区東	T-17	9	(9.3)	0.6	0.4	上下両端欠損。	全体を削り取りして多角形に成形。	滑らか		刃材
281 食事具 箕			3区東	T-17	9	(11.5)	0.5	0.4	上下両端欠損。	全体を削り取りをして多角形に成形。	やや滑らか	刃材	
282 齢者 骨板			3区東	T-17	9	(2.5)	(3.3)	0.4	大部分が欠損。	界割離×2本、穿孔1ヶ所。穿孔～2.5cm。	やや滑らか	板目	
283 齢者 円形曲物 直板			3区東	T-17	9	(8.8)	(3.2)	0.55	全体の約1/2残存。	板根による直底者。底元径=26.0cm。	滑らか		板目
284 齢者 円形曲物 直板			3区東	T-17	9	(24.7)	(3.2)	0.5	全体の約1/2残存。	表面には刀痕が多く、一部に掛け跡が残る。下部に複数の直底者有り。底元径=25.6cm。	やや滑らか		板目
285 齢者 円形曲物 直板			3区東	T-17	9	25.8	(6.15)	0.5	直板の左) / 4.1/2欠損。	直板による直底者。ヒトに複数結合用孔(ゴクネン)が複数に残る。中央部に刃やや滑らか跡等の多致有り。底元径=25.8cm。	滑らか		板目
286 齢者 円形曲物 直板を複数の木製版			3区東	T-18	9	(40.4)	(7.25)	0.8	上端部装飾に切り取りの痕有り。右側に削りを施して再加工の跡のものか。	滑らか		板目	
287 駒紀具 人形			3区東	T-17	9	(12.3)	(3.1)	(0.3)	四辺欠損。	墨で顔を表現した人形の断片。	やや粗い	正面全身人形	板目
288 駒紀具 刀形			3区東	T-17	9	(15.7)	1.4	0.3	上下両端欠損。	上端部は研磨にて実らせ、下端部は左側から削りで鏡く底形。	やや滑らか		板目
289 駒紀具 肩半			3区東	T-17	9	(20.6)	1.5	0.3	上端欠損。	下端部は削り、下端部を削りで実らせん。	やや滑らか	C	板目
290 駒紀具 肩半			3区東	T-17	9	(23.8)	1.45	0.2	上端欠損。	底部に削り跡有り。左側に上から下へ左斜めに削る。右側に右斜めに削る。刃込み有り。	滑らか	C	板目
291 駒紀具 肩半			3区東	T-19	9	(23.3)	2.0	0.6	上端と下端のみ残存。底元欠損。衣表は肩部に剥離する。	上端部は山形に、下端部は左側から削りで鏡く底形から横斜めに削る。右側に右斜めに削る。刃込み有り。左側に上から下へ左斜めに削る。右側に右斜めに削る。刃込み有り。	滑らか	C	板目
292 駒紀具 肩半			3区東	T-17	9	21.3	1.75	0.4	ほぼ完形。	上端部は山形に、下端部は左側から削りで鏡く底形から横斜めに削る。右側に右斜めに削る。刃込み有り。左側に上から下へ左斜めに削る。右側に右斜めに削る。刃込み有り。	滑らか	C	板目
293 駒紀具 肩半			3区東	T-17	9	(23.15)	1.95	0.3	上端欠損。	289、290に類似した形状。切り込み:左側上部に上から3回、下から2回。右側上部に上から3回、下から7回。右側下部に上から2回。	滑らか	C	板目
294 駒紀具 肩半			3区東	T-17	9	(25.6)	1.5	0.2	上端欠損。	切り込み:左側上部に上から1回、右側上部に下から2回。右側部は鏡く底形有り。	やや滑らか	C	板目
295 駒紀具 肩半			3区東	T-17	9	(18.8)	1.9	0.3	上下両端欠損。	下端部は右側から斜めに削って尖らせん。	滑らか	C	板目
296 駒紀具 肩半			3区東	T-17	9	(9.3)	1.45	0.15	上部残存。	切り込み:左側上部に上から2回、下から2回。右側上部に上から1回、下から2回。	滑らか	C	板目
297 駒紀具 肩半			3区東	T-17	9	(8.3)	1.6	0.3	上下の大部を欠損。	切り込み:左側上部に上から3回、下から4回。右側上部に上から3回、下から8回。	やや粗い	C	板目
298 駒紀具 肩半			3区東	T-18-19	9	(6.8)	1.45	0.45	上下の大部を欠損。	切り込み:右側上部に上から2回、下から6回。	滑らか	C	板目
299 駒紀具 肩半			3区東	T-17	9	(6.2)	1.6	0.2	上部の大部分を欠損。	切り込み:左側上部に上から2回、下から5回。右側上部に上から3回、下から6回。	やや滑らか	C	板目
300 駒紀具 肩半			3区東	T-18	9	(5.6)	1.5	0.35	上端部のみ残存。	上端部は右側から山形に削られていて、頭頂部が黒く変色するが、頭頂部は半円。	滑らか	C	板目
301 駒紀具 植伏祭紀			3区東	T-19	9	(5.7)	0.75	0.5	上部の大部分を欠損。	ド縫合は両側からの頂りにより尖らせん。	滑らか		板目
302 駒紀具 肩半			3区東	T-17	9	(7.3)	(1.2)	0.3	下端と上端左端欠損。	上端部は山形に削られるが、頭上部は平頭。	やや粗い	C	板目
303 駒紀具 肩半か			3区東	T-19	9	(5.2)	1.3	0.65	下部欠損。	上端部は左側から斜めに削りで僅かに山形に変形。頭頂部は平頭。	滑らか	C	板目
304 駒紀具 肩半			3区東	T-17	9	(5.0)	1.5	0.3	上端部のみ残存。	上端部は山形。下部に鏡状有り。	滑らか	C	板目
305 駒紀具 肩半			3区東	T-17	9	(3.6)	1.35	0.1	上端部のみ残存。	上端部は山形。下部に鏡状有り。	滑らか	C	板目
306 駒紀具 肩半			3区東	T-18	9	(11.1)	1.35	0.4	下部欠損。	切り込み:右側上部に上から7回、右側上部に上から4回、下から3回。	やや粗い	C	板目
307 駒紀具 肩半			3区東	T-17	9	(8.8)	1.4	0.3	上端部のみ残存。	上端部は山形に削られるが、頭上部は半円。	やや粗い	C	板目
308 駒紀具 肩半			3区東	T-17	9	(7.3)	1.5	0.3	上端部のみ残存。	上端部は山形に削られるが、頭上部は半円。	やや滑らか	C	板目

地盤番号	分類	名称	調査区	出土位置 (小グリッド)	層位	法量 L	法量 W	法量 H	特徴 1 (残存部分に関する情報)	特徴 2 (形状に関する情報)	表面の状態	型式	木取
309	祭祀具	盾串	3区東	T-18	9	(7.0)	(2.0)	(0.2)	I:端部のみ残存。左:右端部から欠損。	上端部は山形に削られたが、頂上部は平鋒。	やや滑らか	C	板目
310	祭祀具	盾串	3区東	T-17	9	(6.3)	1.5	0.3	上端部のみ残存。上:右端部から欠損。	上端部は山形に削られたが、頂上部は平鋒。	滑らか	C	板目
311	祭祀具	盾串	3区東	T-17	9	(3.8)	1.2	0.25	上端部のみ残存。	上端部は山形に削られたが、頂上部は平鋒。左側に上から下に向って切り込み有り。	やや滑らか	C	板目
312	祭祀具	盾串	3区東	T-17	9	(5.5)	1.5	0.15	I:端部のみ残存。	上端部は山形に削られたが、頂上部は平鋒。	やや滑らか	A	板目
313	祭祀具	棒状祭祀	3区東	T-18	9	(6.1)	0.8	0.4	ほとんど欠損。	上端部は山形に削られたが、頂上部は平鋒。	やや滑らか	板目	
314	祭祀具	盾串	3区東	T-17	9	(7.15)	1.55	0.2	上部欠損。表面:一部剥がれている。	下端部の左:右両側から削って尖らせる。	滑らか	C	板目
315	祭祀具	盾串	3区東	T-17	9	(5.15)	0.75	0.4	I:下端部欠損。	下端部の左:右両側から削って尖らせる。	やや滑らか	C	板目
316	祭祀具	盾串	3区東	T-17	9	21.2	1.95	0.65	I:ほぼ完形。	上端部は左:右両側から削って尖らせる。上端部は右側面から削り直らせる。表面:一部は右側面で磨かれてある。表面下部は欠損。	やや滑らか	D	板目
317	祭祀具	棒状祭祀	3区東	T-17	9	(23.2)	1.1	0.6	下部欠損。	上端部は左:右両側から削って尖らせる。	やや滑らか	板目	
318	祭祀具	棒状祭祀	3区東	T-18	9	(20.3)	0.8	0.7	上端部欠損。	下端部は左:右両側から削って尖らせる。	滑らか	板目	
319	祭祀具	棒状祭祀	3区東	T-18	9	(19.7)	0.7	0.65	上端部欠損。	断面:左:右両側から削って尖らせる。	やや滑らか	板目	
320	祭祀具	棒状祭祀	3区東	T-17	9	(19.7)	0.8	0.7	上下両端部欠損。	断面削り。	やや滑らか	板目	
321	祭祀具	棒状祭祀	3区東	T-17	9	(18.6)	0.8	0.3	上部:下部に欠損。	上端部の表面に削り込み有り。	やや滑らか	板目	
322	祭祀具	棒状祭祀	3区東	T-17	9	23.3	1.0	0.6	I:ほぼ完形。	上端部の側面に削り込み有り(約1.5cm)。下端部を削って尖らせる。	やや滑らか	板目	
323	祭祀具	棒状祭祀	3区東	T-17	9	30.0	0.65	0.65	4片 総合でほぼ完形。	上端部の側面に削り込み有り(約3cm)。下端部を4方向から削って尖らせる。	やや滑らか	板目	
324	祭祀具	盾串	3区東	T-17	9	13.9	1.7	0.4	I:下端部欠損。	下端部のすぐ下をあくらまする形狀。	やや滑らか	C	板目
325	祭祀具	盾串	3区東	T-17	9	(18.2)	2.0	0.3	上部欠損。	293などと類似した形狀。	やや滑らか	C	板目
326	祭祀具	盾串	3区東	T-17	9	(17.35)	1.85	0.25	I:下端部欠損。	下端部を左:右両側から削って尖らせる。	やや滑らか	C	板目
327	祭祀具	棒状祭祀	3区東	T-18	9	(14.65)	1.1	0.9	上部欠損。	I:下端部は左:右両側から削って尖らせる。上部はやや幅がある。	やや滑らか	板目	
328	祭祀具	棒状祭祀	3区東	T-17	9	(15.5)	0.8	0.6	上下両端部欠損。	断面削り。	やや滑らか	板目	
329	祭祀具	棒状祭祀	3区東	T-17	9	(16.3)	0.6	0.6	上端部欠損。	断面:左:右両側から削って尖らせる。	やや滑らか	板目	
330	祭祀具	盾串	3区東	T-18	9	(13.8)	0.95	0.6	上部欠損。	断面:左:右両側から削って尖らせる。	やや滑らか	板目	
331	祭祀具	棒状祭祀	3区東	T-18	9	(19.3)	0.8	0.75	上部欠損。	断面:左:右両側から削って尖らせる。	やや滑らか	板目	
332	祭祀具	棒状祭祀	3区東	T-18	9	(9.1)	0.95	0.45	上部欠損。表面に工具による切れ目有り。	下端部は左:右両側から削って尖らせる。	滑らか	板目	
333	祭祀具	棒状祭祀	3区東	T-17	9	(10.5)	1.1	0.8	I:上下両端部欠損。	面取りを施して断面多角形に成形。右側から削って下端部を尖らせる。	やや滑らか	板目	
334	祭祀具	棒状祭祀	3区東	T-17	9	(14.3)	0.75	0.4	I:下端部欠損。	左:右両側から削って下端部を尖らせる。	やや滑らか	板目	
335	祭祀具	棒状祭祀	3区東	T-17	9	(14.2)	0.7	0.4	I:上部欠損。	下端部を左:右両側から削って尖らせる。左側の凹りに急角度。	やや滑らか	板目	
336	祭祀具	棒状祭祀	3区東	T-18	9	(12.3)	0.7	0.5	I:上部欠損。	面取り削り。	やや滑らか	板目	
337	祭祀具	棒状祭祀	3区東	T-17	9	(12.6)	0.75	0.4	I:下端部欠損。	面取り削り。	滑らか	板目	
338	祭祀具	棒状祭祀	3区東	T-18	9	(10.0)	1.05	0.6	上部欠損。	第4回を左:右両側から削って尖らせる。上面の側面に削り込みが残存。	滑らか	板目	
339	祭祀具	棒状祭祀	3区東	T-18	9	(9.3)	0.9	0.7	I:上部欠損。	下端部は表面を左:右両側から削って尖らせる。	滑らか	板目	
340	祭祀具	棒状祭祀	3区東	T-19	9	10.2	1.1	0.5	I:上部欠損。	上端部は左:右両側から削って尖らせる。	やや滑らか	板目	
341	祭祀具	棒状祭祀	3区東	T-17	9	(12.5)	1.15	0.05	I:上部欠損。表面に凹凸有り。	上端部は左:右両側から削って尖らせる。	やや滑らか	板目	
342	祭祀具	棒状祭祀	3区東	T-19	9	(11.3)	1.2	0.6	I:下端部欠損。	全体的に削って左側を厚く、右側を薄く成形。	滑らか	板目	
343	祭祀具	棒状祭祀	3区東	T-17	9	(10.3)	0.8	0.4	I:下端部欠損。	四面削り。	やや滑らか	板目	
344	祭祀具	盾串	3区東	T-19	9	(11.0)	1.1	0.3	I:上部欠損。余分的に残るが激しい。	下端部は左:右両側から削って尖らせる。	滑らか	Cか	板目
345	祭祀具	棒状祭祀	3区東	T-18	9	(8.8)	0.9	0.4	I:上下両端部欠損。	四面削り。	やや滑らか	板目	
346	祭祀具	棒状祭祀	3区東	T-17	9	(9.7)	0.7	0.4	I:上部欠損。	下端部は左:右両側から削って尖らせる。	やや滑らか	板目	
347	祭祀具	棒状祭祀	3区東	T-18	9	(8.5)	0.8	0.4	I:上下両端部欠損。	四面削り。	滑らか	板目	
348	祭祀具	棒状祭祀	3区東	T-17	9	(7.9)	0.8	0.4	I:上部欠損。	下端部は左:右両側から削って尖らせる。	やや滑らか	板目	

記載番号	分類	名前	調査区	出土位置 (グリッド)	層位	法量 L	法量 W	法量 H	特徵 1 (残存部分に関する情報)	特徵 2 (形状に関する情報)	表面の状態	型式	木取
349	祭祀具	棒状懸配	3区東	T-19	9	{16.3}	1.2	0.6	上・下両端欠損。	全体を削って複雑な断面多角形。下端部に向けて徐々に幅が広がる。	やや滑らか		板目
350	不明	棒名神	3区東	T-18	9	{20.4}	1.2	0.95	上・下両端欠損。	棒皮純合紙2ヶ所残存。3本の部材を棒皮結合で平行に束ねる。	やや滑らか		
351	机	枕	3区東	T-17	9	{35.7}	2.45	1.4	上端欠損。	断面が三角形の設置の下端部を削って尖らせる。	やや滑らか	辺材	
352	机	枕	3区東	T-17	9	{37.1}	2.4	2.5	上・下両端欠損。	上面を欠損するが、底面に削りが残る。下端部は大きく削って尖らせる。	滑らか	芯持ち材	
353	筆具	火付棒	3区東	T-17	9	{40.5}	1.4	1.1	上部欠損。	一端が丸化。	滑らか	辺材	
354	器具	柄材	3区東	T-17	9	{47.2}	1.55	1.1	上・下両端欠損。	両端面は削ったままで、上端部は薄く削れているが接觸の可否はない。	やや滑らか	板目	
355	器具	不明	3区東	T-18	9	{65.6}	1.7	1.3	上・下両端欠損。	棒材の材を全体的に削って角を丸く成形。端部の材の可塑性あり。	やや滑らか	板目	
356	器具	不明	3区東	T-17	9	12.7	4.5	2.1	ほぼ丸形。用途不明の部材。	下端部は下方から削って尖らせる。表面は下の方で厚く、薄く削れる。左側面に圓形の切り込み有り。部分的に漆が残している。	やや滑らか	板目	
357	不明	不明	3区東	T-17	9	{4.4}	{5.5}	{5.0}	F部欠損。	全体に削りが無い。本體の可塑性有り。	やや滑らか	芯持ち材	
358	器具	軸受け	3区東	T-17	10	{16.9}	5.6	5.0	上部欠損。	右側面の中央部に削りに深さ2~3mmの穴有り。逆側の周囲を削って下端部やや削り残す。土台の材からこの穴の大きさを測ると、半径を2.5mmと算出される。左側面に穴あけの凹部有り。左側面が削れている。表面はやや滑らかである。	粗い		
374	器具	円形曲物	3区東	T-17	10	{14.0}	{7.0}	0.8	1/4残存。	先端に左端が3~4cmあり、全体的に斜めに削っている。復元長=19.8cm。	やや滑らか	板目	
375	器具	円形曲物	3区東	T-17	10	15.5	{3.0}	0.55	1/5残存。	表面に刃物跡等有り。復元長=15.5cm。	やや滑らか	板目	
376	器具	円形曲物	3区東	T-18	10	{18.0}	{8.2}	0.6	1/2残存。	斜面に刃物跡等有り。土台の材からこの穴の大きさを測ると、半径を2.5mmと算出される。左側面に穴あけの凹部有り。左側面が削れている。表面はやや滑らかである。	粗い	板目	
377	器具	円形曲物	3区東	T-17	10	{12.7}	{1.4}	0.4	約1/12残存。	左側面に刃物跡等有り。表面に刃物跡2ヶ所有り。復元長=18.4cm。	やや滑らか	板目	
378	容器	挽物器	3区東	T-17	10上	{22.9}	{18.7}	2.4	3/4残存。	表面に刃物跡等有り。外側に横縫の爪跡があり(3ヶ所)。内面に刃物工具類有り。復元長=23.0cm。	やや滑らか	椎木取り	
379	祭祀具	鳥島	3区東	T-17	10	2.5	10.7	0.65	中央部・右側の下端部削りられたような痕跡有り。欠損か?	左側が頭部、右側が毛先。	滑らか		
380	祭祀具	舟車	3区東	T-17	10	{17.1}	2.25	0.65	上部左側と右端部が欠損。	舟頭部を山形に削る。刃先込み:左脇上部から10mm、下から10mm。右脇上部から7mm、下から7mm。	粗い	A	
381	祭祀具	車	3区東	T-17	10	{13.4}	2.3	0.6	下部欠損。	舟頭部の切り込み(左上から10mm、右上から10mm)。中央部の切り込み(左上から10mm、右下から12mm)。以下欠損のため不明。	粗い	C V	
382	祭祀具	舟車	3区東	T-17	10	{22.2}	1.9	0.3	上・下両端欠損。	舟頭部は四方から削って尖らせ、下部は削り残す。舟頭部は直角に削る。削りは粗い。未削部分か?	やや滑らか	C V	
383	器具	不明	3区東	T-17	10	20.1	12.0	5.05	ほぼ丸形。	上部は四方から削って尖らせ、下部は削り残す。舟頭部は直角に削る。削りは粗い。未削部分か?	やや滑らか	辺材	
384	不明	不明	3区東	T-17	10	{13.4}	{2.4}	1.1	上・下両端欠損。	人骨と瓦製圓筒瓦。割れの可能性有り。	やや滑らか	板目	
385	石器	円形曲物	3区東	T-17	11	{15.8}	{3.8}	0.9	1/4残存。	表面に多数の刃物工具跡。復元長=15.8cm。	やや滑らか	板目	
386	容器	円形曲物	3区東	T-17	11	{7.4}	{2.85}	0.8	全体の約1/10残存。	棒皮純合紙2ヶ所残存。棒板によく似通う。復元長=17.0cm。	やや滑らか	E	
387	祭祀具	棒状懸配	3区東	T-17	11	17.3	0.6	0.4	丸形。	左端は右側から削り、僅かに尖らせ。右端は表面有り。削りは粗い。未削部分か?	やや滑らか	板目	
388	器具	火付棒	3区東	T-17	11	26.5	2.0	1.2	丸形。	左端は右側から削り、僅かに尖らせ。右端約2/3残存。	粗い	辺材	
399	祭祀具	下駄	3区東	3区東	12	{20.1}	{5.8}	2.9	右側約2/3残存。	左端は右側から削り、僅かに尖らせ。右端は表面有り。削りは粗い。未削部分か?	粗い	板目	
400	瓶	瓶	3区東	T-17	12	27.6	1.5	0.5	ほぼ丸形。蓋蓋有り。	左側部と右側との接続部分を削く間に欠損。左側面に小窓有り。	滑らか	板目	
401	文房具	籠蓋錐	3区東	T-17	12	31.5	2.6	1.2	8.0cm、輪郭23.5cm。	ほぼ丸形。蓋蓋有り。左側部と右側との接続部分を削く間に欠損。左側面に小窓有り。	やや滑らか	板目	
402	瓶	瓶	3区東	T-19	12	4.1	{5.1}	0.95	全体の約4割残存。	円筒式構造。高さ=50mm(円、完品は41mm)。右部分は削りで崩れ。	滑らか	不明	
403	日用品	瓶	3区東	T-17	12	{1.6}	{2.2}	0.8	大部分欠損。	円筒式構造。高さ=24mm(完全に欠損)。右部分は削りで崩れ。	滑らか	不明	
404	食事具	箸	3区東	T-19	12	{7.8}	0.7	0.6	上・下両端欠損。	棒脚部を削って細く成形。断面多角形。	やや滑らか	辺材	
405	食事具	箸	3区東	T-19	12	8.0	0.5	0.45	上・下両端欠損。	上端茎部を斜めに削る。	やや滑らか	辺材	
406	食事具	箸	3区東	T-19	12	{12.1}	0.6	0.6	上部欠損。	棒脚部を削り尖らせて、断面不規則円形。下端部は削く尖らせ。	やや滑らか	辺材	
407	容器	筒	3区東	T-18	12	2.1	{6.8}	0.25	一消欠損。	内面に削り跡有り。	やや滑らか	板目	
408	容器	筒	3区東	T-19	12	2.8	{8.8}	0.3	兩端欠損。	内面に削り跡有り。	滑らか	板目	
409	容器	円形曲物	3区東	T-17	12	15.0	15.5	1.0	ほぼ丸形。表面はかなり削り残す。	表面に削り跡有り。表面焼成部分に刃物工具跡有り。	粗い	板目	
410	容器	円形曲物	3区東	T-17	12	{12.9}	{3.9}	0.5	全体の1/5程度残存。	表面に削り跡有り。棒皮純合紙1ヶ所残存。復元長=17.8cm。	粗い	E	

括弧番号	分類	名前	調査区	出土位置 (小タリット)	層位	法量 L	法量 W	法量 H	特徴 1 (残存部分に 關する情報)	特徴 2 (形状に関する情報)	表面の状態	型式	木取
411	容器	円形物	3区東	T-19	12	12.6	(3.0)	0.5	1/4残存。表面は磨 いたため表面が滑 れ。	内面に刀物傷跡! 本丸入り前後往復-12.6cm。	滑らか		板目
412	祭具	人形	3区東	T-17	12	30.3	3.1	3.0	ほぼ完形。表面は磨 いたため表面が滑 れ。	口・目を後く彫り込んで表現。下端部は 刀削を留めて尖らせる。	粗い	円筒状人形	芯持ち材
413	祭具	卓事	3区東	T-17	12	(19.2)	2.8	0.2	上下両端欠損。	下端部の左側を削って尖らせる。	やや滑らか	A	板目
414	祭具	卓事	3区東	T-19	12	(28.0)	2.2	0.6	下・上両端欠損。	下端部の左側を削って尖らせる。	やや滑らか	C	板目
415	祭具	卓事	3区東	T-17	12	33.1	2.0	0.3	ほぼ完形。表面は磨 いたため表面が滑 れ。	下端部は左右両側から削って尖らせる。 上端部は山形に成形。切り込み: 左側上部 に10mm・7回、下から5回。右側上部 に上から9回、下から7回。	やや粗い	C V	板目
416	祭具	卓事	3区東	T-17	12	(7.5)	2.2	0.5	上端部のみ残存。	上端部は左右両側から削って尖らせる。	やや滑らか	C	板目
417	祭具	卓事	3区東	T-18	12	(7.4)	1.8	0.3	上端部のみ残存。	切り込み: 左側上部に上から1回。右側 に上部欠損。	やや粗い	C II	板目
418	祭具	卓事	3区東	T-19	12	(10.8)	1.9	0.35	下端欠損。	上端部は左右両側から削って尖らせる。	やや粗い	C	板目
419	祭具	棒状祭祀 具	3区東	T-17	12	(27.1)	(0.9)	(0.8)	上端欠損。途中欠 損。(同一體体だが 位置なし)	下端部を左左両側から削って尖らせる。 下端部は左右両側から削って尖らせる。	やや粗い		板目
420	祭祀具	棒状祭祀 具	3区東	T-18	12	(21.6)	1.1	0.5	上端欠損。	下端部は左右両側から削って尖らせる。	やや粗い		板目
421	祭祀具	棒状祭祀 具	3区東	T-19	12	(21.7)	0.9	0.4	上下両端欠損。	下端部を左右両側から削って尖らせる。	やや滑らか		板目
422	祭祀具	棒状祭祀 具	3区東	T-18	12	(18.7)	1.3	0.4	上部欠損。	下端部は左右両側から削って尖らせる。 先端部の表面から削る。	滑らか		板目
423	祭祀具	棒状祭祀 具	3区東	T-18	12	(15.5)	0.8	0.6	上端欠損。	全体は棒状に成形。下端部は西方から 削って尖らせる。	やや滑らか		板目
424	祭祀具	棒状祭祀 具	3区東	T-19	12	(12.8)	1.05	0.4	上端部は欠損。中央 部に左中段のみで削 した痕跡有り。	下端部とともに右両側から削って尖らせる。	やや滑らか		板目
425	祭祀具	棒状祭祀 具	3区東	T-19	12	(8.75)	0.55	0.55	上端欠損。	下端部は極かく削って尖らせる。	やや滑らか		板目
426	祭祀具	棒状祭祀 具	3区東	T-19	12	(6.4)	0.9	0.7	下端部のみ残存。	下端部は角を削って尖らせる。	やや粗い		板目
427	祭祀具	棒状祭祀 具	3区東	T-19	12	(5.5)	0.6	0.5	下端部のみ残存。	下端部は4方向から削って尖らせる。	滑らか		板目
428	祭祀具	棒状祭祀 具	3区東	T-17	12	(10.0)	0.7	0.5	上端欠損。	上端部により後退が見られる。下端部 は右側から削って尖らせる。左右両側凹:	やや粗い		板目
429	杭	杭	3区東	T-18	12	(49.6)	1.25	1.05	上端欠損。	上端部は奥から削り出る。下端部は奥 から極かく削って尖らせる。	滑らか		芯持ち材
430	器具	漆木	3区東	T-18	12	(20.6)	(0.7)	0.6	上・中端欠損。右側 に削り出。	右側に削り出。	滑らか		板目
431	算盤	木製	3区東	T-18	12	(28.1)	2.0	1.2	上端欠損。	下端部は化粧。	やや粗い		芯持
432	不明	不明	3区東	T-18	12	(18.4)	2.4	0.5	下端欠損。	上端部に削り出により丸く成形。	やや滑らか		板目
433	不明	不明	3区東	T-19	12	(6.4)	1.7	0.7	上端部のみ残存。	全体的に削って簡略化を施す。上端部は 削る。	やや粗い		板目
434	不明	不明	3区東	T-17	12	(8.7)	(4.0)	(3.4)	上端欠損。全体 に削る。	四角椎を輪に半分に削った形だ。	粗い		板目
435	不明	不明	3区東	T-17	12	(7.1)	(3.1)	0.3	下部・左側欠損。	上端部は左右両側から削て山形に成 形。下端は切り折り。直線部の凹邊性も有 る。	粗い		板目
436	伝呪具	骨針	3区東	T-19	13	(16.5)	0.4	0.4	上端欠損。	骨針を極かく削って尖らせて成形。下端部 は1方斜めから削り出していく。	滑らか		芯持材
437	算盤	円形底物	3区東	T-19	13	(15.6)	(4.3)	0.8	全体の1/4程度残存。	算盤は舟形に成形。舟形部の凹邊性も有 る。	やや滑らか		板目
438	算盤	骨針	3区東	T-19	13	(12.5)	1.0	0.55	上端欠損。	下端部は左右両側から削って尖らせる。	滑らか		板目
439	算盤	棒状祭祀 具	3区東	T-19	13	7.9	1.6	0.4	上端部と左側欠損。	上端部を山形に削る。左側部を右両側から削 て尖らせる。直線部として、少しやり抜い。	C T		板目
440	農具	耕種	3区東	T-18	14	27.5	8.2	6.95	1/2強形。	耕種は舟とつてややかな円錐形。柄部 は細く削り出され、底部は下から工具に よる凹みが多数ある。	滑らか		芯持ち材
441	穀器	米棒木	3区東	T-17-18	14	24.5	1.25	1.7	ほぼ完形。(中央部 欠損)	米棒木の説明しない舟形の2箇所。上部の 小舟には根本が後存。下端部は3方向 から工具を削る。	やや滑らか		板目
442	農具	櫛櫛	3区東	T-17	14	(15.1)	1.3	0.7	上端欠損。左側中 央部欠損。	下端部は茎葉から尖らせる。縁から刃取 りし。断面形状は舟形。	やや滑らか		板目
443	農具	櫛櫛	3区東	T-17	14	(15.6)	0.95	0.8	上端欠損。	全体に縁から削取りを施す。	やや滑らか		板目
444	农器	円形底物	3区東	T-18	14	(14.5)	(4.9)	0.8	全体の1/4残存。	弦元径=17.0cm。	やや滑らか		板目
445	农器	円形底物	3区東	T-17	14	(11.9)	(3.1)	0.5	全体の1/5程度。	弦元径=16.6cm。	やや滑らか		板目
446	容器	動物 底板	3区東	T-17	14	(56.4)	(7.9)	0.8	全体の約1/10残存。	底板にみると思われる細い縫合部有り。	やや滑らか	E	板目
447	容器	円形底物	3区東	T-18	14	(11.1)	(3.95)	0.75	全体の約1/8残存。 中間に焦げ有り。	底元径=15.4cm。	やや滑らか		板目
448	容器	人形	3区東	T-17	14	37.0	2.7	3.0	ほぼ完形。	芯持ち材の上部を削って目・口・首を成 す。	やや滑らか	円筒状人形	芯持ち材
449	容器	人形	3区東	T-18	14	(7.5)	2.3	2.1	下端欠損。	片・口を深く彫り込んでいる。下端部は 3方向から削って尖らせる。	滑らか	円筒状人形	芯持ち材

規範 番号	分類	名前	調査店	出土位置 (小クリット)	層位	法量 L	法量 W	法量 H	特徴 1 (保存部分に 関する情報)	特徴 2 (形状に関する情報)	表面の状態	型式	木版	
490	祭祀具	舟形	3区東	T-17	14	14.8	3.0	3.1	ほぼ完形。下面に船 底残存。	船首・船尾を裏面から斜めに削る。舟形 部は平底。船形帆形だが、帆形部 は見られない。	やや滑らか	A2	芯持ち材	
491	祭祀具	舟形	3区東	T-17	14	(16.3)	2.6	2.8	船首欠損。	丸の2ヶ所に割り込みを入れて横舟船 を表現。船首・船尾は下側から削り落と す。丸底・屏形帆形。	やや滑らか	A2	芯持ち材	
492	祭祀具	舟形	3区東	T-19	14	(11.4)	4.5	3.3	船首上部のみ欠損。	船頭頂のみ。上面と左右翼舟頭に削って 下丁字な底形。芯は直線3mmから抜 く。船形帆形。平底。		A2	芯持ち材	
493	祭祀具	舟形	3区東	T-18	14	(10.0)	2.55	0.6	上端部右斜面欠損。底 面の一部剥離。	上端部は山形。下端部も左右両側面に削 って尖らせる。上部の左右両側面に切り 込み有り。	粗い	CIV	板目	
494	祭祀具	舟形	3区東	T-19	14	(16.8)	1.5	0.45	ほぼ完形。	上端部は山形。下端部は左右両側面に削 って尖らせる。上部の左右両側面に切り 込み有り。	やや滑らか	CII	板目	
495	祭祀具	舟形	3区東	T-17	14	(13.5)	1.2	0.4	下端欠損。	下端部は左側から削って尖らせる。	やや滑らか	A	板目	
496	祭祀具	舟形	3区東	T-17	14	(11.0)	1.8	0.5	下端部のみ残存。	289と類似した形状。下端部は左右両側 面から削って尖らせる。	粗い	C	板目	
497	皿	鉢	3区東	T-18	14	(16.5)	2.0	1.7	上部欠損。表面T-23、全体に細かく圓錐面を削り、断面構造 に底形。	上端部は左側から削って尖らせる。		近材		
498	器物	鉢形	3区東	T-19	14	6.4	2.9	1.8	ほぼ完形。	腹面が唐突角三角形。中央部に攀耳有 り。下端はくびが形で削り削られる。	粗い	近材		
505	器具	刮削	3区東	T-18	15	(11.2)	0.4	0.4	上部欠損。	全体の細かく削り削りし、輪状に成形。下 端部は尖らせる。	滑らか	近材		
506	容器	円形曲物	3区東	T-18	15	(13.1)	(2.4)	0.6	全体の1/5程度残存。	底部は14.0cm。	やや滑らか	板目		
507	容器	円形曲物	3区東	T-18	15	(10.7)	(3.3)	0.4	全体の約1/10残存。	側面による紙状破壊有り。復元径=20.3cm。	粗い	Eか 板目		
508	杖	杖	3区東	T-18	15	(30.8)	1.6	1.35	下端欠損。	上端部は3方向からの削りで尖らせる。下 端部は6方向からの削りで尖らせる。	やや滑らか	近材		
314	容器	円形曲物	3区東	-	15.8	16.3	0.6	ほぼ完形。	(復元径)=16.3cm。		板目			
315	容器	円形曲物	3区東	-	(10.2)	(3.6)	1.35	全体の1/3残存。	復元径=11.0cm。軸が削り落として付けて いた穴が2ヶ所。側面に有り。	やや滑らか	板目			
316	杖	杖	3区東	-	(9.6)	1.1	1.1	上部欠損。	下端部を削り削って尖らせる。	やや滑らか	芯持ち材			
317	杖	杖	3区東	-	(8.6)	0.75	0.75	上部欠損。	下端部を削り削って尖らせる。	やや滑らか	芯持ち材			
518	容器	美物 漆器蓋板	E	T-19	A	(11.2)	(10.9)	2.35	ほぼ完形。漆器の大 部分が分離。	糸縫とも漆漆が剥離されている。高内方に 穴有り。底径=11.3cm。	粗い	漆器取り		
520	器具	織機	E	T-19	B	(17.35)	1.0	0.85	上部欠損。	細かく削りによって下端が細くなるよう に成形。	滑らか	近材		
521	杖	杖	E	T-19	B	23.9	1.7	1.35	完形。	表面が尖部・左側面・底部が尖化す る。下端部は削りで尖らせる。	やや滑らか	板目		
525	器具	水鉢	E	T-19	C	(10.09)	4.85	4.8	下端部と下部欠損。	芯持ち材の巾を削り解いて、くびれを成 形。上端部は角に削りに削って尖らせ る。	滑らか	芯持ち材		
526	容器	円形曲物 衡板	E	T-19	C	(2.15)	(14.9)	0.43	左右両脇・下部欠 損。	孔径1.2cm。署印刻23本。	やや粗い	板目		
527	器物	鉢	E	T-19	C	(17.0)	3.3	1.8	D部欠損。	上端部は表面から削りに削って薄く成 形。中央からやや左側に貫通した孔穴有 り。ボンの一部残存。	やや滑らか	板目		
528	不明	不明	E	T-19	C	(6.8)	(7.4)	(4.2)	上部及び裏面欠損。	底部は平底。表面の一部分。	やや滑らか	近材		
532	祭祀具	棒状祭祀 具	E	T-19	D	24.1	0.75	0.4	ほぼ完形。2ヶ所で 折れ。	全体に削り。下端部は表面から削 りに削り、下端部はおもに右側から前面 に削って尖らせる。	やや滑らか	漆器		
533	祭祀具	棒状祭祀 具	E	T-19	D	(14.3)	0.95	0.8	上部・下端欠損。	全体を削って下端部を尖らせる。	滑らか	近材		
534	杖	杖	E	T-19	D	(13.0)	1.6	0.95	上部欠損。左側面一 部欠損。	左側面を削って下端を尖らせる。	やや滑らか	板目		
535	不明	不明	E	T-19	D	7.6	2.4	2.25	ほぼ完形。	底部は平底。表面を削り削りを成形。立体 人像又は漆器物の可能性有り。	滑らか	板目		
546	祭祀具	盾形	E	T-19	H	(6.6)	1.9	0.2	下端部のみ残存。	上端部を左右両側面から削って尖らせる。 下端部は大きくなり込んで、二段に。下端 部は右側面から削って尖らせる。	やや滑らか	C	板目	
547	木材	木材	E	T-19	H	63.1	11.2	4.65	ほぼ完形。		粗い	板目		
556	容器	円形曲物	E	T-19	H	北壁崩 落土	(13.9)	(6.0)	0.55	表裏両面に漆が付着。 底径=14.0cm。	やや滑らか	板目		
559	祭祀具	劍形	E	T-19	H	北壁崩 落土	(20.7)	2.3	5.5	上端・下部欠損。左 側面と一部欠損。	表面は劍形に尖らせる。表面は削 りに削るが成形。下端部は側面をなだらか に削って削り成形。	粗い	板目	

表2 出土土器・土製品・その他観察表

掲載番号	分類	名稱	調査区	出土位置 (含クリップ)	層位	法量 (口径)	法量 (頸径・ 鉢径)	法量 (底径)	法量 (基高)	法量 (底深)	法量 (混合高)	残存率	整備技法	特徴	含有物	色調	
5	土器部 杯	3区西	T-16	5~10	(14.3)			3.15	(9.4)			1/4	外面：ヨコナダ。底 部回転ハラ切りのち ナダ。内面：ヨコナダ。底 部回転ハラ。	焼成：良。 密度：良。 反転復元。	石英、赤色斑 点、赤色斑点。 法量：0.1~ 6.5mm	外面：10YR6/3にぶ い黄赤。内面： 10YR5/3にぶ い黄赤。	
6	土器部 杯	3区西	T-16	5~10	(12.4)			4.4	6.9	0.9		1/2	外面：ヨコナダ。底 部回転ハラ切りのち ナダ。船付高台。 内面：ヨコナダ。底 部ヨコナダのちナ ダ。	焼成：良。 密度：良。 反転復元。	石英、赤色斑 点、赤色斑点。 法量：0.1~ 4.5mm	外面：7.5YR8/3浅 黄赤。内面： 7.5YR8/2灰 H.	
7	土器部 盆	3区西	S-16	5	12.5			1.3	10.4			3/4	外面：ヨコナダ。底 部回転ハラ切りのち ナダ。内面：ヨコナダ。底 部ヨコナダのちナ ダ。	焼成：良。 密度：良。 内面にスス付 合。	石英、結晶片 内面：赤色斑点。 法量：0.1~ 4.5mm	外面：10YR7/2にぶ い黄赤。内面： 10YR7/2にぶ い黄赤。	
8	土器部 瓶形 鉢形	3区西	S-T-16	5	残存長 (5.1)			残存幅 (6.2)					外面：ユビオサリ 内面：白口痕。	焼成：良。 密度：良。 内面にスス付 合。	石英、結晶片 法量：0.1~ 7.5mm	外面：5YR4/4にぶ い赤。内面： 5YR4/3赤。	
9	瓦	平瓦	3区西	S-16	5	長さ (9.2)			幅 (11.2)	厚さ (2.8)				裏面：白口痕。 凸面：萬葉文タキ。	焼成：良。 密度：良。	石英。黒色斑 点。法量：0.1~ 8.5mm	背面：5PBS/1青灰。 内面：5PDS/1青灰。
10	石製品	丸割	3区西	S-16	3	長さ (2.7)		幅 (4.2)	厚さ (0.75~16.57g)	重量 (14.7g)			外面：ヨコナダのち ハラとヨコナダ(0.2~ 0.6cm)。底部回転ハ ラ切りのちナダ。船 付高台。	焼成：良。 密度：良。 一部反転復元。	石英。結晶片 内面にスス付 合。表面に研磨痕 あり。		
15	黑色土 器B	燒	3区西	S-16	6	(12.6)			4.4	6.4	0.8	2/3		外面：ヨコナダ。底 部回転ハラ切りのち ナダ。	焼成：良。 密度：良。 内面：ヨコナダのち ハラとヨコナダ(0.2~ 1.0cm)。	石英、赤色斑 点。法量：0.1~ 2.0mm	外面：10YR5/2灰黃 色。内面： 10YR5/3にぶ い黄赤。
16	土器部 盆	3区西	S-16	6	11.4			1.3	8.4			9/10	外面：ヨコナダ。底 部回転ハラ切りのち ナダ。	焼成：良。 密度：良。	石英、赤色斑 点。法量：0.1~ 1.5mm	外面：7.5YR7/2明 黄色。内面： 10YR7/2にぶ い黄赤。	
17	土器部 植物 丁	3区西	S-16	6	残存長 (5.6)			残存幅 (5.0)					外面：ナダのちユビ オサリ。	焼成：良。 密度：良。	石英。結晶片 内面：ナダ。	外面：7.5YR5/3に ぶい赤。内面： 7.5YR5/2灰 色。	
18	土器部 瓶形	3区西	S-16	6	23.4	鉢径 28.7		(23.9)				4/5	外面：口縁部ヨコ ナダ。底部上部ハケ (6mm)のちユビ オサリ。下部鉢脚 内面：ヨコナダ(6.0cm)。 内面：ユビオサリの ち放水テ(約2.5cm)。 口縁ユビオサリの ちナダ。	焼成：良。 密度：良。 内面にスス付 合。一部反転復元。	石英、結晶片 内面：赤色斑点。 法量：0.1~ 5.0mm	外面：10YR5/3にぶ い青灰。内面： 10YR5/3にぶ い黄赤。	
29	土器部 杯	3区西	S-T-16	7	13.4			(4.1)	8.4			3/4	外面：ヨコナダ。底 部回転ハラ切りのち ナダ。	焼成：良。 密度：良。 内面：ヨコナダ。	石英、長柱、 結晶片内面：赤 色斑点。法量： 0.1~2.5mm	外面：5VR6/6櫻。 内面：7.5YR6/6櫻。	
30	土器部 盆	3区西	3区	2~9 7	10.75			1.4	9.5			4/5	外面：ヨコナダ。底 部回転ハラ切りの ナダ。	焼成：やや不 良。密度：良。 内面：ヨコナダ。底 部ヨコナダのちナ ダ。	石英、結晶片 内面：赤色斑点。 法量：0.1~ 2.0mm	外面：2.5VR6/6櫻。 内面：2.5YR6/6櫻。	
31	土器部 黒	3区西	S-T-16	7	(9.8)			1.6	(6.6)			1/2	外面：ヨコナダ。底 部回転ハラ切りの ナダ。	焼成：良。 密度：良。 内面：ヨコナダ。底 部ヨコナダのちナ ダ。	石英、結晶片 内面：赤色斑点。 法量：0.1~ 1.0mm	外面：5YR6/6櫻。 内面：5YR6/4に ぶい赤。	
47	土器部 杯	3区西	S-T-16	8	(12.7)			(3.95)	8.1			3/5	外面：ヨコナダ。底 部回転ハラ切りの ナダ。	焼成：良。 密度：良。 内面：ヨコナダ。	石英、結晶片 内面：赤色斑点。 法量：0.1~ 1.0mm	外面：10YR7/2にぶ い黄赤。内面： 10YK7/4にぶ い黄赤。	
48	土器部 杯	3区西	S-16	8	12.8			3.8	7.5			4/5	外面：ヨコナダ。底 部ナダ。	焼成：良。 密度：良。	石英、赤色斑 点。法量：0.1~ 1.0mm	外面：5YR7/4にぶ い黄赤。内面： 5YR7/6櫻。	

規範番号	分類	名前	調査区	出土位置 (小グリッド)	層位	法量 (口径)	法量 (横幅・ 側厚)	法量 (底面)	法量 (器高)	法量 (底径)	法量 (底高)	残存率	調整技法	特徴	含有物	色調	
49	土師器	杯	3区西	S-16	8 9	(14.8)			4.3	8.7		1/3	外観：ヨコナダ。底部回転ヘラ切りのちナダ。 内面：ヨコナダ。底部ヨコナダのちナダ。	焼成：良。 密度：良。 底部反転復元。	石英、結晶片 赤色斑紋。 密度：0.1～ 5.0mm	外観：7.5YR7/4に ぶい緑。 内面：7.5YR7/4に ぶい緑。	
50	土師器	皿	3区西	S-16	8	13.1			1.8	9.6		完形	外観：ヨコナダ。底部回転ヘラ切りのちナダ。 内面：ヨコナダ。底部ヨコナダのちナダ。	焼成：やや不 良。 密度：良。 法量：0.1～ 5.0mm	石英、結晶片 赤色斑紋。 密度：0.1～ 5.0mm	外観：7.5YR7/4に ぶい緑。 内面：7.5YR7/4に ぶい緑。	
51	土師器	裏	3区西	T-16	9	(26.0)	22.2	26.9	(7.35)		山根部 1/4	外観：ユビナサエの らハケ。盤部ハケの ちナダ。 内面：ユビナサエの らハケ。盤部ハケ。	焼成：良。 密度：良。 法量：0.1～ 2.6mm	石英、結晶片 赤色斑紋。 密度：0.1～ 2.6mm	外観：10YR6/2灰黄 色。 内面：10YR6/2灰黄 色。		
62	土師器	杯	3区西	T-17	10 11	(17.0)				(3.1)		1/7	外観：ヨコナダのち ナダミガキ。 内面：ヨコナダのち ナダミ。	焼成：良。 密度：稍。	石英、結晶片 赤色斑紋。 法量：0.1～ 2.2mm	外観：5YR5/4に ぶい緑。 内面：5YR6/4に ぶい緑。	
63	土師器	盛の把手 子	3区西	S-T-16	10	残存長 (6.15)				残存長 (6.6)		把手部 1/3	外観：ハケ(9条/ cm)。把手部ヨビオ ナダ。 内面：ユビナサエの らハケナダ。	焼成：やや不 良。 密度：良。 法量：0.1～ 2.0mm	石英、結晶片 赤色斑紋。 密度：0.1～ 2.0mm	外観：2.5YR6/2灰黄 色。 内面：2.5YR6/2灰黄 色。	
64	土師器	盃	3区西	T-16	10	(22.8)			(23.6)	(8.2)		山根部 1/7	外観：ヨコナダのち ハケ。 内面：ハラケズリ。 山根部ヨコナダのち ハケ。	焼成：良。 密度：良。 法量：0.1～ 4.0mm	石英、赤色斑 紋。 密度：0.1～ 4.0mm	外観：7.5YR6/3に ぶい緑。 内面：7.5YR6/2灰黄 色。	
76	土師器	蓋	3区西	S-16	11			15.6	2.3		ほぼ完形	外観：ヨコナダのち ハラミガキ。 内面：ヨコナダ。	焼成：良。 密度：良。 法量：0.1～ 0.8mm	石英、結晶片 赤色斑紋。 密度：0.1～ 0.8mm	外観：2.5YR7/6緑。 内面：2.5YR7/4灰 色。		
77	土師器	蓋	3区西	T-16	11	(20.7)				1.2		1/6	外観：凹輪ナダ。底 部回転ヘラズリ。 内面：知れず。	焼成：良。 密度：良。 法量：0.1～ 1.5mm	石英、結晶片 赤色斑紋。 密度：0.1～ 1.5mm	外観：N6/0灰。 内面：N6/0灰。	
78	土師器	皿か	3区西	S-16	11					(0.9)	17.0	底部は1/2 完形	外観：底部ヘラケズ リ。 内面：底部ヨコナダ のちハラミガキ。(横 張端丸文)。(底部ヘ ラカウス放射状斜文 の溝がわざかに見ら れる)	焼成：良。 密度：良。 横張端成形？ 輪積み成形？	石英、赤色斑 紋。 法量：0.1～ 8.0mm	外観：5YR6/4に ぶい緑。 内面：7.5YR6/4に ぶい緑。	
79	土師器	高台付 皿	3区西	T-16	11					(3.5)	調延 11.9	2.75	4/5	外観：ヨコナダ。底 部回転ヘラ切りのち ナダ。高台部分ヨコ ナダ。底面高台。	焼成：Dw。 密度：良。 法量：0.1～ 4.0mm	石英、結晶片 赤色斑紋。 密度：0.1～ 4.0mm	外観：6YR6/4に ぶい緑。 内面：10YR6/2灰黄 色。
80	土師器	皿	3区西	S-T-16	11	(19.4)			2.7	(16.4)		1/4	外観：ヨコナダ。底 部ヘラケズリのち ナダ。 内面：ヨコナダ。底 部ヨコナダのちナ ダ。	焼成：Dw。 密度：良。 法量：0.1～ 2.0mm	石英、結晶片 赤色斑紋。 密度：0.1～ 2.0mm	外観：10YR6/1灰灰 色。 内面：7.5YR6/1灰灰 色。	
81	土師器	兎	3区西	T-16	11	(32.6)	(26.4)		(8.0)			1/8	外観：ハケ(6条/ cm)。口縁部ヨコナ ダ。颈部ヨビオサエ のちヨコナダ。 内面：ユビナサエの らハケ(5条/cm)。 口縁部ヨコナダ。 底部ヨコナダのちハ ケ(6条/cm)。	焼成：良。 密度：良。 法量：0.1～ 2.7mm	石英、結晶片 赤色斑紋。 密度：0.1～ 2.7mm	外観：7.5YR6/4に ぶい緑。 内面：5YR6/4に ぶい緑。	
82	宿泊器	裏	3区西	3区	11					(4.3)			外観：口縁部回転ナ ダ。底部ヨコナダの ちハケ(5条/cm)。 内面：口縁部回転ナ ダ。	焼成：良。 密度：良。 法量：0.1～ 2.0mm	石英、結晶片 赤色斑紋。 密度：0.1～ 2.0mm	外観：N5/0灰。 内面：N5/0灰。	

標記番号	分類	名前	調査区	出土位置 (サブリフ)	層位	法量 (口径)	法量 (縦径・横径)	法量 (直径)	法量 (高さ)	残存率	調整技法	特徴	含有物	色調			
83	土器部 甌		3区西	S-16	11	28.8		33.2	23.15	15.4	1/4	外観：14蔵部ヨコナダ。底部に上部ハケ(6cm)のちナデ、中央ユビオサウのちナデ(6cm)、下部ハケ(6cm)。内面：口縁部ヨコナダ。内壁：内面ヨコナダ。内底：内面ヨコナダ。内側：内面ヨコナダ。底部から底部までから上方へ斜め方向のハケ(6cm)。	成形：良。付着：有。密度：A。内面：2.5YS/2暗灰。外観：粘着力好。内面：2.5YS/4にぶい。外観：白黄。内面：2.5YS/4にぶい。	石英、粘着力好。外観：2.5YS/2暗灰。内面：2.5YS/4にぶい。			
84	金属製品	鉄鎧	3区西	S-16	11	長さ 13.3			幅 0.8	厚さ 0.3	重量 8.13g	断面：刃形片、断面平片刃差・施用。頭部：有頸・凸形頭。頭部：有頸、斷面形。					
87	土器部 皿		3区北	T-16	6	9.6			1.8	6.9		9/10	外観：ヨコナダ。底部ヨコナダへラ切(6cm)のちナデ。板状裏張。	成形：良。付着：無。密度：B。内面：ヨコナダ。	石英、赤色。外観：5YR6/4にぶい。内面：5YR6/6暗。		
93	土器部 皿		3区北	T-16	7	11.8			2.85	9.4		9/10	外観：ヨコナダ。底部ヨコナダへラ切(6cm)のちナデ。板状裏張。	成形：良。付着：無。密度：B。内面：ヨコナダ。内面ヨコナダ。内底：ヨコナダ。	石英、赤色。外観：5YR5/3にぶい。内面：5YR5/3にぶい。		
94	土器部 高台付皿		3区北	T-16	8	16.2			3.1	10.5	1.2	14/2完形	外観：ヨコナダ。底部ヨコナダのちナデ。縫合高台。	成形：良。付着：無。密度：B。内面：ヨコナダ。	石英、赤色。外観：10YR6/3にぶい。内面：10YR7/3にぶい。		
95	金属製品	鉄鎧	3区北	T-16	8	長さ (7.9)			幅 1.96	厚さ 0.3	重量 9.89g						
96	金属製品	鉄鎧	3区北	T-16	8	長さ 10.5			幅 2.0	厚さ 0.4	重量 21.15g						
97	土器部 皿		3区北	T-17	9	(14.8)		(15.0)	1.5	(11.4)		1/3	外観：ヨコナダ。底部ヨコナダへラ切(6cm)のちナデ。内面：ヨコナダ。	成形：良。付着：無。密度：B。内面：ヨコナダ。内底：ヨコナダ。内面：スチッカ。内面：スチッカ。内面：スチッカ。	石英、粘着力好。外観：7.5YR7/2明。内面：7.5YR6/3にぶい。		
98	土製品	土器	3区北	T-16	9	長さ 4.05			孔径 0.5	幅 1.05	厚さ 1.5	重量 9.26g	完形	外観：ヒビオサツ。	成形：良。付着：無。密度：B。内面：ヒビオサツ。	石英、粘着力好。外観：7.5VS/1灰。内面：7.5VS/1灰。	
100	土器部 甌		3区北	T-16	11	15.2				3.85	12.0		完形	外観：ヨコナダ。底部ヨコナダへラ切(6cm)のちナデ。	成形：良。付着：無。密度：B。内面：ヨコナダ。内底：ヨコナダ。	石英、粘着力好。外観：7.5YR6/1灰。内面：7.5VS/1灰。	
106	瓦	平瓦	3区東	T-18	3~5	長さ (11.25)			幅 (1.83)	厚さ (2.95)				内面：布目瓦底。内面：縫合又タキ。	成形：良。付着：無。密度：B。内面：布目瓦底。内面：縫合又タキ。	石英、赤色。外観：2.5VS/1灰。内面：5VS/1灰。	
109	土器部 杯		3区東	T-16	5~7				(1.8)	6.8	0.8	底部1/3	外観：ヨコナダ。底部ヨコナダへラ切(6cm)のちナデ。	成形：良。付着：無。密度：B。内面：ヨコナダ。	石英、粘着力好。外観：7.5YR6/2灰黄。内面：5VS/1灰。	外観：10YR6/2灰黄。内面：10YR6/2灰黄。	
110	土器部 高杯		3区東	3区東	5				5.9		(13.2)		内面：ヨコナダ(破り底)。	成形：良。付着：無。密度：B。内面：ヨコナダ(破り底)。	石英、粘着力好。外観：7.5VS/6/3にぶい。内面：7.5YR6/3にぶい。	外観：7.5VS/6/3にぶい。内面：7.5YR6/3にぶい。	
111	丸	半丸	3区東	T-18	5~7	長さ (13.2)			幅 (6.8)	厚さ (2.15)			内面：布目底。内面：縫合又タキ。	成形：良。付着：無。密度：B。内面：スチッカ。	石英、赤色。外観：3VS/0灰。内面：3VS/0灰。		
112	金属製品	鉄鎧	3区東	T-18	5	長さ (6.25)			幅 (2.85)	厚さ 1.2	重量 9.5g	1/2強欠損	外観：刃形片、断面半丸。頭部：有頸・断面形。	成形：良。付着：無。密度：B。内面：ヨコナダ。	石英、粘着力好。外観：2.5VS/1灰。内面：2.5VS/1灰。		
116	土器部 高台付皿		3区東	T-17	6				(2.6)	6.4	1.6	高台部1/3	外観：ヨコナダ。底部ヨコナダへラ切(6cm)のちナデ。	成形：良。付着：無。密度：B。内面：ヨコナダ(ちナデ)。	石英、赤色。外観：5YR6/4にぶい。内面：5YR6/4にぶい。	外観：7.5YR6/4にぶい。内面：7.5YR6/4にぶい。	
178	土器部 甌		3区東	T-16	7	12.6				4.1	6.8		14/2完形	外観：ヨコナダ。底部ヨコナダへラ切(6cm)のちナデ。	成形：良。付着：無。密度：B。内面：ヨコナダ。	石英、赤色。外観：5YR7/4にぶい。内面：5YR7/4にぶい。	外観：5YR7/4にぶい。内面：5YR7/4にぶい。

規範 番号	分類	名稱	調査区	出土位置 (小クリップ)	層位	法量 (口径)	法量 (縦径) (横径)	法量 (最大幅)	法量 (高さ)	法量 (底面)	法量 (高台基)	残存率	調整技法	特徴	含有物	色調
179	土師器	杯	3区東	T-17	7	(13.2)		(4.4)	(6.2)			1/4	外面：ヨコナダ・底部凹部へ切りのちナダ。内面：ヨコナダ・底部ヨコナダのちナダ。	焼成：良。密度：良。反応活性元。	石英、結晶片岩、赤色斑状。含水率：0.1~4.0%。	外面：5 YR6/4に赤い斑。内面：7.5 YR6/4に赤い斑。
180	土師器	杯	3区東	T-17	7~8	15.4		5.2	8.6			2/3	外面：ヨコナダ・底部凹部へ切りのちナダ。内面：ヨコナダ。	焼成：良。密度：良。外側にスメ付着。	石英、結晶片岩、赤色斑状。含水率：0.1~3.5mm。	外面：2.5 YR7/1灰白。内面：10YR4/1灰白。
181	土師器	杯	3区東	T-17	7	16.0		(4.5)	9.3			1/2	外面：ヨコナダ・底部凹部へ切らのちナダ。内面：ヨコナダのちナダ。	焼成：良。密度：良。	石英、結晶片岩、赤色斑状。含水率：0.1~2.0%。	外面：5 YR6/4に赤い斑。内面：5 YR6/4に赤い斑。
182	土師器	杯	3区東	T-18	7	11.4		2.4	7.9			1/3	外面：ヨコナダ・底部凹部へ切らのちナダ。内面：ヨコナダ。	焼成：良。密度：良。反応活性元。	石英、結晶片岩、赤色斑状。含水率：0.1~2.0%。	外面：5 YR6/4に赤い斑。内面：5 YR7/4に赤い斑。
183	土師器	杯	3区東	T-18	7	12.0		2.8	8.6			5/6	外面：ヨコナダ・底部凹部へ切らのちナダ、根状灰岩質。内面：ヨコナダ・底部ヨコナダのちナダ。	焼成：良。密度：良。外側に付着物あり。内面：赤色斑状。	石英、結晶片岩、赤色斑状。含水率：0.1~2.5mm。	外面：7.5 YR6/4に赤い斑。内面：5 YR6/6強。
184	土師器	杯	3区東	T-17	7	(12.2)		3.0	9.0			3/4	外面：ヨコナダ・底部凹部へ切らのちナダ。内面：ヨコナダ。	焼成：良。密度：良。反応活性元。	石英、赤色斑状。含水率：0.1~0.8%。	外面：10YR6/3C灰白。内面：10YR7/2に赤い斑。
185	土師器	杯	3区東	T-17	7~8	13.0		3.2	7.4			4/5	外面：ヨコナダ・底部凹部へ切らのちナダ。内面：ヨコナダ。	焼成：良。密度：良。外側にスメ付着。反応活性元。	石英、結晶片岩、赤色斑状。含水率：0.1~5.5mm。	外面：10YR8/1灰白。内面：7.5 YR8/2灰白。
186	土師器	杯	3区東	T-18	7	13.8		3.8	9.3			2/3	外面：ヨコナダ・底部凹部へ切らのちナダ。内面：ヨコナダ・底部ヨコナダのちナダ。	焼成：良。密度：良。	石英、長石、結晶片岩、赤色斑状。含水率：0.1~4.5mm。	外面：10YR5/2灰黄。内面：7.5 YR6/4に赤い斑。
187	土師器	高台付 杯	3区東	T-18	7	(15.3)		5.35	8.1	1.8		1/4	外面：ヨコナダ。底部ナダ。内面：ヨコナダ。底部ヨコナダのちナダ。	焼成：良。密度：良。外側にスメ付着。反応活性元。	石英、赤色斑状。含水率：0.1~3.0mm。	外面：7.5 YR6/4に赤い斑。内面：7.5 YR6/4に赤い斑。
188	土師器	皿	3区東	T-18	7	8.4		1.2	6.25			9/10	外面：ヨコナダ・底部凹部へ切らのちナダ。内面：ヨコナダ。	焼成：良。密度：良。	石英、赤色斑状。含水率：0.1~1.8mm。	外面：10YR5/2灰黄。内面：7.5 YR7/4に赤い斑。
189	土師器	皿	3区東	T-17	7	(9.6)		(1.2)	(7.6)			1/5	外面：ヨコナダ。内面：ヨコナダ。	焼成：やや不良。密度：良。外側にスメ付着。反応活性元。	石英、赤色斑状。含水率：0.1~2.6mm。	外面：5 YR6/4に赤い斑。内面：5 YR6/4に赤い斑。
190	土師器	皿	3区東	T-18	7	9.8		1.6	8.3			3/4	外面：ヨコナダ・底部凹部へ切らのちナダ。板状灰岩質。内面：ヨコナダ。底部ヨコナダのちナダ。	焼成：良。密度：良。外側にスメ付着。反応活性元。	石英、結晶片岩、赤色斑状。含水率：0.1~2.0mm。	外面：10YR5/2灰黄。内面：10YR5/2灰黄。
191	陶器	瓶	3区東	T-17	7			(1.3)	4.2			底部1/2	外面：クロロナダ。内面：底面凸筋有り。内面：クロロナダ。	焼成：良。密度：良。反応活性元。	石英、結晶片岩、赤色斑状。含水率：0.1~0.5mm。	内・外面：10YG 黄緑(5.5)明るいオーブンのもの。地上：5~18灰白。
192	土師器	瓶	3区東	T-18	7	(22.6) (20.7)		(5.3)				口縁～頂部 1/5	外面：ハケ(6角cm)。口縁出ヨコナダ。内面：板ナダ。口縁強張ハケ(6角cm)。	焼成：良。密度：良。外側に付着物多量付着。反応活性元。	石英、結晶片岩、赤色斑状。含水率：0.1~5.0mm。	外面：5 YR3/1オーブン。内面：10YR5/3に赤い斑。
193	土師器	蓋	3区東	T-17~18	7~8							横幅 (21.5) 厚さ (1.6) 高さ (17.1)	鉢形：ユビオサエ、ユビナダのちハケ(4角cm)。口縁強張。内面：ハケ(4角cm)。内面：11縫割ヨコナダ。付け根部ヨコナダ。ユビオサエ、ユビナダ。	焼成：良。密度：良。裏面全体に裏面の一部にスメ付着。	石英、結晶片岩、赤色斑状。含水率：0.1~9.0mm。	青食器：5 YR5/4に赤い斑。青食器：7.5 YR5/4に赤い斑。
194	上製品	上縁	3区東	T-18	7	長さ 8.6	孔径 1.35	幅 3.5	厚さ 3.2	重量 23.6kg	はね定形	外面：ユビオサエ、ユビナダのちナダ。	焼成：良。密度：良。	石英、長石、結晶片岩、赤色斑状。含水率：0.1~7.5mm。	外面：10YR8/1灰白。	
195	瓦	平瓦	3区東	T-18	7	長さ (9.6)				幅 (10.0)	厚さ (3.2)	不明	両面：布目灰。内面：龍文テクチキ。	焼成：良。密度：良。	石英、結晶片岩、赤色斑状。含水率：0.1~4.0mm。	表面：2.5 YT7/1灰白。凸面：2.5 YL6/1灰白。

編號 番号	分類 名稱	調査区 名稱	出土位置 (カタリッフ)	層位	法量 (口底)	法量 (横径、 縦径)	法量 (最大径)	法量 (基部)	法量 (直徑)	法量 (最高部)	残存率	調整技法	特徴	含有物	色調
196 金屬製品 鉄錠		3区東	T-19	7 長5 (9.1)			幅3 厚さ 0.9	幅3 高さ 66.7g			下部欠損	腰身部：半圓形・斜面削減。頭部：有頭・台形凹。 頭部：有頭・台形凹。			
197 金屬製品	小明	3区東	T-18	7 長5 (3.5)										重量: 32.92g	
259 土師器 杯		3区東	T-18	8 (11.0)			3.5	8.7		2/3		外観：ヨコナデ。底 部回転へタ切りのち ナデ。内面：ヨコナデ。底 部ヨコナデのちナ デ。	焼成：良。 密度：良。	石英、結晶片 質、赤色斑駁。 内面：10YR6/2灰黃 色。	外観：2.5Y6/2灰黃。 内面：10YR6/2灰黃 色。
260 土師器 杯		3区東	T-19	8 (12.0)			2.8	8.4		1/6		外観：ヨコナデ。底 部回転へタ切りのち ナデ。内面：ヨコナデ。底 部ヨコナデのちナ デ。	焼成：良。 密度：良。 内面：焼成後元 のまま。	石英、結晶片 質、赤色斑駁。 内面：10YR6/3灰黃 色。	外観：10YR6/3に ぶい穂。 内面：10YR6/3灰黃 色。
261 土師器 杯		3区東	T-17	8 13.0			3.2	8.0		9/10		外観：ヨコナデ。底 部へタ切りのちナ デ。内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 内面にスス付 着。	石英、結晶片 質、赤色斑駁。 内面：10YR6/3に ぶい穂。	外観：7.5YR7/3に ぶい穂。 内面：7.5YR7/3に ぶい穂。
262 土師器 杯		3区東	T-17	8 9 12.8			3.45	9.0		4/5		外観：ヨコナデ。底 部回転へタ切りのち ナデ。内面：ヨコナデ。底 部ヨコナデのちナ デ。	焼成：良。 密度：穢。 内面：赤色斑駁。	石英、結晶片 質、赤色斑駁。 内面：10YR6/2灰黃 色。	外観：10YR7/1灰白。 内面：10YR7/2にぶ い穂。
263 土師器 杯		3区東	T-18	8 13.2			3.7	8.9		完形		外観：ヨコナデ。底 部回転へタ切りのち ナデ。内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 内面にスス付着。	石英、結晶片 質、赤色斑駁。 内面：10YR6/3にぶ い穂。	外観：10YR7/2にぶ い穂。 内面：10YR7/3にぶ い穂。
264 土師器 杯		3区東	T-17	8 13.2			3.7	8.4		完形		外観：ヨコナデ。底 部回転へタ切りのち ナビナデ。内面：ヨコナデ。底 部ヨコナデのちナ ビナデ。	焼成：良。 密度：良。	石英、結晶片 質、赤色斑駁。 内面：10YR6/3にぶ い穂。	外観：10YR7/1灰白。 内面：7.5YR7/2灰 色。
265 土師器 杯		3区東	T-18	8 13.1			4.0	8.5		3/4		外観：ヨコナデ。底 部へタ切りのちナ デ。内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 内面に付着物 あり。口縁部にスス付 着。	石英、結晶片 質、赤色斑駁。 内面：10YR6/3にぶ い穂。	外観：5YR7/4にぶ い穂。 内面：5YR6/3にぶ い穂。
266 土師器 杯		3区東	T-18	8 12.9			3.75	7.9		2/3		外観：ヨコナデ。底 部回転へタ切りのち ナデ。内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。	石英、結晶片 質、赤色斑駁。 内面：10YR7/3にぶ い穂。	外観：7.5YR7/3に ぶい穂。 内面：7.5YR7/3に ぶい穂。
267 土師器 杯		3区東	T-18	8 13.6			4.6	8.0		4/5		外観：ヨコナデ。底 部回転へタ切りのち ナデ。内面：ヨコナデ。底 部ヨコナデのちハラ工 具によるヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。	石英、結晶片 質、赤色斑駁。 内面：10YR6/3にぶ い穂。	外観：10YR6/3にぶ い穂。 内面：10YR6/3にぶ い穂。
268 土師器 皿		3区東	T-18	8 10.1			1.1	6.8		9/10		外観：ヨコナデ。底 部へタ切りのちナ デ。内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。	石英、結晶片 質、赤色斑駁。 内面：10YR7/1灰 色。	外観：7.5YR7/1灰 色。 内面：7.5YR7/1灰 色。
269 土師器 皿		3区東	T-19	8 12.5			1.5	7.2		4/5		外観：ヨコナデ。底 部回転へタ切りのち ナデ。内面：ヨコナデ。底 部ヨコナデのちナ ビナデ。	焼成：良。 密度：良。	石英、結晶片 質、赤色斑駁。 内面：10YR7/4にぶ い穂。	外観：10YR7/2にぶ い穂。 内面：5YR7/4にぶ い穂。
270 土師器 皿		3区東	T-17	8 13.5			1.4	10.0		完形		外観：ヨコナデ。底 部回転へタ切りのち ナデ。内面：ヨコナデ。底 部ヨコナデのちナ ビナデ。	焼成：良。 密度：良。 内外面に付着 物。	石英、結晶片 質、赤色斑駁。 内面：10YR6/3にぶ い穂。	外観：5YR6/3にぶ い穂。 内面：5YR7/3にぶ い穂。
271 土師器 皿		3区東	T-18	8 13.2			1.9	8.6		完形		外観：ヨコナデ。底 部回転へタ切りのち ナデ。内面：ヨコナデ。底 部ヨコナデのちナ ビナデ。	焼成：良。 密度：良。 内外面に付着 物。	石英、結晶片 質、赤色斑駁。 内面：10YR8/2灰白。 内面：5YR8/2灰白。	外観：5YR8/2灰白。 内面：5YR8/2灰白。
272 土師器 皿		3区東	T-16	8 13.1			2.2	8.3		4/5		外観：ヨコナデ。底 部へタ切りのちナ デ。内面：ヨコナデ。底 部ヨコナデのちナ ビナデ。	焼成：良。 密度：良。 内面に黒斑。	石英、結晶片 質、赤色斑駁。 内面：10YR8/6灰 色。	外観：7.5YR7/3に ぶい穂。 内面：7.5YR7/3に ぶい穂。
273 土師器 皿		3区東	T-18	8 13.6			1.6	9.1		4/5		外観：ヨコナデ。底 部へタ切りのちナ デ。内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 内面にスス付着。	石英、結晶片 質、赤色斑駁。 内面：10YR8/1灰白。 内面：5YR8/1灰白。	外観：5YR7/3にぶ い穂。 内面：5YR8/1灰白。

標記番号	分類	名前	調査区	出土位置 (小グリッド)	層位	法量 (口径)	法量 (横径、 厚径)	法量 (最大径)	法量 (器高)	法量 (底面)	法量 (裏面)	費存率	調整技法	特徴	含有物	色調	
274	基色土 器 A	碗	3区東	T-18	8	(13.5)			5.0	7.9	0.95	口底部 1/4	外周：ヨコナダ。底 部へラ切りのちナ ダ。内面：ハラミガキ。	焼成：良。 密度：良。 底面外周に墨 書きあり。 反転復元。	石英、岩母 石英、岩母 石英、岩母 石英、岩母	外周：7.5YR6/4に よい色。 内面：N3/0暗灰。	
338	須志器 蓋	蓋	3区東	T-18	9	フマニ等 3.8			1.45			フマニ部 分 ほぼ完形	外周：回転ナダ。 内面：回転ナダ。	焼成：良。 密度：良。 反転復元。	石英、赤色斑 石英、墨母 石英、墨母	外周：NG/0灰。 内面：2.5GY6/1* リーパ灰。	
359	土師器 杯	杯	3区東	T-18	9	12.3			3.2	7.2		光形	外周：ヨコナダ。底 部へラ切りのちナ ダ。被ナダ。	焼成：良。 密度：良。 内面に付着物 あり。	石英、赤色斑 石英、墨母 石英、墨母	外周：5YR6/3淡黄 内面：5TR7/3にぶ り色。	
360	土師器 杯	杯	3区東	T-17	9	12.2			3.6	8.4		光形	外周：ヨコナダ。底 部へラ切りのちナ ダ。内面：ヨコナダのち ナダ。	焼成：良。 密度：良。 内外面に赤色 斑彩。	雲母 雲母	外周：10YR7/3にぶ り色。 内面：2.5YR5/6暗	
361	土師器 杯	杯	3区東	T-18	9	(13.0)			3.3	8.3		3/5	外周：ヨコナダ。底 部へラ切りのちナ ダ。内面：ヨコナダ。	焼成：良。 密度：良。 一部反転復元。	石英、粘晶片 石英、墨母 石英、墨母	外周：7.5YR7/4に よい色。 内面：7.5YR6/4に よい色。	
362	土師器 杯	杯	3区東	T-17	9	(13.0)			3.4	7.6		1/2	外周：ヨコナダ。底 部へラ切りのちナ ダ。内面：ヨコナダ。底 部へヨコナダのちナ ダ。	焼成：良。 密度：良。 内面に付着物 あり。	石英、粘晶片 石英、墨母 石英、墨母	外周：10YR6/2灰黃 内面：10YR6/2灰黃	
363	土師器 杯	杯	3区東	T-17	9	12.9			3.6	7.9		9/10	外周：ヨコナダ。底 部へラ切りのちナ ダ。内面：ヨコナダ。	焼成：良。 密度：良。 内外面にスス 付着。	石英、粘晶片 石英、墨母 石英、墨母	外周：2.5Y7/3淡黃 内面：5Y7/1灰白。	
364	土師器 杯	杯	3区東	T-18	9	13.2			3.4	8.2		光形	外周：ヨコナダ。底 部へラ切りのちナ ダ。内面：ヨコナダ。	焼成：良。 密度：良。 内外面にスス 付着。	石英、粘晶片 石英、墨母 石英、墨母	外周：口時M2.5VR 7/6暗。全体、底部 5YR8/3淡黃。	
365	土師器 杯	杯	3区東	T-17	9	(13.7)			3.8G	8.6		1/2	外周：ヨコナダ。底 部へラ切りのちナ ダ。内面：ヨコナダ。	焼成：良。 密度：良。 反転復元。	石英、赤色斑 石英、墨母 石英、墨母	外周：5YR6/4にぶ り色。 内面：5YR7/4にぶ り色。	
366	土師器 杯	杯	3区東	T-18	9	(14.6)			(4.8)	9.1		2/3	外周：ヨコナダ。底 部へラ切りのちナ ダ。内面：ヨコナダ。	焼成：良。 密度：良。 底面外周にスス 付着。一部反転復元。	石英、粘晶片 石英、墨母 石英、墨母	外周：10YR6/2灰黃 内面：10YR6/2灰黃	
367	土師器 杯	杯	3区東	T-19	9	(14.2)			5.0	9.0	1.1	2/3	外周：ヨコナダ。底 部へラ切りのちナ ダ。貼付残部。	焼成：良。 密度：良。 底面外周にスス 付着。一部反転復元。	石英、粘晶片 石英、墨母 石英、墨母	外周：7.5YR7/3に よい色。 内面：7.5YR7/4に よい色。	
368	土師器 杯	杯	3区東	T-19	9	15.4			5.2	8.9	1.6	2/3	外周：ヨコナダ。底 部ヨコナダのちナ ダ。貼付残部。	焼成：良。 密度：良。 内面：ヨコナダ。	石英、粘晶片 石英、墨母 石英、墨母	外周：5YR6/5暗。 内面：5YR6/5暗。	
369	土師器 皿	皿	3区東	T-17	9	15.35			1.9	9.4		9/10	外周：ヨコナダ。底 部ヨコナダのちナ ダ。内面：ヨコナダ。	焼成：良。 密度：良。 内面に付着物 あり。	石英、灰石、 石英、墨母 石英、墨母	外周：5YR7/4にぶ り色。 内面：5YR7/4にぶ り色。	
370	土師器 火舟 高台	火舟 高台	3区東	T-17 18・19 12-13 12-14	9, 11, 12-13 12-14				(25.4)	(7.1)	(24.6)	(4.8)	高台部 1/4	外周：ヨコナダ。底 部ヨコナダのちナ ダ。内面：ヨコナダ。	焼成：良。 密度：良。 内面に付着物 あり。	石英、灰石、 石英、墨母 石英、墨母	外周：5YR6/4にぶ り色。 内面：5YR6/4にぶ り色。
371	土製品 土鍋	土鍋	3区東	T-17	9	長さ (4.05)			孔径 0.7	幅 1.9	厚さ 1.7	重量 11.6g	4/5	外周：ユビオナド。 内面：ユビオナド。	焼成：良。 密度：良。	石英、粘晶片 石英、墨母 石英、墨母	外周：2.5Y6/2灰黃。
372	金属製品 刀子	刀子	3区東	T-19	9	長さ 11.1			幅 1.2	厚さ 0.55	重量 7.82g		外周：回転ハラズ リ。山津波回転ナダ。 内面：回転ナダのち ナダ。直角工具によ る。内縫回転ナダ。	焼成：やや不 良。 密度：良。	石英、灰石、 石英、墨母 石英、墨母	外周：5Y6/1c。 内面：5Y6/1c。	
385	須志器 蓋	蓋	3区東	T-17	10	(20.0)			1.9			1/5	口縫部	焼成：良。 密度：良。	石英、粘晶片 石英、墨母 石英、墨母	外周：2.5YR5/6明 め。	
386	土師器 蓋	蓋	3区東	T-17	10 11 12	(13.9)			(14.4)	1.9		2/3	外周：ヨコナダ。底 部ヨコナダのちナ ダ。内面：ヨコナダ。	焼成：良。 密度：良。 内面に付着物 あり。	石英、粘晶片 石英、墨母 石英、墨母	外周：2.5YR5/6明 め。	

査定 番号	分類	名前	調査区	出土位置 (小グリッド)	層位	法量 (口幅)	法量 (頭幅・ 背幅)	法量 (最大幅)	法量 (器高)	法量 (底径)	法量 (最高部)	残存率	調整技法	特徴	含有物	色調
387	土師器 杯	3区東	T-17	10			17.0	2.85		5/6	外側：ヨコナダ。内側： シミガキ。 内面：ヨコナダ。	後成：良。 密度：良。 法量：0.1～ 5.5mm	石英、赤色斑 紋、青色斑 紋。	外側：5YR7/3に 赤色斑。 内面：5YR7/3に 赤色斑。		
388	土師器 杯	3区東	3区東	10	(15.0)			3.3	(11.6)		1/2	外側：ヨコナダ。底 部ヘタ切りのちナ ダ。 内面：ヨコナダ。底 部ナダ。	後成：良。 密度：良。 内外面に赤色 斑紋。反転復元。	石英、青色 斑。	外側：10YR6/2灰 黄。	
389	土師器 高杯	3区東	3区東	10	(15.8)			(4.6)		口縁部 1/6		外側：ヨコナダのち ヒヨオサエ。口縁部 ヨコナダ。 内面：ヨコナダ。	後成：良。 密度：良。 法量：0.1～ 3.0mm	石英、赤色斑 紋、青色斑 紋。	外側：7.5YR6/4に 赤色斑。 内面：30YR6/4に 赤色斑。	
390	土師器 保	3区東	T-17	10	16.1			2.5	12.9	完形		外側：ヨコナダ。底 部ナダ。 内面：ヨコナダ。底 部ヨコナダのちナ ダ。	後成：良。 密度：良。 内外面に赤色斑 紋。内外面に赤色 斑紋。	石英、硝晶片 岩、赤色斑。	外側：2.5YR6/2灰黃。 内面：2.5YR6/2灰黃。	
391	土師器 高杯 脚部	3区東	T-17	10				(8.8)		脚部1/2		外側：ヘラケツリの ヒヨオサエ。 内面：杯部ナダ。脚 部ヒヨオサエ。ユビ ナダ。	後成：良。 密度：良。 法量：0.1～ 2.1mm	石英、硝晶片 岩、赤色斑。	外側：5YR6/4に 赤色斑。	
392	土師器 亮	3区東	T-17	10	(27.7)			(5.6)		口縁部 1/8		外側：ヨコナダのち ハタ。 内面：口縁部ヨコナ ダ。	後成：良。 密度：良。 法量：0.1～ 5.5mm	石英、青色 斑。	外側：7.5YR6/3に 赤色斑。	
393	土師器 亮	3区東	T-18	10 12-13	(25.4)	(21.1)		(14.1)		1/7		外側：ユビナダの ちハケ（6系/2cm）。 内面：ヒヨオサエの ちハケ（3系/2cm）。 口縁部：底盤ハケ （6系/2cm）。	後成：良。 密度：良。 内外面にスヌ付 管。反転復元。	石英、長石。 硝晶片岩、赤 色斑。	外側：10YR6/2灰 黄。	
394	土師器 亮	3区東	T-17	10				(9.3)	(13.0)	体部1/4		外側：カキド（5系 cm）。底盤ナダ。 内面：ナダ。底盤ヒ ヨビサエ。	後成：良。 密度：良。 法量：0.1～ 5.0mm	石英、硝晶片 岩、底盤岩。 内外面に赤色斑 紋。反転復元。	外側：10YR7/3に 赤色斑。	
436	土師器 亮	3区東	T-17	12	(20.0)			2.33 天井 (16.0)		1/12	外側：ヨコナダ。底 盤ヒヨオサエヘタケ ツリ。 内面：ヨコナダ。底 盤ヨコナダのちナ ダ。	後成：良。 密度：良。 法量：0.1～ 6.0mm	石英、紫丹 法量：0.1～ 6.0mm	外側：N3/0灰灰。		
437	土師器 盖	3区東	T-18	12	(15.3)			(1.45)		口縁部 1/6		外側：ヘラケツリ。 口縁部ヨコナダ。 内面：ヨコナダ。	後成：良。 密度：良。 法量：0.1～ 8.0mm	石英、硝晶片 岩、青色 斑。	外側：5YR6/4に 赤色斑。	
438	土師器 杯	3区東	T-17	12	(13.7)			2.75	(11.5)	1/3	外側：ヨコナダ。底 盤ヘタ切りのちナ ダ。 内面：ヨコナダ。底 盤ヨコナダのちナ ダ。	後成：良。 密度：良。 内外面に赤色斑 紋。反転復元。	石英、硝晶片 岩、青色斑 紋。	外側：2.5YR6/2灰黃。 <td></td>		
439	土師器 保	3区東	T-18	12-13	(17.9)			2.4	(14.1)	1/4	外側：ヨコナダ。底 盤ヘタ切りのちナ ダ。 内面：ヨコナダ。底 盤ヨコナダのちナ ダ。	後成：良。 密度：良。 内外面に赤色斑 紋。内外面にスヌ付 管。斜み底盤かく。 反転復元。	石英、紫丹 法量：0.1～ 1.0mm	外側：7.5YR7/3に 赤色斑。		
440	土師器 杯	3区東	T-18	12-15	(13.0)			3.6	(11.6)	口縁部 1/4	外側：ヨコナダ。底 盤ヘタ切りのちナ ダ。 内面：ヨコナダ。	後成：良。 密度：良。 法量：0.1～ 1.0mm	石英、紫丹 法量：0.1～ 1.0mm	外側：5YR5/4に 赤色斑。		
441	土師器 杯	3区東	T-18	12	(12.6)			2.8	(8.4)	1/2	外側：ヨコナダ。底 盤ヘタ切りのちナ ダ。	後成：良。 密度：良。 法量：0.1～ 3.5mm	石英、硝晶片 岩、赤色斑。	外側：10YR6/2灰 黄。		
442	土師器 杯	3区東	T-18	12	13.0			3.1	8.6	完形	外側：ヨコナダ。底 盤ヘタ切りのちナ ダ。 内面：ヨコナダ。	後成：良。 密度：良。 内外面に赤色斑 紋。内外面にスヌ付 管。反転復元。	石英、硝晶片 岩、赤色斑。	外側：7.5YR8/2灰 黄。		

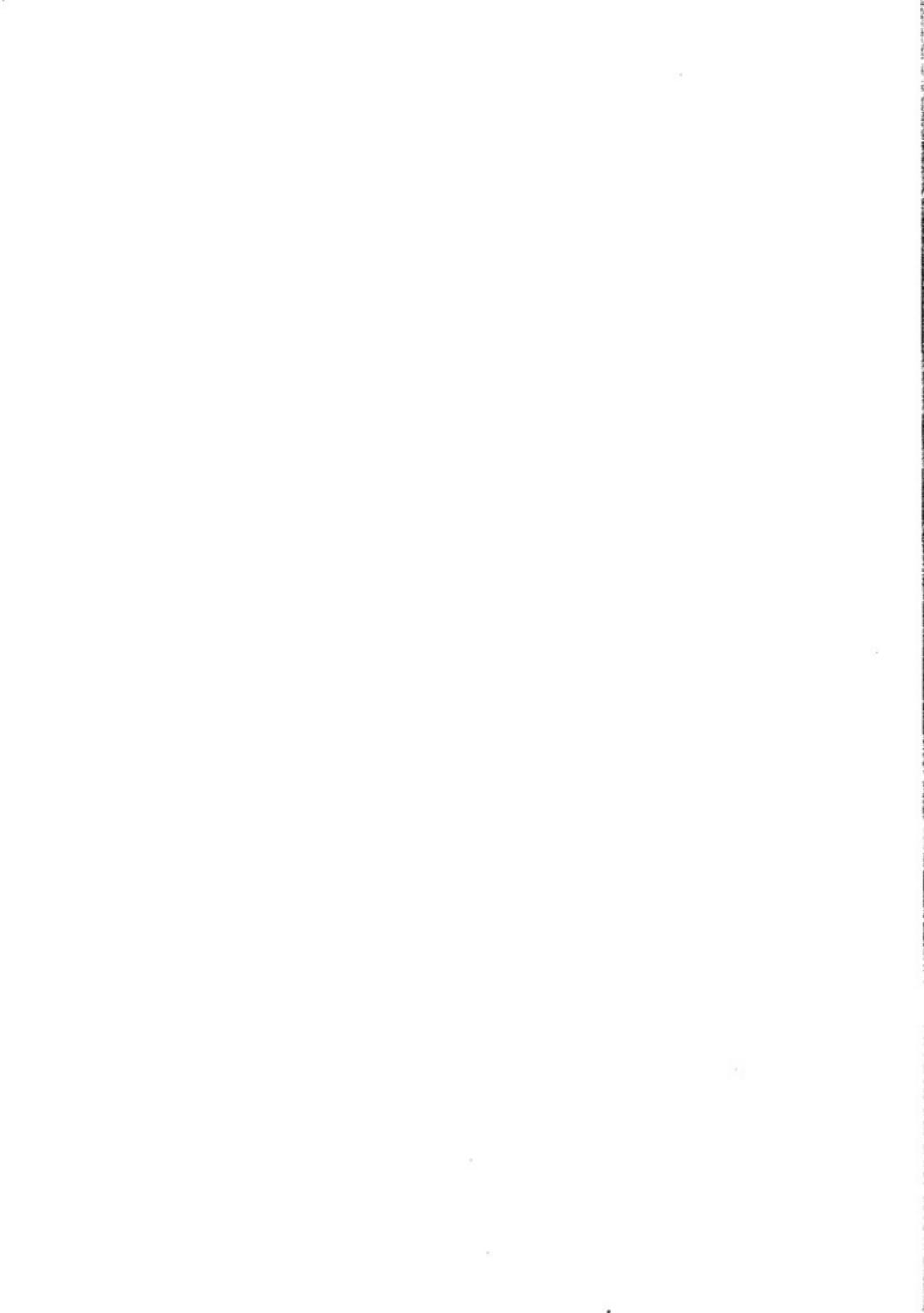
標記番号	分類	名称	調査区	出土位置 (小グリッド)	層位	法量 (口径)	法量 (脚径・ 脚厚)	法量 (底径)	法量 (高さ)	法量 (底面)	残存率	調整技法	特徴	含有物	色調	
443	土師器	杯	3区東	T-18	12	13.0		3.4	9.1			外削：ヨコナダ。底 部斜面へタ切りのち ナダ。内削：ヨコナダ。 内面：ヨコナダ。	施成：良。 密度：良。 表面：無。	石英、粘土質 陶器、雲母。	外削：7.5YR6/4に ぶい焼。	
444	土師器	杯	3区東	T-17	12	14.4		3.35	9.8		4/5	外削：ヨコナダ。底 部斜面へタ切りのち ナダ。内削：ヨコナダ。 内面：ヨコナダ。	施成：良。 密度：良。 表面：無。	石英、結晶片 陶器、雲母。	外削：7.5YR6/2灰 青。	
445	土師器	杯	3区東	T-17	12	13.0		3.3	8.3		2/3	外削：ヨコナダ。底 部斜面へタ切りのち ナダ。内削：ヨコナダ。	施成：良。 密度：良。	石英、粘土質 陶器、雲母。	外削：NS/0%。 内削：NS/0%。	
446	土師器	杯	3区東	T-19	12	12.6		3.6	8.3		2/3	外削：ヨコナダ。底 部斜面へタ切りのち ナダ。内削：ヨコナダ。 内面：ヨコナダ。	施成：良。 密度：良。	石英、結晶片 陶器、赤色陶器、 雲母。	外削：7.5YR7/3に ぶい焼。	
447	土師器	杯	3区東	T-19	12	13.3		3.65	8.0		完形	外削：ヨコナダ。底 部斜面へタ切りのち ナダ。内削：ヨコナダ。 内面：ヨコナダ。	施成：良。 密度：良。	石英、結晶片 陶器、赤色陶器、 雲母。	外削：7.5YR7/3に ぶい焼。	
448	土師器	杯	3区東	T-18	12	12.4		3.5	7.6		4/5	外削：ヨコナダ。底 部斜面へタ切りのち ナダ。内削：ヨコナダ。	施成：良。 密度：良。 口縁部凹面に スス付着。	石英、粘土質 陶器、赤色陶器、 雲母。	外削：10YR6/2灰 青。	
449	土師器	杯	3区東	T-19	12	13.0		3.3	8.4		4/5	外削：ヨコナダ。底 部へタ切りのちナ ダ。内削：ヨコナダ。	施成：良。 密度：良。	石英、結晶片 陶器、赤色陶器、 雲母。	外削：10YR6/2灰 青。	
450	土師器	杯	3区東	T-18	12	(12.8)		3.5	(8.5)		2/3	外削：ヨコナダ。底 部へタ切りのちナ ダ。内削：ヨコナダ。 内面：ヨコナダ。	施成：良。 密度：良。	石英、貴石、 雲母。	外削：2.5YR6/6灰 青。	
451	土師器	杯	3区東	T-18	12	15.7		5.2	8.7		3/4	外削：ヨコナダ。底 部凹面へタ切りのち ナダ。内削：ヨコナダ。	施成：やや少 量。密度：0.1~ 0.5mm。	石英、雲母。	外削：2.5Y7/3灰青。	
452	土師器	杯	3区東	T-19	12~13	16.0		4.85	8.6		9/10	外削：ヨコナダ。底 部へタ切りのちナ ダ。内削：ヨコナダ。 内面：ヨコナダ。	施成：良。 密度：良。 口縁部凹面に スス付着。	石英、結晶片 陶器、雲母。	外削：7.5YR7/2明 青。	
453	土師器	杯	3区東	T-18	12~15			(1.7)	(9.4)		表記1/5	外削：ヨコナダ。底 部へタ切りのちナ ダ。内削：ヨコナダ。	施成：良。 密度：良。	石英、粘土質 陶器、雲母。	外削：10YR7/2灰 青。	
454	土師器	杯	3区東	T-17	12			5.7	9.3	0.9	9/10	外削：ヨコナダ。底 部へタ切りのちナ ダ。内削：ヨコナダ。	施成：良。 密度：良。	石英、結晶片 陶器、雲母。	外削：10YR6/2灰 青。	
455	土師器	杯	3区東	T-18	12			(3.7)	8.55	1.1	底部充填	外削：ヨコナダのち ナダ。内削：ヨコナ ダ。内面：ヨコナダ。	施成：良。 密度：良。	石英、結晶片 陶器、雲母。	外削：2.5Y6/1黄灰。 内削：10YR5/1褐灰。	
456	土師器	杯	3区東	T-17	12				9.0	1.2	底面埋入	外削：底部ヨコナ ダ。内削：ヨコナ ダ。内面：ヨコナ ダ。	施成：良。 密度：良。	石英、貴石、 雲母。	外削：7.5YR6/3に ぶい焼。	
457	土師器	皿	3区東	T-18	12~15	(10.8)		1.5	(8.8)		1/4	外削：ヨコナダ。底 部斜面へタ切りのち ナダ。内削：ヨコナ ダ。	施成：良。 密度：良。	石英、結晶片 陶器、雲母。	外削：7.5YR7/3に ぶい焼。	
458	土師器	皿	3区東	T-17	12	(14.4)			1.6	(10.7)		1/4	外削：ヨコナダ。底 部斜面へタ切りのち ナダ。内削：ヨコナ ダ。	施成：良。 密度：良。	石英、貴石、 雲母。	外削：10YR6/2灰 青。

編號 番号	分類 名稱	調査区 名	出土位置 (小タリット)	層位	法量 (口徑)	法量 (横径、 鉛徑)	法量 (最大径)	法量 (器高)	法量 (底径)	法量 (臺面高)	残存率	調整技法	特徴	含有物	色調
458	土師器 盆	3区東	T-19	12	(16.8)		1.5	(12.4)			1/7	外側：ヨコナダ。底 部凹切。内側：ヨコナ ダ。	焼成：良。 密度：良。 灰化度：元。	石英、赤色鐵 鉱、雲母。 法量：0.1～ 2.0mm。	外側：7.5YR7/3に ぶい板。 内側：7.5YR7/3に ぶい板。
460	土師器 盆	3区東	T-17	12			(6.3)					外側：ヨコナダ。 内側：ヨコナダ。	焼成：良。 密度：良。 灰化度：元。	石英、雲母。 法量：0.1～ 5.0mm。	外側：不明。 内側：5Y7/1灰白。
461	瓦	3区東	T-17	12	(12.4)		3.25	(8.9)			口縁部 1/3	外側：回転ナダ。底 部凹切。内側：ヨコナ ダ。	焼成：良。 密度：良。 灰化度：元。	石英、長石。 粘土鉱物。 法量：0.1～ 1.5mm。	外側：N6/0灰。 内側：N6/0灰。
462	復原器 杯	3区東	T-17	12			(2.0)	(10.8)	0.45		口縁部 1/2	外側：回転ナダ。底 部凹切。内側：ヨコナ ダ。	焼成：良。 密度：良。 灰化度：元。	石英、長石。 粘土鉱物。 法量：0.1～ 5.0mm。	外側：2.5Y5/1灰灰。 内側：2.5Y5/1灰灰。
463	黑色土 器A類	3区東	T-18	12	14.6		5.0	7.8	0.9	2/3		外側：ヨコナダ。底 部凹切。内側：ヨコナ ダ。	焼成：良。 密度：良。 灰化度：元。	石英、粘土鉱 物、中性鐵、雲 母。	外側：10YR6/2灰黃 灰。 内側：N2/0灰。
464	土師器 壺	3区東	T-18	12	26.6	22.4					口縁部 3/4	外側：ハケ（6～7 cm）。1周部ナダ。 腹部ハクのちユビ ナダ。	焼成：良。 密度：良。 灰化度：元。	石英、赤色鐵 鉱、雲母。 法量：0.1～ 8.0mm。	外側：7.5YR6/1褐 灰。 内側：7.5YR6/1褐 灰。
465	土師器 壺	3区東	T-18	12	(22.4)	(18.6)		(2.9)			口縁部 1/10	外側：ハケ。口縁部 ナダ。余白あり。腹 部タクナ（5cm） のちユビナダ。	焼成：良。 密度：良。 灰化度：元。	石英、長石。 粘土鉱物、雲 母。	外側：2.5YR5/6明 褐色。 内側：2.5TR6/6棕 褐色。
466	土師器 壺	3区東	T-18	12	(16.4)	(15.6)	(17.4)	(6.4)			口縁部 1/4	外側：ハケ（5 cm）。口縁部ヨコナ ダ。内側：ナダ。腰部 ヨコナダ。底部ハケ （5cm）。	焼成：良。 密度：良。 灰化度：元。	石英、赤色鐵 鉱、雲母。 法量：0.1～ 2.0mm。	外側：5YR8/3赤灰。 内側：2.5YR7/4灰 褐色。
467	土師器 壺	3区東	T-18	12	残存径 (10.5)						外側：ハケ（5 cm）のちヨコナ ダ（5.0cm）。内側： ハク（5.0cm）のち ユビナダ。底部ハ ケ。	焼成：良。 密度：良。 灰化度：元。	石英、磷晶片 鉱、雲母。	外側：7.5YR5/4に ぶい板。 内側：7.5YR5/2灰 褐色。	
468	瓦	平瓦	3区東	T-18	12	残存径 (19.6)		残存幅 (9.8)	厚さ (3.5)			凹面：布目平底。 凸面：模壓文タキ。	焼成：良。 密度：良。	石英、磷晶片 鉱、雲母。 法量：0.1～ 7.0mm。	外側：N6/0灰白。 内側：N4/0灰。
469	土製品 十絆	3区東	T-18	12	長さ 7.2	孔径 1.35	幅 4.35	厚さ 4.2	重量 130.0g	完形		外側：ビオササ。 エビナダ（要領の め調査不明瞭）。	焼成：良。 密度：良。	石英、磷晶片 鉱、雲母。 法量：0.1～ 3.0mm。	外側：2.5Y6/2灰 褐色。
470	土製品 土鍼	3区東	T-18	12	長さ 5.0	孔径 0.73	幅 0.65	厚さ 1.65	重量 11.46g	完形	外側：ナダ。	焼成：良。 密度：良。	云母。	外側：7.5YR7/3に ぶい板。	
471	土製品 十絆	3区東	T-17	12	長さ 4.7	孔径 0.75	幅 2.15	厚さ 2.05	重量 19.33g	完形	外側：ナダ。	焼成：良。 密度：良。	石英、磷晶片 鉱。	外側：N6/0灰。	
472	金屬製 刀子	3区東	T-17	12	長さ (25.4)			幅 2.0	厚さ 1.6	納部分 の腐食		表面の状況： ややくらか。 木取：泥材。			
473	スラグ	3区東	T-18	12	長さ (3.25)		幅 (3.73)	厚さ (2.0)	重量 16.3g				石英。	外側：1SB（あお） 2.4/0くらいグレイ。 4Tr（あかみのだい だい）4.5/5赤みの グラウズ。	
479	土師器 杯	3区東	T-19	13	17.3		5.45	10.1	0.8	2/3		外側：ヨコナダ。底 部凹切。内側：ヨコナ ダ。	焼成：良。 密度：良。 灰化度：元。	石英、磷晶片 鉱、雲母。 法量：0.1～ 6.0mm。	外側：7.3YR7/4に ぶい板。 内側：7.3YR7/4に ぶい板。
499	復原器 瓦	3区東	T-17	14	(11.0)			1.5			1/6	外側：回転カクナ ド。底部凹切。内側： ヨコナダ。	焼成：やや不 良。密度：良。 灰化度：元。 反応後元。	石英、長石。 法量：0.1～ 6.0mm。	外側：N6/0灰。 内側：N6/0灰。

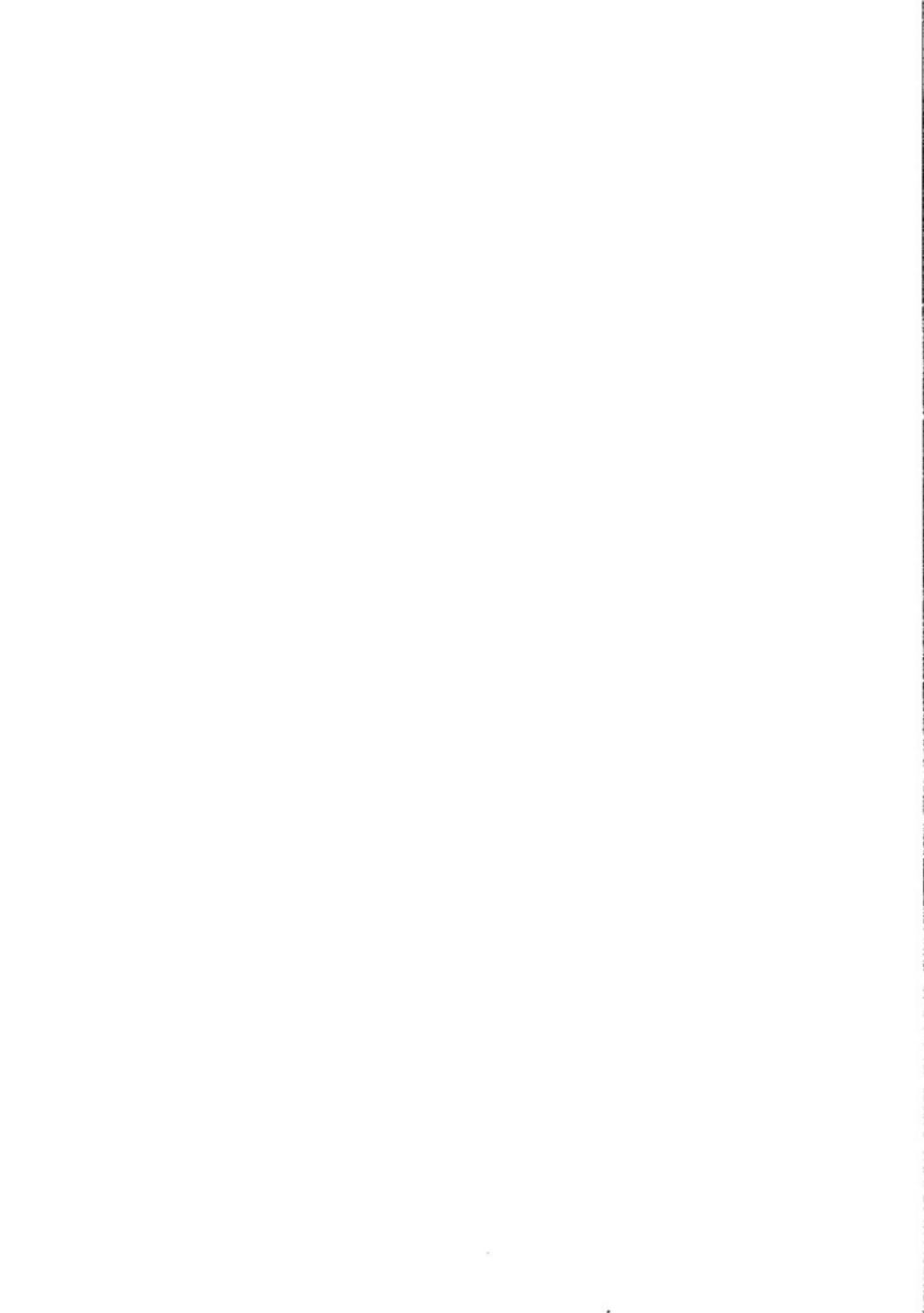
掘藏番号	分類	名稱	調査区	出土位置 (所グリッド)	層位	法量 (口径)	法量 (頸径・ 跨径)	法量 (最大径)	法量 (高さ)	法量 (底径)	法量 (重台面)	残存率	調整技法	特徴	含有物	色調	
500	土師器	杯	3区東	T-19	14	13.6			3.4	8.8		2/3	外縁：ヨコナダ。底 部四隅へラ切りのち ナダ。 内面：ヨコナダ。	焼成：良。 密度：良。 内面：ヨコナダ。	石英、結晶片 骨、赤色斑状 釉質、 法量：0.1~ 3.0cm ³	外縁：7.5YR6/4に ない程。 内面：7.5YR6/4に ない程。	
501	土師器	杯	3区東	T-19	14	15.7			5.2	8.9	0.65	ほぼ完形	外縁：ヨコナダ。底 部四隅ロカナダ。底部 ハラ切りのちナダ。 内面：ヨコナダ。底 部ナダ。	焼成：良。 密度：良。 外縁外周にス ズ付有。内面 付有。あり (スズ)。	石英、長石、 骨品片、石、墨 等。	外縁：2.5YR5/6明 帶。	
502	土師器	杯	3区東	T-19	14	(17.3)			4.5	(9.5)		1/4	外縁：ナダのちハラ ミカキ。ロカナダ。 内面：ヨコナダのち ナダ。底部ハラ切 り文。	焼成：良。 密度：良。 外縁復元。	石英、骨粉 法量：0.1~ 1.0cm ³	外縁：5YR5/4にぶ ない程。 内面：5YR6/6程。	
503	土師器	豆	3区東	T-19	14	(20.8)			2.45	(16.0)		2/5	外縁：ヨコナダ。底 部ハラ切りのちナ ダ。 内面：ヨコナダ。	焼成：良。 密度：良。 外縁復元。	石英、結晶片 骨、赤色斑状 釉質、 法量：0.1~ 3.0cm ³	外縁：10YR6/2灰 色。 内面：10YR6/1灰 色。	
504	土師器	豆(透 C型)	3区東	T-19	14	(22.1)	(26.6)		(6.5)			1/6	外縁：エビコサニの ルハケ。丁継連合口 ゴナダ。 内面：ヨコナダ。	焼成：良。 密度：良。 外縁にスズ付 有。外縁復元。	石英、赤色斑 状釉質、 法量：0.1~ 6.0cm ³	外縁：7.5YR3/1灰 色。 内面：7.5YR3/1灰 色。	
505	土師器	杯	3区東	T-18	15				(2.3)	(10.2)		1/8	外縁：ヨコナダ。底 部ハラ切りのちナ ダ。 内面：ヨコナダ。	焼成：良。 密度：良。 内面に炭化物 付有。	石英、結晶片 骨、赤色斑状 釉質、 法量：0.1~ 1.0cm ³	外縁：10YR4/1灰 色。 内面：2.5Y3/1黒燒。	
510	土師器	豆	3区東	T-19	15	(32.2)	(28.0)		(3.5)			1/7	外縁：丁継落ヨコ ナダ。裏部ヨコナ ダ。内面ヨコナ ダ。底部ロコナ ダ。	焼成：良。 密度：良。 内面にスズ付 有。外縁復元。	石英、結晶片 骨、赤色斑状 釉質、 法量：0.1~ 4.0cm ³	外縁：10YR7/3にぶ ない程。 内面：10YR8/2灰白。 4.5cm	
511	土師器	豆	3区東	T-18	15	(18.4)	(15.7)		(3.9)			1/5	外縁：ハケ(2.5 cm)。口部部ヨコナ ダ。内面ヨコナ ダ。底部ロコナ ダ。	焼成：良。 密度：良。 外縁復元。	石英、長石、 骨品片、石、墨 等。	外縁：10YR6/2灰 色。 内面：10YR6/2灰 色。	
512	土師器	豆(肥 手)	3区東	T-18	15	残存長 (2.6)			残存幅 (6.3)			把手部の みは把手形	外縁：エビコサニ ルハケ。 内面：作鉢工具でナ ダ。	焼成：良。 密度：良。 外縁復元。	石英、結晶片 骨、赤色斑状 釉質、 法量：0.1~ 4.0cm ³	外縁：5YR8/2灰白。	
513	金属性 品	鉄錠	3区東	S-18	15	長さ 9.5			3.4	WxS 0.6	重量 18.31g		錠身部：力強形・ 所面平凸・角凹。頭部： 無強・鑿部：有脊・斬闘方形				
519	土師器	高台 杯	E	T-19	A	(14.6)			4.7	7.9	1.4	1/2	外縁：ヨコナダ。底 部四隅へラ切りのち ナダ。 内面：ヨコナダ。底 部ヨコナダのちナ ダ。	焼成：良。 密度：良。 外縁復元。	石英、結晶片 骨、赤色斑状 釉質、 法量：0.1~ 3.2cm ³	外縁：7.5YR6/4に ない程。 内面：5YR5/4にぶ ない程。	
522	土師器	杯	E	T-19	B	(14.5)			3.9	9.1		1/2	外縁：ヨコナダ。底 部四隅へラ切りのち ナダ。 内面：ヨコナダ。底 部ヨコナダのちナ ダ。	焼成：良。 密度：良。 外縁復元。	石英、結晶片 骨、赤色斑状 釉質、 法量：0.1~ 2.0cm ³	外縁：2.5Y7/2灰黃。 内面：10YR6/4にぶ ない程。	
523	土師器	杯	E	T-19	B	(12.8)			4.1	(8.2)		1/4	外縁：ヨコナダ。底 部四隅へラ切りのち ナダ。 内面：ヨコナダ。	焼成：良。 密度：良。 外縁復元。	石英、結晶片 骨、赤色斑状 釉質、 法量：0.1~ 3.0cm ³	外縁：10YR4/2灰黃。 内面：2.5Y6/2灰黃。	
524	土師器	杯	E	T-19	B	12.6			3.5	7.7		3/4	外縁：ヨコナダ。底 部四隅へラ切りのち ナダ。 内面：ヨコナダ。	焼成：良。 密度：良。 外縁復元。	石英、結晶片 骨、赤色斑状 釉質、 法量：0.1~ 1.0cm ³	外縁：7.5YR7/3に ない程。	
529	土師器	杯	E	T-19	C	12.95			3.65	7.7		ほぼ完形	外縁：ヨコナダ。底 部四隅へラ切りのち ナダ。 内面：ヨコナダ。底 部ヨコナダのちナ ダ。	焼成：良。 密度：良。 外縁復元。	石英、結晶片 骨、赤色斑状 釉質、 法量：0.1~ 5.0cm ³	外縁：10YR5/3にぶ ない程。 内面：10YR7/3にぶ ない程。	
530	土師器	杯	E	T-19	C	13.6			3.9	8.2		3/5	外縁：ヨコナダ。底 部四隅へラ切りのち ナダ。 内面：ヨコナダ。	焼成：良。 密度：良。 外縁復元。	石英、長石、 骨品片、石、墨 等。	外縁：10YR8/1灰白。 内面：10YR8/1灰白。 2.6cm	

調査番号	分類	名前	調査区	出土位置 (小グリッド)	層位	法量 (口径)	法量 (頸・肩径)	法量 (最大径)	法量 (底高)	法量 (底厚)	法量 (溝合)	操作率	調整技法	特徴	含有物	色調
531	土器	高台付 杯	E	T-19	C	15.0		5.6	9.4	1.1	9/10	外側：ヨコナダ。底 部周縁へラ切りのち ナタ。斜付高台。 内面：ヨコナダ。底 部ヨコナダのちナ ダ。	底 部周縁へラ切りのち ナタ。斜付高台。 内面：ヨコナダ。底 部ヨコナダのちナ ダ。	底成：良。 密度：良。 表面：良。	石英、結晶片 云母原粒、 云母、 法量：0.1～ 4.0mm	外側：10YR7/3にぶ い黄緑。 内面：10YR7/3にぶ い黄緑。
536	土器	杯	E	T-19	D	(13.25)		3.8	7.2		1/4	外側：ヨコナダ。底 部周縁へラ切りのち ナタ。	底 部周縁へラ切りのち ナタ。	底成：良。 密度：良。 表面：良。	石英、結晶片 云母原粒、 云母、 法量：0.1～ 2.7mm	外側：10YR7/2にぶ い黄緑。 内面：10YR7/3にぶ い黄緑。
537	土器	杯	E	T-19	D	16.0		4.9	9.95		完形	外側：ヨコナダ。底 部周縁へラ切りのち ナタ。 内面：ヨコナダ。底 部ヨコナダのちナ ダ。	外側：ヨコナダ。底 部周縁へラ切りのち ナタ。 内面：ヨコナダ。底 部ヨコナダのちナ ダ。	底成：良。 密度：良。 表面：良。	石英、結晶片 云母原粒、 云母、 法量：0.1～ 5.5mm	外側：10YR6/2灰黃 色。 内面：5.5YR7/1明 灰。
538	土器	杯	E	T-19	F	12.9		3.4	7.9		完形	外側：ヨコナダ。底 部周縁へラ切りのち ナタ。 内面：ヨコナダ。底 部ヨコナダのちナ ダ。	外側：ヨコナダ。底 部周縁へラ切りのち ナタ。 内面：ヨコナダ。底 部ヨコナダのちナ ダ。	底成：良。 密度：良。 表面：良。	石英、長石、 鈣芒石片、青 銅原粒、雲母 法量：0.1～ 2.0mm	外側：2.5Y7/2灰黃 色。 内面：10YR6/2灰黃 色。
539	土器	杯	E	T-19	F	12.6		3.3	7.75		3/4	外側：ヨコナダ。底 部周縁へラ切りのち ナタ。 内面：ヨコナダ。	外側：ヨコナダ。底 部周縁へラ切りのち ナタ。 内面：ヨコナダ。	底成：良。 密度：良。 表面：良。	石英、雲母 法量：0.1～ 3.0mm	外側：5YRS/4灰綠。 内面：5.0mm
540	土器	杯	E	T-19	F	16.3		5.4	9.3		2/3	外側：ヨコナダ。底 部周縁へラ切りのち ナタ。 内面：ヨコナダ。底 部ヨコナダのちナ ダ。	外側：ヨコナダ。底 部周縁へラ切りのち ナタ。 内面：ヨコナダ。底 部ヨコナダのちナ ダ。	底成：良。 密度：良。 表面：良。	石英、結晶片 云母原粒、 云母、 法量：0.1～ 4.0mm	外側：7.5YR6/3に ぶい黄。 内面：7.5YR6/4に ぶい黄。
541	土器	杯	E	T-19	F	(30.4) (26.6)	(10.0)				1/8	外側：ハケ。口縁部 内面：ヨコナダ。底 部ヨコナダ。頭部ハ ケ。	外側：ハケ。(6系 ca.) 口縁部ヨコ ナダ。 内面：ヨコナダの ほか、(6系ca.) ユピ タヌクの跡のほか のもの跡のほか (6系ca.)。口縁部 ヨコナダ。頭部方 向ハケ(6系ca.)。	底成：良。 密度：良。 表面：良。	石英、閃長 岩、法量：0.1～ 4.0mm	外側：10YR4/1灰白 色。 内面：10YR7/2にぶ い黄。
542	土器	泡	E	T-19	F	(31.3) (20.4)		(7.4)			1/8	口縫一作 跡上層	外側：ヨコナダの ほか、(6系ca.) ユピ タヌクの跡のほか のもの跡のほか (6系ca.)。口縫部 ヨコナダ。頭部方 向ハケ(6系ca.)。	底成：良。 密度：良。 表面：良。	石英、赤色斑 点、雲母、原 石、法量：0.1～ 5.0mm	外側：10YR4/2灰黃 色。 内面：7.5YR4/2灰 色。
543	土器	杯	E	T-19	G	13.4		3.55	9.3		完形	外側：ヨコナダ。底 部周縁へラ切りのち ナタ。 内面：ヨコナダ。底 部ヨコナダのちナ ダ。	外側：ヨコナダ。底 部周縁へラ切りのち ナタ。 内面：ヨコナダ。底 部ヨコナダのちナ ダ。	底成：良。 密度：良。 表面：良。	石英、赤色斑 点、雲母、原 石、法量：0.1～ 7.0mm	外側：7.5YR6/4に ぶい黄。 内面：7.5YR6/4に ぶい黄。
544	土器	杯	E	T-19	G	12.8		3.65	8.4		4/5	外側：ヨコナダ。底 部周縁へラ切りのち ナタ。 内面：ヨコナダ。底 部ヨコナダのちナ ダ。	外側：ヨコナダ。底 部周縁へラ切りのち ナタ。 内面：ヨコナダ。底 部ヨコナダのちナ ダ。	底成：良。 密度：良。 表面：良。	石英、結晶片 云母原粒、 云母、 法量：0.1～ 7.7mm	外側：7.5YR6/4に ぶい黄。 内面：7.5YR6/4に ぶい黄。
545	土器	杯	E	T-19	G	13.6		3.2	9.1		完形	外側：ヨコナダ。底 部周縁へラ切りのち ナタ。 内面：ヨコナダ。底 部ヨコナダのちナ ダ。	外側：ヨコナダ。底 部周縁へラ切りのち ナタ。 内面：ヨコナダ。底 部ヨコナダのちナ ダ。	底成：良。 密度：良。 表面：良。	石英、結晶片 云母原粒、 云母、 法量：0.1～ 4.8mm	外側：2.5Y7/1灰白 色。 内面：10YR7/2にぶ い黄。
546	土器	杯	E	T-19	H	13.5		3.3	8.9		9/10	外側：ヨコナダ。底 部周縁へラ切りのち ナタ。 内面：ヨコナダ。底 部ヨコナダのちナ ダ。	外側：ヨコナダ。底 部周縁へラ切りのち ナタ。 内面：ヨコナダ。底 部ヨコナダのちナ ダ。	底成：良。 密度：良。 表面：良。	石英、雲母 法量：0.1～ 6.0mm	外側：2.5YR5/6灰 色。 内面：2.5YR5/6灰 色。
549	土器	杯	E	T-19	H	12.6		3.45	8.1		9/10	外側：ヨコナダ。底 部周縁へラ切りのち ナタ。	外側：ヨコナダ。底 部周縁へラ切りのち ナタ。	底成：良。 密度：良。 表面：良。	石英、結晶片 云母原粒、 云母、 法量：0.1～ 3.0mm	外側：2.5YR6/2灰 色。 内面：2.5YR6/3浅 青。
550	土器	杯	E	T-19	H	11.3		1.9	11.7		9/10	外側：ヨコナダ。底 部周縁へラ切りのち ナタ。	外側：ヨコナダ。底 部周縁へラ切りのち ナタ。	底成：良。 密度：良。 表面：良。	石英、結晶片 云母原粒、 云母、 法量：0.1～ 4.5mm	外側：5Y7/2灰白 色。 内面：5Y7/2灰白 色。

掲載番号	分類	名称	調査区	出土位置 (小グリッド)	層位	法量 (口径)	法量 (頸径+胸径)	法量 (最大径)	法量 (容積)	法量 (底径)	法量 (底面)	残存率	調整技法	特徴	含有物	色調
531	土製品	土錐	E	T-19	H	長さ 7.1	孔径 0.9	幅 3.7	厚さ 3.5	重量 75.76g	ほぼ完形	外観：ナチュラル。	焼成：良。 密度：良。	石英、結晶片 岩、赤色斑駁。 含母岩質。	法量：0.1~ 5.6mm	外面：2.5Y7/2灰黄。
532	土製品	土錐	E	T-19	H	長さ 6.0	孔径 0.8	幅 2.2	厚さ 2.05	重量 29.91g	完形	外観：ユビオサエ。 ナチュラル。	焼成：良。 密度：良。	石英、赤色斑 駁、含母岩質。	法量：0.1~ 2.0mm	外面：5Y7/1灰白。
533	土製品	土錐	E	T-19	H	長さ (4.65)	孔径 0.3	幅 1.2	厚さ 1.2	重量 5.32g	ほぼ完形	外観：ユビオサエの ナチュラル。	焼成：良。 密度：良。	石英、結晶片 岩、含母岩質。	法量：0.1~ 1.0mm	外面：10Y6/1灰。
534	土師器	(コナテ)	E	T-19	H				(2.1)	4.1	底部完形	外観：ヨコナテ。底 部斜めハラ切りのら ンダ。	焼成：良。 密度：良。	石英、結晶片 岩、赤色斑駁。 含母岩質。	法量：0.1~ 3.0mm	外面：10YR7/3にぶ れ、内面：10YR6/3にぶ れ、V面青。
535	土師器	杯	E	T-19	I	(12.9)			(3.6)	(8.7)	1/3	外観：ヨコナテ。底 部斜めハラ切りのら ンダ。	焼成：良。 密度：良。	石英、結晶片 岩、赤色斑駁。 含母岩質。	法量：0.1~ 3.0mm	外面：10YR7/3にぶ れ、内面：スヌ付 着、反転現象。
536	土製品	土錐	E	T-19	I	長さ 4.3	孔径 0.6	幅 1.45	厚さ (1.3)	重量 7.58g	4/5	外観：ユビオサエの ナチュラル。	焼成：良。 密度：良。	石英、結晶片 岩、含母岩質。	法量：0.1~ 2.5mm	外面：5Y5/1灰。
537	土製品	土錐	E	T-19	I	長さ (5.15)	孔径 0.75	幅 1.75	厚さ 1.65	重量 13.76g	ほぼ完形	外観：ナチュラル。(摩 擦のため調査不適)	焼成：良。 密度：良。	石英、結晶片 岩、赤色斑駁。 含母岩質。	法量：0.1~ 2.0mm	外面：2.5Y7/2灰青。



写真图版





柾串出土状況（3区東9層）



柾串出土状況（3区東9層）



人形出土状況（3区東8層）

圖版 2



矛串出土狀況（3區東9層）



題籠軸出土狀況
(3區東12層)



刀子出土狀況（3區東12層）

墨書土器出土狀況
(3 区東 8 層)



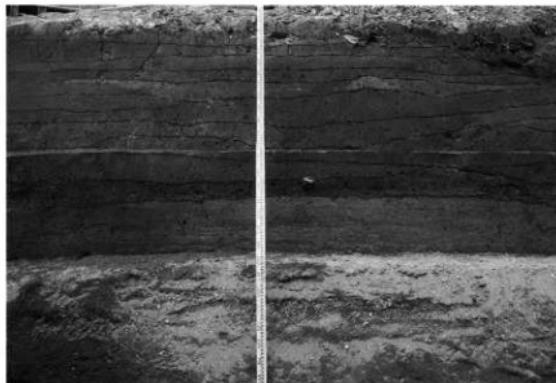
土器出土狀況 (3 区東 9 層)



土器出土狀況 (3 区西 11 層)



図版 4



3区東 北壁土層堆積状況

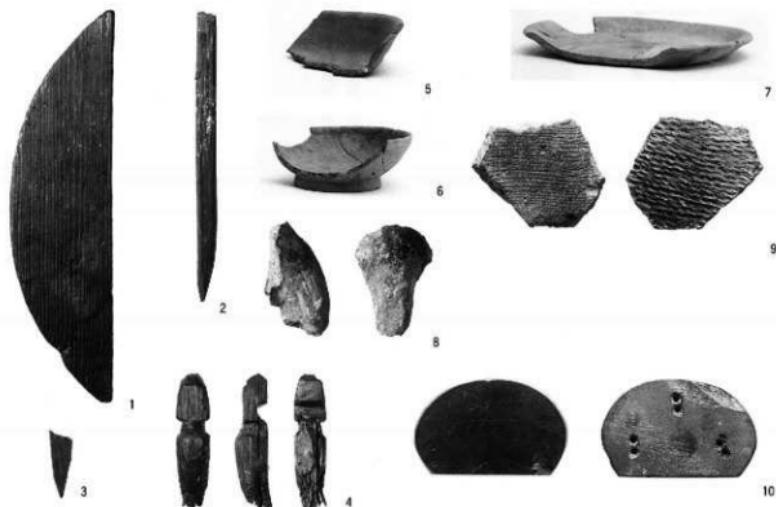


3区東 東壁土層堆積状況



3区東 完掘状況
(東から撮影)

図版 5

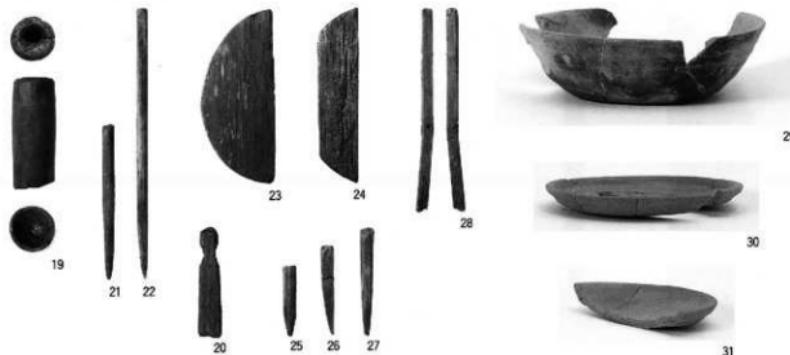


3区西5層 出土遺物

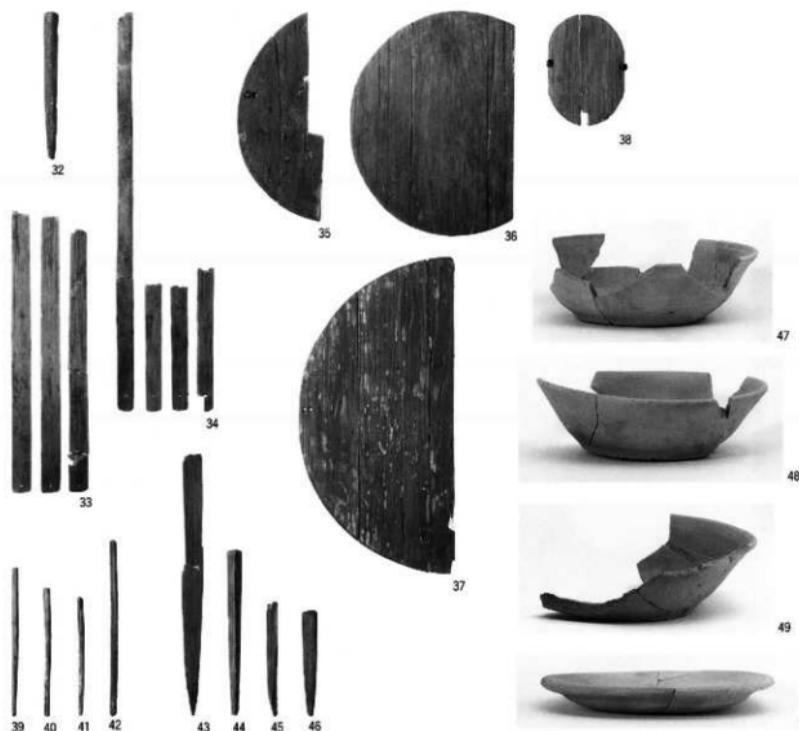


3区西6層 出土遺物

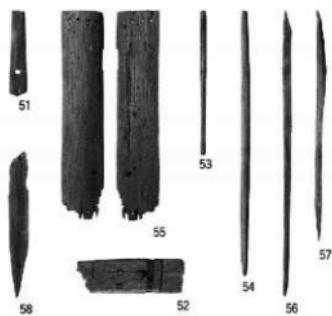
図版 6



3区西7層 出土遺物



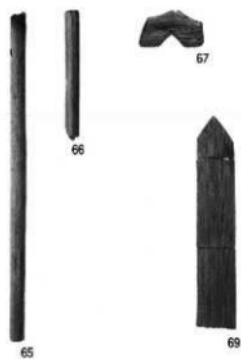
3区西8層 出土遺物



3区西9層 出土遺物



3区西10層 出土遺物



3区西11層 出土遺物(1)

図版 8



3区西11層 出土遺物(2)

図版 9



3区北6層 出土遺物

3区北9層 出土遺物



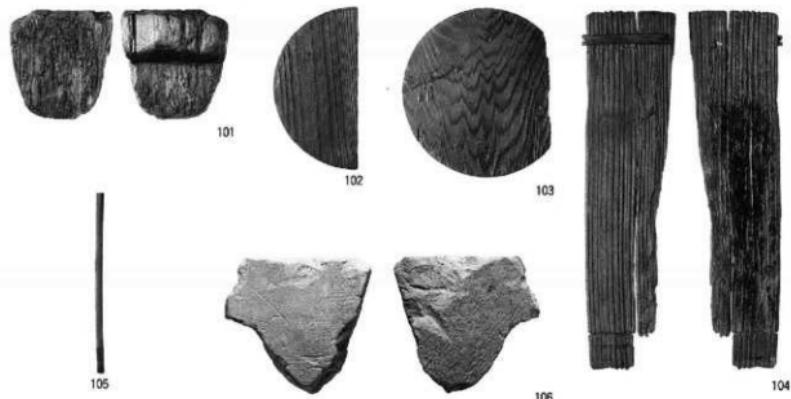
3区北7層 出土遺物



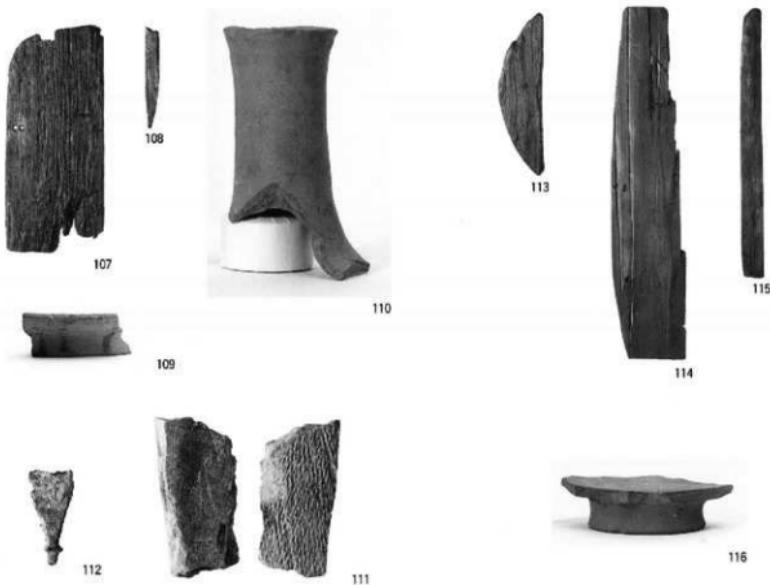
3区北8層 出土遺物

3区北11層 出土遺物

図版10



3区東3層 出土遺物



3区東5層 出土遺物

3区東6層 出土遺物